

右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ公告ス可シ

**第六百八十條** 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ得

右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

**第六百八十一條** 競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル總テノ不許ノ原因ナキコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調書ノ旨趣ニ牴觸シタルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得  
再審ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ依リ妨ケラルルコト無シ

**第六百八十二條** 抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ム可シ

一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ  
第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニモ亦之ヲ準用ス

**第六百八十三條** 執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所ノ裁判ハ執行裁判所之ヲ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ公告ス可シ

**第六百八十四條** 競落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落ヲ求メタル競買人ハ其競買ノ責務ヲ免カル

**第六百八十五條** 第六百七十八條ノ場合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許ササルトキハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ヲ準用ス

**第六百八十六條** 競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取得スルモノトス

**第六百八十七條** 競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡

アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメンコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ

債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

**第六百八十八條** 競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ

最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス

再競賣期日ハ少ナクトモ十四日後タル可シ

競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金、代金支拂期日ヨリ代金支拂マテノ利息及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハルコトヲ許サス且競買ノ保證ノ爲メ預ケタル金銭又ハ有價證券ノ返還ヲ求ムルコトヲ得ス

前ノ競落人ハ再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔ス

**第六百八十九條** 共有物持分ノ強制競賣ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ強制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其

強制競賣ノ申立ヲ通知ス可シ

最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

**第六百九十條** 競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル記入ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

**第六百九十一條** 競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

**第六百九十二條** 各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

**第六百九十三條** 代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

**第六百九十四條** 期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ



左ノモノヲ賣却代金トス

第一 代金

第二 不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定言渡ヨリ

代金支拂マテノ利息

第三 第六百八十八條第四項ノ場合ニ於テハ代金

支拂期日ヨリ代金支拂マテノ利息

第四 第六百八十八條第五項ノ場合ニ於テハ前ノ

競落人ヨリ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金額

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

第六百九十五條 裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者

ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

第六百九十六條 配當表ニハ賣却代金、各債權者ノ債

權ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ順位並ニ配當ノ割

合ヲ記載ス可シ

若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正

本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致シタルト

キハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

第六百九十七條 配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當

表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス

但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限

ニ在ラス

第六百九十八條 期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者

ノ債權ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ

異議ヲ申立ツル權利アリ

出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債

權者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ

債權ノ届出ヲ爲ササル抵當證券ノ所持人ノ債權又ハ

其順位ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シタル債務者又ハ他ノ

債權者ノ提起スヘキ訴ニ付テハ第六百九十七條ノ規

定ニ依リ準用セラルル第六百三十三條ノ期間ハ其所

持人ノ知レタル日ヨリ之ヲ起算ス

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五

百四十五條、第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ

規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

第六百九十九條 競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負

擔ヲ引受クル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ

滿ツルヲ限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ

支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債權者競落

人ナルトキハ其債權ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツ

ル限リハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅

ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ

債權ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代

金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

第七百條 配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當調査及

ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ

囑託ス可シ

第一 競落人ノ所有權ノ登記

第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹

消

第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入

ノ抹消

右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負

擔ス可シ

第七百一條 數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可

キ不動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用

ス

第七百二條 裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ

申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命

スルコトヲ得但入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段

ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百三條 入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出

ス可シ

入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 入札人ノ氏名及ヒ住所

第二 不動産ノ表示

第三 入札價額

第七百四條 執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封

シ之ヲ朗讀ス可シ

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシ

テ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價

額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許

サス

第七百五條 最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六

百六十四條ノ規定ニ依リ保證ヲ立テサルトキハ其次

位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場合ニ於

テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入

札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

第三款 強制管理

第七百六條 強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六

百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六

百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス

不動産カ債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フ



タル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動産ヲ債務者カ占有スルコトヲ疏明スル證書ヲ以テ足ル

**第七百七條** 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲スコトヲ命ス可シ

既ニ收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス  
開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

**第七百八條** 裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス  
假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

**第七百九條** 配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判

所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲スコシ

**第七百十條** 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者、債務者及ヒ管理人ニ通知ス可シ  
**第七百十一條** 管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取立ツル權ヲ授與スルモノトス  
**第七百十二條** 裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ業務施行ヲ監督ス可シ

裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

**第七百十三條** 第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

**第七百十四條** 管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ其不動産ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ扣除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作り其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシム可シ

**第七百十五條** 管理人ハ毎年及ヒ其業務施行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出ス可シ  
各債權者及ヒ債務者ハ計算書ヲ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス  
異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシム可シ

**第七百十六條** 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

此取消ハ各債權者不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス  
若シ管理續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得  
裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ強制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

**第三節 船舶ニ對スル強制執行**

**第七百十七條** 商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス  
端舟其他據擢ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ據擢ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス

**第七百十八條** 船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

**第七百十九條** 船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場



合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

第七百二十條 強制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添付ス可シ

第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ疏明スルニ足ル可キ證書

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アランコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第七百二十一條 裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス

若シ此處分ヲ續行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セザルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得

第七百二十二條 船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶

債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス

差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケス

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル責務ヲ免カル

第七百二十三條 船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セザルコトノ顯ハルルトキハ其ノ手續ヲ取消ス可シ

第七百二十四條 競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ケ可シ

第七百二十五條 定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ掲示板ニ掲示ス可キコトヲ囑託ス可シ

第七百二十六條 船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百二十七條 債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ

船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ證明書ヲ添付ス可シ

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ

差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス

第七百二十八條 船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

第七百二十九條 外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セザル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セス

第三章 金銭ノ支拂ヲ目的トセザル債權ニ付テノ強制執行

第七百三十條 債務者カ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ

第七百三十一條 債務者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭

シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債務者ニ引渡ス可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ

債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ

債務者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ扣除シタル後其代金ヲ供託ス可シ

第七百三十二條 引渡ス可キ物カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金銭債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ

第七百三十三條 民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アランコトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ



多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス

第七百三十四條 債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遅延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス

第七百三十五條 前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ

第七百三十六條 債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲スコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲スコキ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス

第四章 假差押及ヒ假處分

第七百三十七條 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十八條 假差押ハ之ヲ爲サレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十九條 假差押ノ命令ハ假ニ差押フ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示

請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ疏明ス可シ

申請ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得

第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

請求又ハ假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得

又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ

第七百四十二條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

第七百四十三條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メ債務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ

第七百四十四條 債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得

此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示ス可シ

異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス

第七百四十五條 異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出ス可シ

裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得

第七百四十六條 本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ訴ヲ起スコトヲ債權者ニ命ス可シ

此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ

第七百四十七條 債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假差押ヲ命シタル裁判所又ハ本案カ既ニ繫屬シタルトキハ本案ノ裁判所之ヲ爲ス

第七百四十八條 假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス



第七百四十九條 假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ許サス

右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十條 動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲スコシ

假差押ノ金錢ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ執達吏ニ命スルコトヲ得

第七百五十一條 不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

第七百五十六條 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十六條ノ二 假處分ヲ取消ス判決ハ財産權上ノ請求ニ關セサルモノニ付テモ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得

第七百五十七條 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十八條 裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

第七百六十條 假處分ハ争アル權利關係ニ付キ假ノ地

前項ノ執行ニ付テハ假差押ノ命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

第七百五十二條 假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

第七百五十三條 船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲ス

第七百五十四條 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ

假差押ノ續行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要ナル金額ヲ債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百五十五條 係争物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

第七百六十一條 急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得

此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百六十二條 本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限り控訴裁判所トス

第七百六十三條 急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限り裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

第七編 公示催告手續

第七百六十四條 請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限り之



ヲ爲スコトヲ得

公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百六十五條 公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲ス可ク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 申立人ノ表示

第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告

第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示

第四 公示催告期日ノ指定

第七百六十六條 公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲ス

裁判所相當ト認ムルトキハ新聞紙ニ公告ス可キコトヲ命スルコトヲ得

第七百六十七條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクトモ一个月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

トヲ要ス

第七百六十八條 公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權利決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百六十九條 除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十條 申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ爭フコトノ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可シ

第七百七十一條 申立人カ公示催告期日ニ出頭セザルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六個月ノ期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ許ス

第七百七十二條 公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第七百七十三條 裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條 除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ

第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ

第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セザルトキ

第四 判決ヲ爲ス刑事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除外セラレタルトキ

第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラス判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ願ミサルトキ

第六 第四百二十條第四號乃至第八號ノ場合ニ於テ再審ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

第七百七十五條 不服申立ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲

ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラザリシ場合ニ於テハ其期間ハ

不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル

除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五午ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

第七百七十六條 裁判所ハ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得

第七百七十七條 盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限りハ之ヲ適用ス

第七百七十八條 無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ

此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

第七百七十九條 公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其履行地ヲ表示セザルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判



所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス  
證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス  
第七百八十條 申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一 證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二 證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ疏明スルコト

第七百八十一條 公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届出テ且其證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可ク又失權トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲ス可キ旨ヲ表示ス可シ

第七百八十二條 公示催告ノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス

公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所トモ亦此公告ヲ揭示ス可シ

第七百八十三條 公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六個月ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス  
第七百八十四條 除權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣言ス可シ

除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルトキハ其判決ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

第七百八十五條 除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

第七百八十六條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ争ノ判斷ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限り其效力ヲ有ス

第七百八十七條 將來ノ争ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル争ニ關セサルトキハ其效力ヲ有セス

第七百八十八條 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定

ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

第七百八十九條 當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ

右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

第七百九十條 當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ羈束セラル

第七百九十一條 仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

第七百九十二條 當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得

此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其

責務ノ履行ヲ不當ニ遅延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得

無能力者、聾者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

第七百九十三條 仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲ササリシトキハ其效力ヲ失フ

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其責務ノ履行ヲ不當ニ遅延シタルトキ

第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ

第七百九十四條 仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限りハ争ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ

仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

第七百九十五條 仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得  
仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權



ナシ

第七百九十六條 仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲スコシ但其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ述フルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲ス權アリ

第七百九十七條 仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許スコカラサルコトヲ主張スルトキ殊ニ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セサルコト、仲裁契約カ判斷ス可キ争ニ關係セサルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ履行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ履行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

第七百九十八條 數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲スコキトキハ過半數ヲ以テ其判斷ヲ爲スコシ但シ仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七百九十九條 仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之ニ署名捺印ス可シ  
仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書

記録ニ之ヲ預ケ置ク可シ

第八百條 仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第八百一條 仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

第一 仲裁手續ヲ許スコカラサリシトキ

第二 仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲スコキ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ

第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ

第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セサリシトキ

第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セサリシトキ

第六 第四百二十條第四號乃至第八號ノ場合ニ於テ再審ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

第八百二條 仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以テ其許スコキコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘ

キ理由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百三條 執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ掲ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疏明シタルトキニ限ル

第八百四條 仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起スコシ

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ五午年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ許サス  
仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡スコシ

第八百五條 仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ許スコカラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有スコキ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス

前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

附則 (大正十五年法律第六十一號民事訴訟法 中改正法律附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和四年勅令 第五百五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

附則 (昭和六年法律第十七號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第六百四十三條ノ改正規定ハ地租法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和六年勅令 第八十九號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)

附則 (昭和十年法律第十五號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十年勅令 第八十九號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行)

附則 (昭和十三年法律第十九號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十三年勅令 第三百七十三號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行)



本法施行前ニ開始シタル強制執行ニ付テハ仍従前ノ例ニ依ル

民事訴訟法中改正法律施行法  
第一條 本法ニ於テ新法ト稱スルハ大正十五年民事訴訟法中改正法律ニ依ル改正規定ヲ謂ヒ舊法ト稱スルハ従前ノ規定ニ依ル

○民事訴訟法中改正法律施行法

(大正十五年四月二十四日) 法律第六十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル民事訴訟法中改正法律施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

民事訴訟法中改正法律施行法  
第一條 本法ニ於テ新法ト稱スルハ大正十五年民事訴訟法中改正法律ニ依ル改正規定ヲ謂ヒ舊法ト稱スルハ従前ノ規定

ヲ謂フ

第二條 新法ハ新法施行前ニ生シタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ舊法ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス

第三條 新法施行前ヨリ繫屬スル事件ニ付新法ニ依リ管轄權アル裁判所ハ舊法ニ依レハ管轄權ナキ場合ニ於テモ管轄權ヲ有ス

第四條 新法ニ依リ新二期間ヲ定メタル訴訟行爲ニシテ新法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其ノ期間ハ新法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第五條 新法第八十五條ノ規定ハ新法施行前同條ニ掲グル事由ヲ生シタル訴訟代理ニシテ新法施行前委任消滅ノ通知ヲ爲サザリシモノニモ之ヲ適用ス

第六條 新法施行前ヨリ繫屬スル訴訟ニ付テハ舊法ニ依リ訴訟費用ノ保證ヲ立ツル義務ナキ者ハ新法ニ依リ擔保ヲ供スルコトヲ要セス

第七條 新法施行前ヨリ進行ヲ始メタル法定期間及其ノ計算ハ舊法ニ依ル

第八條 新法施行前言渡シタル判決ニ對スル上訴ノ期間カ新法施行後進行ヲ始メタル場合亦前項ニ同シ

第九條 新法施行前ヨリ繫屬スル訴訟ニ付テハ特ニ裁判所ノ命シタル場合ニ限り新法ニ依リ準備手續ヲ爲ス

第十條 新法施行前舊法ニ依リテ罰金又ハ過料ニ處スヘキ行爲ヲ爲シタル者ニシテ新法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ新法ニ於テ過料ニ處スヘキ場合ニ限り新法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ舊法ノ罰金又ハ過料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條 新法施行前第一審裁判所又ハ控訴裁判所カ管轄權トシテ訴ヲ却下シタル場合ニ於テ上訴裁判所カ第一審裁判所ニ其ノ管轄權ヲシトスルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一審ノ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ要ス

第十二條 新法施行前抗告裁判所カ第一審裁判所ニ管轄權アリトスルトキハ事件ヲ其ノ裁判所ニ差戻スコトヲ要ス但シ第一審裁判所カ管轄權アリト爲シタル事件ニ付控訴裁判所カ管轄權トシテ訴ヲ却下シタル場合ニ於テハ上告裁判所ハ事件ヲ控訴裁判所ニ差戻スコトヲ得

第十三條 新法施行前抗告裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテハ仍舊法ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第十四條 新法施行前中間判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得

第十五條 新法施行前ヨリ繫屬スル證書訴訟及爲替訴訟ハ仍舊法ニ依リ之ヲ完結ス但シ訴訟カ新法施行ノ際第一審ニ繫屬スルトキハ新法施行ノ日ヨリ通常ノ手續ニ於テ繫屬スル



モノト看做ス

第十六條 故障ヲ許ササル開席判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得

第十七條 新法施行前請求ノ拋棄又ハ認諾ニ基キ判決ヲ求ムル申立アリタルトキハ仍舊法ニ依リ裁判ス新法施行前開席判決ノ申立アリタルトキ亦同シ

第十八條 新法施行前言渡シタル判決ニシテ舊法第四百二十二條ニ掲クルモノニ對シ控訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ仍舊法ノ規定ニ依ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和四年勅令第五百號ヲ以テ昭和四年十月一日ヨリ施行)

由ヨリモハ新法施行前ニシテ舊法第四百二十二條ニ掲クルモノニ對シ控訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ仍舊法ノ規定ニ依ル  
由ヨリモハ新法施行前ニシテ舊法第四百二十二條ニ掲クルモノニ對シ控訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ仍舊法ノ規定ニ依ル  
由ヨリモハ新法施行前ニシテ舊法第四百二十二條ニ掲クルモノニ對シ控訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ仍舊法ノ規定ニ依ル

○民事訴訟費用法(明治二十三年八月十六日)

改正 明治三十三年第三號、大正一〇年第六七號、大正一五年第六三號

民事訴訟費用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟費用法

第一條 民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナル限度ノ費用トシ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定ス

第二條 訴狀其他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付金五錢トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ  
圖面ハ一葉ニ付金二十錢トス但別ニ測量ヲ要シタルトキハ其測量費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第三條 翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付一圓トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同シ

第四條 民事訴訟用印紙法ニ從ヒ貼用シタル印紙ノ費額ハ其代價ニ依ル

第五條 執達吏ノ手数料及ヒ立替金ハ執達吏手数料規則ノ規定ニ從フ

第六條 郵便料、電信料及ヒ運送料ハ其實費ニ依ル  
第七條 官報、公報及ヒ新聞紙ヲ以テ公告シタル公告料ハ各

其定價ニ依ル

第八條 民事訴訟法第三百五條ノ規定ニ從ヒ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキ又ハ同法第二百六十二條若クハ第三百十條第一項ノ規定ニ從ヒ囑託ヲ爲シタルトキハ其報酬ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第九條 當事者及ヒ證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ二圓以內ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十條 (削除)

第十一條 鑑定人、通事及ヒ民事訴訟法第三百十條第二項ニ規定スル説明者ノ日當ハ出頭一度ニ付キ二圓乃至十圓ノ範圍內ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十二條 當事者、證人、鑑定人、通事及ヒ民事訴訟法第三百十條第二項ニ規定スル説明者ノ止宿料ハ一日五圓以內ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十三條 當事者、證人、鑑定人、通事及ヒ民事訴訟法第三百十條第二項ニ規定スル説明者ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通スル水路ニ在リテハ二等以下ノ汽車賃又ハ船賃ニシテ裁判所ノ相當ト認ムルモノニ依リ汽船ヲ通セサル水路ニ在リテハ一海里毎ニ五錢其他ニ在リテハ一里毎ニ三十錢トス但一海里未滿又ハ一里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第十四條 在ル當事者ノ旅費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十五條 判事及ヒ裁判所書記檢證ノ爲メ實地隨檢ヲ爲スニ付テノ旅費及ヒ止宿料ハ證人ニ準ス

第十六條 本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル

第十七條 強制執行及ヒ非訟事件ニ關ル費用ハ執達吏手数料規則ニ定メタルモノヲ除ク外前數條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算定ス

第十八條 強制執行又ハ非訟事件ニ關シテ保管人若クハ管理人ヲ任命シタルトキハ其費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十九條 證人、鑑定人、通事及ヒ民事訴訟法第三百十條第二項ニ規定スル説明者ノ日當、旅費、止宿料其他ノ費用ハ請求ニ因リ裁判所ノ支拂フ民事訴訟法第二百六十二條及ヒ第三百十條第一項ノ規定ニ依ル囑託ヲ受ケタル者ニ對スル報酬亦同シ

第二十條 當事者ノ費納ニ係ラサル費用ハ裁判ニ因リテ其費用ヲ負擔スヘキ者ヨリ裁判所ノ取立ツルコトヲ得

第二十一條 前項ノ規定ニ依ル費用ノ取立ハ第一審ノ受訴裁判所ノ決定ニ依リ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス其決定ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十二條 前項ノ規定ハ民事訴訟法第二百二十三條ノ規定ニ從ヒ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ相手方ヨリ裁判費用ノ取立ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 民事訴訟法第二百一一條及ヒ第二百二十二條ノ規定ニ依ル費用ノ取立ノ決定ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス其決定ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス



民事訴訟用印紙法

(明治二十三年八月十六日法律第六十五號)

改正 明治四三年第一五號、大正一五年第六四號、昭和六年第一八號

朕民事訴訟用印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟用印紙法

第一條 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應ジ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

- 同 十圓マテ 二十五錢
- 同 二十圓マテ 四十錢
- 同 五十圓マテ 八十錢
- 同 七十五圓マテ 一圓八十錢
- 同 百圓マテ 二圓五十錢
- 同 二百五十圓マテ 七圓
- 同 五百圓マテ 十二圓
- 同 七百五十圓マテ 十五圓
- 同 千圓マテ 十八圓
- 同 二千五百圓マテ 二十五圓
- 同 五千圓マテ 三十圓
- 同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ三圓ヲ加フ

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第二十二條第一項及ヒ第二十三條ノ規定ニ從フ

第三條 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條 本訴ト反訴ト其目的カ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第六條 支拂命令ノ申立ニシテ訴訟物ノ價額十圓以下ナル場合ニ於テハ二十圓ノ印紙ヲ、十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ第二條ニ依リ第一審ノ訴狀ニ貼用ス可キ印紙金額ノ半額ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第六條ノ二 左ニ掲ケル申立、申出又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十圓ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ四十圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 一 期日指定ノ申立
- 二 中斷又ハ中止シタル訴訟手續ノ受續ノ申立
- 三 民事訴訟法第六十四條ノ追加ノ申立
- 四 除斥又ハ忌避ノ申立

五 和解ノ申立

六 費用額確定ノ申立

七 假執行ニ關スル申立

八 強制執行ノ停止若クハ續行又ハ執行處分ノ取消ノ申立

九 配當要求

十 強制拍賣又ハ強制管理ノ申立

十一 債權又ハ他ノ財産權差押ノ申請

十二 民事訴訟法第七百三十二條乃至第七百三十四條ノ申立

第六條ノ三 左ニ掲ケル申立、申出又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ五十圓ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 一 抗告
- 二 故障
- 三 證據ノ申出
- 四 假差押又ハ假處分ノ申請
- 五 判決送達ノ申立
- 六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但二通以上ヲ求ムルトキハ一通毎ニ印紙ヲ貼用ス可シ
- 第七條 和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百五十六條第三項又ハ第四百四十二條ノ規定ニ依リ訴訟力繫屬スルトキハ第二條及ヒ第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ但第六條又ハ第十條ノ規定ニ依リ貼用シタル印紙ノ額ヲ通算ス
- 第八條 再審ヲ求ムルノ訴狀ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第九條 (削除)

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立、申出又ハ申請ニシテ訴訟物ノ價額又ハ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十圓ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ二十圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十一條 民事訴訟法第二百十條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書類ハ其效ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有效ナラシムルヲ得

第十二條 (削除)

第十三條 (削除)

第十四條 (削除)

第十五條 (削除)

第十六條 非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價額二十圓以下ナル場合ニ於テハ二十圓ノ印紙ヲ、二十圓ヲ超過スル場合ニ於テハ二十五圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ但第六條ノ三ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

- 一 裁判上代位ノ申請
  - 二 競賣法ニ依ル競賣ノ申立
  - 三 競賣法ニ依ル競賣又ハ不動産登記ニ關スル抗告
  - 四 抵當證券法ニ依ル異議ノ申立及ヒ同法第三十二條第一項ノ規定ニ依ル許可ノ申請
- 非訟事件ニ關スル申立又ハ申請ニシテ請求ノ價額ナキモノ



ハ其請求ノ價額二十圓以下ノモノト看做ス  
第十一條ノ規定ハ之ヲ非訟事件ニ準用ス

○民事訴訟法ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定

(明治二十四年一月七日)  
勅令 第三三號

改正 明治二五年第六號、明治四一年第一六〇號、  
同年第三〇三號、明治四二年第一六六號、明  
治四三年第九號、大正一五年第六六號

朕民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定ヲ裁  
可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 各省、内閣印刷局、樺太廳、北海道廳及府縣廳ハ其  
所管又ハ監督スル事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス  
第二條 各省大臣ハ省令ヲ以テ所屬特別地方機關中其司掌事  
務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルモノヲ定ムルコトヲ得  
第三條 前二條ノ場合ニ於テ國ヲ代表シ訴訟ヲ爲スモノハ各  
官廳ノ長官又ハ長官ノ指定シタル所屬官吏トス  
第四條 官廳其他特別ノ勅令ヲ以テ民事訴訟ニ付國ヲ代表ス  
ル者ヲ定メタルトキハ本令ニ依リノ限ニ在ラス

○人事訴訟手續法(明治三十一年六月二十一日)

改正 大正一五年第六六號、昭和一七年第七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル人事訴訟手續法ヲ裁可シ茲  
ニ之ヲ公布セシム

人事訴訟手續法

第一章 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續

第一條 婚姻ノ無效若クハ取消、離婚又ハ夫婦ノ同居  
ヲ目的トスル訴ハ夫カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其  
死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專  
屬ス但縁組事件ニ附帶シテ婚姻ノ取消又ハ離婚ノ請  
求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ普通裁判籍ハ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ  
住所ノ知レサルトキハ居所ニ依リ居所ナキトキ又ハ  
居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マル  
最後ノ住所ナキトキ又ハ住所ノ知レサルトキハ司法  
省令ヲ以テ指定シタル地ヲ住所トス

第二條 夫婦ノ一方カ提起スル婚姻ノ無效又ハ取消ノ  
訴ニ於テハ其配偶者ヲ以テ相手方トス

人事訴訟手續法 婚姻事件及ヒ養子縁組事件ニ關スル手續

非訟事件ニ關スル申立又ハ申訴ニハ本令ニ依リテ提起スルモノ  
一、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
二、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
三、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
四、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
五、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
六、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
七、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
八、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
九、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
十、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
十一、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
十二、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
十三、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
十四、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
十五、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
十六、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
十七、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
十八、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
十九、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ  
二十、前項ノ規定ニ依リテ提起スルモノ

第三條 無能力者カ婚姻ノ無效若クハ取消、離婚又ハ  
同居ニ關スル訴訟行爲ヲ爲スニハ其法定代理人、保  
佐人又ハ夫ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス  
第四條 無能力者カ前項ノ訴訟行爲ヲ爲サントスルトキハ受  
訴裁判所ノ裁判長ハ申立ニ因リ辯護士ヲ訴訟代理人  
ニ選任スルコトヲ要ス  
無能力者カ前項ノ申立ヲ爲ササルトキト雖モ受訴裁  
判所ノ裁判長ハ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任スヘキ旨  
ヲ命シ又ハ職權ヲ以テ其選任ヲ爲スコトヲ得  
前條第五項ノ規定ハ受訴裁判所ノ裁判長カ辯護士ヲ



訴訟代理人ニ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條 夫婦ノ一方カ禁治産者ナルトキハ其後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

禁治産者ノ配偶者カ其後見人ナルトキハ後見監督人ハ親族會ノ同意ヲ得テ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第五條 婚姻事件ニ付テハ檢事ハ辯論ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ要ス

檢事ハ受命判事又ハ受託判事ノ審問ニ立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得

事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル場合ニ於テハ其氏名及ヒ申立ヲ調書ニ記載スヘシ

第六條 檢事ハ當事者ト爲ラザルトキト雖モ婚姻ヲ維持スル爲メ事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

第七條 婚姻ノ無効ノ訴、其取消ノ訴、離婚ノ訴及ヒ同居ノ訴ハ之ヲ併合シ又ハ反訴トシテ之ヲ提起スルコトヲ得

他ノ訴ハ之ヲ前項ノ訴ニ併合シ又ハ其反訴トシテ提起スルコトヲ得

但扶養ノ請求、訴ノ原因タル事實ニ因リテ生シタル損害賠償ノ請求及ヒ民法ノ規定ニ依リ婚姻事件ニ附帯シテ爲スコトヲ得ル縁組ノ取消又ハ離婚ノ請求ハ此限ニ在ラス

第八條 婚姻事件ニ付テハ第一審又ハ控訴審ニ於ケル辯論ノ終結ニ至ルマテ訴若クハ其事由ヲ變更シ、之ヲ併合シ又ハ反訴ヲ提起スルコトヲ得

第九條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ棄却ノ言渡ヲ受ケタル原告ハ訴若クハ其事由ノ變更又ハ併合ニ依リ主張スルコトヲ得

テ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

被告ハ反訴ノ事由トシテ主張スルコトヲ得

事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第十條 民事訴訟法第三百二十九條、第四百十條第二項、第二百五十五條、第三百十六條及ヒ第三百十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス

同法第二百三條申請求ノ認諾ニ關スル規定亦同シ

裁判上ノ自白ニ關スル法則ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス

第十一條 婚姻事件ノ被告カ第一審ニ於ケル最初ノ辯論ノ期日ニ出頭セザルトキハ更ニ其期日ヲ定ムルコトヲ要ス

但被告カ公示送達ニ依リテ呼出ヲ受ケタル場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ反訴ノ被告ニ之ヲ適用ス

第十二條 裁判所ハ婚姻事件ニ付キ當事者ニ自身出頭

ヲ命シ當事者又ハ檢事カ提出シタル事實ニ付キ訊問ヲ爲スコトヲ得

當事者カ出頭スルコト能ハサルトキ又ハ遠隔ノ地ニ在ルトキハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

出頭セサル當事者ニハ出頭セサル證人ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第十三條 和諧ノ調フヘキ見込アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ一回ニ限り一年ヲ超エサル期間離婚ノ訴ニ關スル手續ヲ中止スルコトヲ得

第十四條 裁判所ハ婚姻ヲ維持スル爲メ職權ヲ以テ證據ヲ爲シ且當事者カ提出セザル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

但其實事及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ

第十五條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ヲ言渡シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第十六條 扶養若クハ同居ノ義務、子ノ監護其他ノ假處分ニ付テハ民事訴訟法第七百五十六條乃至第七百六十三條ノ規定ヲ準用ス

第十七條 檢事カ敗訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫ノ負擔トス

第八條 婚姻事件ニ付テハ第一審又ハ控訴審ニ於ケル辯論ノ終結ニ至ルマテ訴若クハ其事由ヲ變更シ、之ヲ併合シ又ハ反訴ヲ提起スルコトヲ得

第九條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ノ訴ニ付キ棄却ノ言渡ヲ受ケタル原告ハ訴若クハ其事由ノ變更又ハ併合ニ依リ主張スルコトヲ得

テ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

被告ハ反訴ノ事由トシテ主張スルコトヲ得

事實ニ基キテ獨立ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第十條 民事訴訟法第三百二十九條、第四百十條第二項、第二百五十五條、第三百十六條及ヒ第三百十七條ノ規定ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス

同法第二百三條申請求ノ認諾ニ關スル規定亦同シ

裁判上ノ自白ニ關スル法則ハ婚姻事件ニ之ヲ適用セス

第十一條 婚姻事件ノ被告カ第一審ニ於ケル最初ノ辯論ノ期日ニ出頭セザルトキハ更ニ其期日ヲ定ムルコトヲ要ス

但被告カ公示送達ニ依リテ呼出ヲ受ケタル場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ反訴ノ被告ニ之ヲ適用ス

第十二條 裁判所ハ婚姻事件ニ付キ當事者ニ自身出頭

ヲ命シ當事者又ハ檢事カ提出シタル事實ニ付キ訊問ヲ爲スコトヲ得

當事者カ出頭スルコト能ハサルトキ又ハ遠隔ノ地ニ在ルトキハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

出頭セサル當事者ニハ出頭セサル證人ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第十三條 和諧ノ調フヘキ見込アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ一回ニ限り一年ヲ超エサル期間離婚ノ訴ニ關スル手續ヲ中止スルコトヲ得

第十四條 裁判所ハ婚姻ヲ維持スル爲メ職權ヲ以テ證據ヲ爲シ且當事者カ提出セザル事實ヲ斟酌スルコトヲ得

但其實事及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ

第十五條 婚姻ノ無効若クハ取消又ハ離婚ヲ言渡シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第十六條 扶養若クハ同居ノ義務、子ノ監護其他ノ假處分ニ付テハ民事訴訟法第七百五十六條乃至第七百六十三條ノ規定ヲ準用ス

第十七條 檢事カ敗訴シタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ國庫ノ負擔トス



當事者ノ一人カ上訴ヲ爲ストキハ前審ノ他ノ當事者及ヒ當事者タリシ檢事ヲ以テ相手方トス

第二十四條 養子縁組ノ無効若クハ取消又ハ離縁ノ目的トスル訴ハ養親カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス但婚姻事件ニ附帯シテ縁組ノ取消又ハ離縁ノ請求ヲ爲ス場合ハ此限ニ在ラス

第二十五條 養親カ禁治産者ナルトキハ第四條第一項ノ規定ヲ準用ス

養子カ禁治産者ナルトキハ實方ノ直系尊屬又ハ實家ノ戸主ハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條 第一條第二項、第三項、第二條、第三條及ヒ第五條乃至第十八條ノ規定ハ養子縁組事件ニ之ヲ準用ス

第二章 親子關係事件、相続人廢除事件及ヒ隱居事件ニ關スル手續

第二十七條 子ノ否認、認知、其認知ノ無効若クハ取消又ハ民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二十八條 夫カ禁治産者ナルトキハ其後見人ハ親族

會ノ同意ヲ得テ否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第二十九條 夫カ子ノ出生前又ハ否認ノ訴ヲ提起セスシテ民法第八百二十五條ノ期間内ニ死亡シタルトキハ其子ノ爲メニ相続權ヲ害セラルヘキ者其他夫ノ三親等内ノ血族ニ限り否認ノ訴ヲ提起スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テハ否認ノ訴ハ夫ノ死亡ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

夫カ否認ノ訴ヲ提起シタル後死亡シタルトキハ第一項ニ掲ケタル者ニ於テ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ得

第二十九條ノ二 子ノ認知ノ訴ニ於テハ父又ハ母ヲ以テ相手方トス

第三十條 父ヲ定ムルコトヲ目的トスル訴ハ子、母、母ノ配偶者又ハ其前配偶者ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ハ互ニ其相手方ト爲ル子又ハ母カ提起スル第一項ノ訴ニ於テハ母ノ配偶者及ヒ其前配偶者ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第三十一條 親權若クハ財産管理權ノ喪失又ハ失權ノ取消ヲ目的トスル訴ハ親權ヲ行フ者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十二條 失權ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ現ニ

證據方法ヲ提出スルコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シ且當事者カ提出セサル事實ヲ斟酌スルコトヲ得但其事實及ヒ證據調ノ結果ニ付キ當事者ヲ訊問スヘシ

第三十八條 本章ニ掲ケタル訴ニ付キ原告ノ申立ニ相當スル言渡ヲ爲シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第三十九條 第一條第二項、第三項、第三條、第五條、第七條第二項、第十條乃至第十二條及ヒ第十六條乃至第十八條ノ規定ハ本章ニ掲ケタル訴ニ之ヲ準用ス

第二條第三項ノ規定ハ子ノ認知ノ訴ニ之ヲ準用ス

第七條第一項、第八條及ヒ第九條ノ規定ハ第三十一條、第三十三條及ヒ第三十五條ニ掲ケタル訴、子ノ認知ノ無効ノ訴及ヒ其取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二十一條乃至第二十三條ノ規定ハ親權又ハ財産管理權ノ喪失ヲ目的トスル訴及ヒ隱居ノ取消ノ訴ニ之ヲ準用ス

第二條第三項乃至第五項ノ規定ハ第三十條第二項、第三項、第三十四條及ヒ第三十六條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章 禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル手續

親權若クハ管理權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ相手方トス

第三十三條 推定家督相続人若クハ推定遺產相続人ノ廢除又ハ其廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ハ被相続人カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十四條 廢除ノ取消ヲ目的トスル訴ニ付テハ廢除ニ因リテ推定家督相続人又ハ推定遺產相続人ト爲リタル者ヲ以テ相手方トス

第三十五條 隱居ノ無効又ハ取消ヲ目的トスル訴ハ隱居者カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第三十六條 隱居者カ提起スル隱居ノ無効又ハ取消ノ訴ニ於テハ家督相続人ヲ以テ相手方トス

家督相続人カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ隱居者ヲ以テ相手方トス

隱居者及ヒ家督相続人ニ非サル者カ提起スル第一項ノ訴ニ於テハ隱居者及ヒ家督相続人ヲ以テ相手方トシ其一人カ死亡シタル後ハ其生存者ヲ以テ相手方トス

第三十七條 檢事ハ本章ニ掲ケタル訴ニ付キ事實及ヒ

人事訴訟手續法

禁治産及ヒ準禁治産ニ關スル手續

一〇五



第四十條 禁治産ノ申立ハ禁治産ノ宣告ヲ受クヘキ者

カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項ノ規定ハ前項ノ裁判籍ニ之ヲ準用ス

第四十一條 妻カ夫ノ禁治産ノ申立ヲ爲スニハ夫ノ許

可ヲ受クルコトヲ要セス

第四十二條 申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコト

ヲ得

申立ニハ其原因タル事實及ヒ證據方法ヲ表示スヘシ

第四十三條 裁判所ハ禁治産ノ手續ノ開始前診斷書ノ

提出ヲ命スルコトヲ得

第四十四條 禁治産ノ手續ハ之ヲ公行セス

第四十五條 檢事ハ他ノ者カ禁治産ノ申立ヲ爲シタル

場合ニ於テモ申立ヲ爲シテ其手續ヲ追行シ且期日ニ

立會ヒテ意見ヲ述フルコトヲ得

事件及ヒ期日ハ檢事ニ之ヲ通知シ檢事カ立會ヒタル

場合ニ於テハ其氏名及ヒ申立ヲ調査ニ記載スヘシ

第四十六條 裁判所ハ申立ニ表示シタル事實及ヒ證據

方法ヲ斟酌シ職權ヲ以テ心神ノ狀況ニ關スル探知及

ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

民事訴訟法第二編第一章第三節第二款及ヒ第三款ノ

規定ハ證人及ヒ鑑定人ノ訊問ニ之ヲ準用ス

第四十七條 裁判所ハ鑑定人ノ立會ヲ以テ禁治産ノ宣

告ヲ受クヘキ者ヲ訊問スヘシ但其訊問ヲ爲シ難キト

キ又ハ其者ノ健康ニ害アルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ訊問ハ受託判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ

得

第四十八條 禁治産ノ宣告ハ心神ノ狀況ニ付キ鑑定人

ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條 禁治産ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治

産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ禁治産者ノ負擔ト

ス

前項ノ場合ヲ除ク外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス

但檢事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔ト

ス

第五十條 裁判所ハ禁治産ノ宣告ヲ爲スニ至ルマテ其

宣告ヲ受クヘキ者ノ監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必

要ナル處分ヲ命スルコトヲ得禁治産ノ宣告ヲ爲シタ

ル後其處分ヲ必要ト認ムルトキ亦同シ

第五十一條 禁治産ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ

以テ之ヲ申立人及ヒ檢事ニ送達スヘシ

禁治産ヲ宣告シタル決定ハ職權ヲ以テ申立人、檢事

及ヒ禁治産者ノ法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト

爲ルヘキ者ニ之ヲ送達スヘシ

第五十二條 禁治産ヲ宣告シタル決定ハ禁治産者ノ法

定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者カ其送

達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生ス

法定代理人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ナキ

場合ニ於テハ檢事カ送達ヲ受ケタル日ヨリ效力ヲ生

ス

第五十三條 裁判所ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ送達

シタルトキハ直チニ之ヲ公告スヘシ

第五十四條 申立人及ヒ檢事ハ禁治産ノ申立ヲ却下シ

タル決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十三條乃至第四十六條ノ規定ハ抗告裁判所ノ手

續ニ之ヲ準用ス

第五十五條 民法ノ規定ニ依リテ禁治産ノ申立ヲ爲ス

コトヲ得ル者ハ其宣告ニ對シ一个月内ニ訴ヲ以テ不

服ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ期間ハ禁治産者ニ對シテハ禁治産ノ宣告ヲ知

リタル日ヨリ之ヲ起算シ其他ノ者ニ對シテハ決定カ

效力ヲ生シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第五十六條 前條第一項ノ訴ハ禁治産ノ宣告ヲ爲シタ

ル區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ

專屬ス

第五十七條 第五十五條第一項ノ訴ニ於テハ禁治産ノ

申立人ヲ以テ相手方トス

禁治産ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方

トシ檢事カ提起スル前項ノ訴ニ於テハ禁治産者ノ法

定代理人ヲ以テ相手方トス

第五十八條 第五十五條第一項ノ訴ニハ他ノ訴ヲ併合

シ又ハ之ニ對シテ反訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條 第二條第四項、第五項、第三條、第五條、

第十條、第十一條、第十七條、第四十七條及ヒ第四

十八條ノ規定ハ第五十五條第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十條 裁判所カ第五十五條第一項ノ訴ヲ理由アリ

ト認ムルトキハ禁治産ヲ宣告シタル決定ヲ取消スヘ

シ此場合ニ於テハ判決ノ確定ニ至ルマテ禁治産者ノ

監護又ハ其財産ノ保存ニ付キ必要ナル處分ヲ命スル

コトヲ得

第六十一條 禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ後見人カ爲

シタル行爲ハ其效力ヲ變セス

禁治産ノ宣告ノ取消前ニ於テ禁治産者カ爲シタル行

爲ハ禁治産ヲ宣告シタル決定ニ基キテ之ヲ取消スコ



トヲ得ス

第六十二條 禁治産ノ宣告ヲ取消シタル判決ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘシ  
前項ノ判決カ確定シタルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ公告スヘシ

第六十三條 禁治産ノ原因止ミタルコトヲ理由トシテ其宣告ノ取消ヲ求ムル申立ハ禁治産者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項及ヒ第四十二條乃至第四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十四條 前條第一項ノ申立ニ關スル手續ノ費用ハ禁治産ノ宣告ノ取消アリタル場合ニ於テハ禁治産者ノ負擔トス

前項ノ場合ヲ除外手續ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但檢察カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第六十五條 禁治産ノ取消ノ申立ヲ却下シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人ニ送達スヘシ

禁治産ヲ取消シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ申立人、檢察及ヒ禁治産者ニ送達スヘシ第六十二條第二項ノ規定ハ此決定ニ之ヲ準用ス

檢察ハ前項ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス  
第六十六條 禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ其申立ヲ却下シタル決定ニ對シテ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第五十六條乃至第六十條、第六十一條第一項及ヒ第六十二條ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第六十七條 準禁治産ニ關スル手續ニハ本章ノ規定ヲ準用ス

第四十三條、第四十七條及ヒ第四十八條ノ規定ハ浪費者ニ之ヲ適用セス

第三條第二項乃至第四項ノ規定ハ準禁治産者ニ之ヲ適用セス

第六十八條 準禁治産ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ民法第十二條第二項ノ規定ニ依リテ爲シタル宣告ノ取消又ハ變更ヲ申立ツルコトヲ得此場合ニ於テハ準禁治産ノ取消ニ關スル規定ヲ準用ス

第六十九條 本章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ノ方法ハ司法大臣之ヲ定ム

第四章 失踪ニ關スル手續  
第七十條 失踪ノ宣告及ヒ其宣告ノ取消ニハ以下數條

第四十二條第二項、第四十五條第二項及ヒ第四十六條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ準用ス

第七十五條 各利害關係人ハ共同ノ申立人トシテ手續ニ加ハリ又ハ申立人ニ代ハリテ手續ヲ續行スルコトヲ得

第七十六條 不在者カ其生存ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テ申立人カ其事實ヲ認メサルトキハ判決ノ確定ニ至ルマテ公示催告手續ヲ中止スヘシ

第七十七條 失踪ノ宣告ニ關スル手續ノ費用ハ失踪ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續財産ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ申立人ノ負擔トス

第七十八條 失踪ノ宣告ノ判決ニ對シテ不服ヲ申立ツル訴ハ利害關係人ヨリ之ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ訴ニ付テハ失踪ノ宣告ノ申立人カ死亡シタル後ハ檢察ヲ以テ相手方トス此場合ニ於テハ第二條第四項及ヒ第五項ノ規定ヲ準用ス

第七十九條 數個ノ不服申立ノ訴アルトキハ裁判所ハ之ヲ併合スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第六十二條及ヒ第六十三條ノ規定ヲ適用ス

第八十條 民法第三十二條ニ依ル失踪ノ宣告ノ取消ハ其判決ニ對スル不服申立ノ訴ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ得

ニ定メタルモノノ外民事訴訟法第七百六十五條乃至第七百七十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ハ不在者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十二條 公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
一 不在者ハ公示催告期日マテニ其生存ノ届出ヲ爲スヘク其届出ヲ爲ササルトキハ失踪ノ宣告ヲ受クヘキコト

二 不在者ノ生死ヲ知ル者ハ公示催告期日マテニ其届出ヲ爲スヘキコト

公示催告期間ハ六個月以上ナルコトヲ要ス

第七十三條 不在者ノ出生後百年以上ヲ經過シタル場合ニ於テハ公示催告ノ公告ハ裁判所ノ揭示板ニ揭示スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ公示催告期間ハ其公告ノ日ヨリ二個月以上ナルヲ以テ足ル

第七十四條 檢察ハ失踪ノ宣告又ハ其取消ノ申立ニ付キ意見ヲ述ヘ且審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得



ト得但失踪者ノ生存スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ民事訴訟法第七十五條ノ規定ヲ適用セズ  
附則

第八十一條 本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
第八十二條 明治二十三年法律第四百號其他從前ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸シ又ハ重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス  
第八十三條 本法施行前ニ提起シタル訴訟ニシテ其判決確定セサルモノハ本法ノ規定ヲ適用ス

○人事訴訟手續法第一條第三項ノ住所指定 (明治三十一年七月八日) (司法省令第八號)

人事訴訟手續法第一條第三項ノ場合ニ於テハ東京市ヲ以テ住居地トス

○人事訴訟手續法第三章ニ依リ爲スヘキ公告方法 (明治三十一年七月八日) (司法省令第九號)

人事訴訟手續法第三章ノ規定ニ依リテ爲スヘキ公告ハ裁判ノ要旨ヲ官報及ヒ法人ノ登記ノ公告ニ付キ選定シタル新聞紙上ニ少クモ一回掲載シテ之ヲ爲スヘシ但上級裁判所ノ裁判ノ公告ハ其所在地ノ區域裁判所ノ選定シタル新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ  
前項ノ新聞紙ナキトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲スヘシ

○非訟事件手續法 (明治三十一年六月二十一日) (法律第十四號)

改正 明治三十二年第五一號、明治四十四年第七四號、大正二年第一九號、大正一一年第六三號、同第七一號、大正一五年第六七號、昭和二年第三三號、昭和四年第六〇號、昭和六年第四二號、昭和九年第三號、昭和一四年第七九號、昭和一六年第二二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル非訟事件手續法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
非訟事件手續法

第一編 總則

第一條 裁判所ノ管轄ニ屬スル非訟事件ニ付テハ本法其他ノ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本編ノ規定ヲ適用ス  
第二條 裁判所ノ土地ノ管轄力住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ日本ニ住所ナキトキ又ハ日本ノ住所ノ知レサルトキハ居所ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス  
居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ最後ノ住所地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス  
最後ノ住所ナキトキ又ハ其住所ノ知レサルトキハ財產ノ所在地又ハ司法大臣ノ指定シタル地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス相續開始地ノ裁判所ヲ管轄裁判所ナル場合ニ於テ相續カ外國ニ於テ開始シタルトキ亦同シ  
第三條 數個ノ管轄裁判所アル場合ニ於テハ最初事件ノ申立ヲ受ケタル裁判所其事件ヲ管轄ス但其裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ適當ト認ムル他ノ管轄裁判所ニ事件ヲ移送

スルコトヲ得

第四條 管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法第十條第一號ニ掲ケタル場合ノ外數個ノ裁判所ノ土地ノ管轄ニ付キ疑アルトキ之ヲ爲ス  
管轄裁判所ノ指定ハ關係アル裁判所ニ共通スル直近上級裁判所申立ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
第五條 裁判所職員ノ除斥ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス  
第六條 事件ノ關係人ハ訴訟能力者ヲシテ代理セシムルコトヲ得但自身出頭ヲ命セラレタルトキハ此限ニ在ラス  
裁判所ハ辯護士ニ非スシテ代理ヲ營業トスル者ニ退斥ヲ命スルコトヲ得此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
第七條 民事訴訟法第八十條ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス但私文書ニ認證ヲ受ケヘキ旨ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
第八條 民事訴訟法第五十條ノ規定ハ申立及ヒ陳述ニ之ヲ準用ス  
第九條 申立ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ代理人之ニ署名、捺印スヘシ  
一 申立人ノ氏名、住所  
二 代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其氏名、住所  
三 申立ノ趣旨及ヒ其原因タル事實  
四 年月日  
五 裁判所ノ表示  
證據書類アルトキハ其原本又ハ謄本ヲ添付スヘシ



第十條 期日、期間、疎明ノ方法、人證及ヒ鑑定ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

第十一條 裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ必要ト認ムル證據ヲ爲スヘシ

第十二條 事實ノ探知、呼出、告知及ヒ裁判ノ執行ニ關スル行爲ハ之ヲ囑託スルコトヲ得

第十三條 審問ハ之ヲ公行セス但裁判所ハ相當ト認ムル者ニ傍聴ヲ許スコトヲ得

第十四條 證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ラシメ其他ノ審問ニ付テハ必要ト認ムル場合ニ限り之ヲ作ラシムヘシ

第十五條 檢事ハ事件ニ付キ意見ヲ述ヘ審問ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ立會フコトヲ得

第十六條 裁判所其他ノ官廳、檢事及ヒ公吏ハ其職務上檢事ノ請求ニ因リテ裁判ヲ爲スヘキ場合カ生シタルコトヲ知リタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ

第十七條 裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

第十八條 裁判ノ原本ニハ判事署名、捺印スヘシ但申立書又ハ調書ニ裁判ヲ記載シ判事之ニ署名、捺印シテ原本ニ代フルコトヲ得

第十九條 裁判ノ正本及ヒ謄本ニハ書記署名、捺印シ且正本ニハ裁判所ノ印ヲ捺捺スヘシ

第二十條 裁判ハ之ヲ受クル者ニ告知スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二十一條 裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲ス

告知ノ方法、場所及ヒ年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘシ

第二十二條 裁判所ハ裁判ヲ爲シタル後其裁判ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第二十三條 申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ハ申立ニ因ルニ非サレハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第二十四條 即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第二十五條 裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタリトスル者ハ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ申立人ニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 抗告ハ特ニ定メタル場合ヲ除ク外執行停止ノ效力ヲ有セス

第二十八條 當事者カ其實ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ即時抗告ノ期間ヲ遵守スルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ノ止ミタル後一週間内ニ限り懈怠シタル行爲ノ追完ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 抗告裁判所ノ裁判ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第三十條 (削除)

第三十一條 抗告ニハ特ニ定メタルモノヲ除ク外民事訴訟法ノ抗告ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十二條 裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ特ニ其負擔者ヲ定メタル場合ヲ除ク外事件ノ申立人ノ負擔トス但檢

事カ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第二十七條 裁判所ハ前條ノ費用ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ必要ト認ムルトキハ其額ヲ確定シテ事件ノ裁判ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第二十八條 裁判所ハ特別ノ事情アルトキハ本法ノ規定ニ依リテ費用ヲ負擔スヘキ者ニ非サル關係人ニ費用ノ全部又ハ一部ノ負擔ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 民事訴訟法第九十三條ノ規定ハ共同ニテ費用ヲ負擔スヘキ者數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 費用ノ裁判ニ對シテハ其負擔ヲ命セラレタル者ニ限り不服ヲ申立ツルコトヲ得但獨立シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第三十一條 費用ノ債權者ハ費用ノ裁判ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 民事訴訟法第六編ノ規定ハ前項ノ強制執行ニ之ヲ準用ス但執行ヲ爲ス前裁判ヲ送達スルコトヲ要セス

第三十三條 費用ノ裁判ニ對スル抗告アリタルトキハ民事訴訟法第五百條ノ規定ヲ準用ス

第三十四條 職權ヲ以テ爲ス探知、證據調、呼出、告知其他必要ナル處分ノ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フヘシ

第三十五條 本編ニ於ケル申立トハ申立、申請及ヒ申述ヲ謂フ

第二章 民事非訟事件

第一節 法人ニ關スル事件

第三十六條 民法第四十條ニ定メタル事件ハ法人ノ設立者カ死亡ノ時ニ有シタル住所ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十七條 法人ノ設立者カ日本ニ住所ヲ有セザリシトキ又ハ其住所カ

知レサルトキハ其死亡ノ時ノ居所地又ハ法人設立地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十八條 假理事又ハ特別代理人ノ選任ハ法人ノ主たる事務所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第三十九條 法人ノ解散及ヒ清算ノ監督ハ其主たる事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第四十條 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ法人ノ監督ニ必要ナル檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十一條 第三百三十六條第一項、第三百三十七條、第三百三十八條、第三百七十五條、第三百七十六條及ヒ第三百七十七條ノ規定ハ法人ノ清算人ニ之ヲ準用ス

第四十二條 第三百二十九條ノ三及ヒ第三百二十九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ法人ノ清算人又ハ第三百三十六條ノ規定ニ依リ檢査ヲ爲スヘキ者ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二章 財産ノ管理ニ關スル事件

第四十三條 不在者ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ其住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第四十四條 裁判所ハ管理人ヲ選任シ又ハ改任スヘキ場合ニ於テハ利害關係人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第四十五條 裁判所ハ何時ニモ其選任シタル管理人ヲ改任スルコトヲ得

第四十六條 管理人ハ其任務ヲ辭セントスルトキハ裁判所ニ其旨ヲ届出ツヘシ此場合ニ於テハ裁判所ハ更ニ管理人ヲ選任スヘシ

第四十七條 管理人ノ選任又ハ改任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第四十八條 裁判所ハ其選任シタル管理人ニ財産ノ狀況ヲ報



告シ且管理ノ計算ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得  
 民法第二十七條第二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ不在者カ置キタル管理人ニモ前項ノ手續ヲ命スルコトヲ得  
 前二項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
 第四十二條 利害關係人ハ前條ノ報告及ヒ計算ニ關スル書類ノ閲覧ヲ申請シ又ハ手数料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得  
 檢察ハ前項ノ書類ヲ閲覧スルコトヲ得  
 第四十三條 民法第六百四十四條、第六百四十六條、第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル管理人之ニ之ヲ準用ス  
 第四十四條 裁判所ハ管理人ヲシテ擔保ヲ供セシメタル後其増減、變更又ハ免除ヲ命スルコトヲ得  
 第四十五條 裁判所ハ管理人ノ不動産又ハ船舶ノ上ニ抵當權ヲ設定スヘキコトヲ命シタルトキハ其設定ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得  
 前項ノ囑託ニハ抵當權ノ設定ヲ命シタル裁判ノ謄本ヲ添付スヘシ  
 前二項ノ規定ハ設定シタル抵當權ノ變更又ハ消滅ノ登記ニ之ヲ準用ス  
 第四十六條 裁判所カ財産ノ封印ヲ命シタル場合ニ於テハ管轄區裁判所之ヲ爲ス  
 利害關係人、管理人及ヒ檢察ハ封印ノ手續ニ立會フコトヲ得  
 第四十七條 左ニ掲ケタル物ニハ封印ヲ爲スヘカラス  
 一 日用品

二 封印ヲ爲スニ適セサル物  
 三 第三者ノ占有ニ屬スル物但其提出ヲ拒マサルトキハ此限ニ在ラス  
 第四十八條 封印ニハ判事ノ職印ヲ用ユヘシ  
 民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ手續ニ之ヲ準用ス  
 第四十九條 裁判所ハ封印ヲ爲シタルトキハ財産ノ保管者ヲ選任スヘシ  
 第五十條、第四十條ノ二、民法第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃至第六百六十一條及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ之ヲ檢事ニ爲スコトヲ要ス  
 第五十條 封印ヲ爲シタルトキハ書記ハ直チニ調書ヲ作ルヘシ  
 調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ  
 一 封印ヲ命シタル裁判ノ表示  
 二 封印ノ手續ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由  
 三 申立人ノ氏名、住所  
 四 封印ヲ爲シタル物件、家屋又ハ倉庫  
 五 封印ヲ爲サザリシ物件ノ概略及ヒ其事由  
 調書ハ二通ヲ作り其一通ハ之ヲ裁判所ニ保存シ其一通ハ之ヲ保管者ニ交付シテ受領證ヲ取置クヘシ  
 第五十一條 裁判所ハ利害關係人、管理人又ハ檢察ノ請求ニ因リ民法第二十五條第二項及ヒ本法第五十九條以外ノ場合ニ於テモ封印ノ除去ヲ命スルコトヲ得

第四十六條、第五十條第一項及ヒ民事訴訟法第五百三十六條ノ規定ハ封印ノ除去ニ之ヲ準用ス  
 保管者ハ封印ノ除去ニ立會フコトヲ得  
 第五十二條 裁判所ハ封印ヲ除去スヘキ期日ヲ定メ申立人、利害關係人、保管者、管理人及ヒ檢察ニ之ヲ告知スヘシ  
 利害關係人、管理人及ヒ檢察ハ前項ノ期日前ニ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得但民法第三十五條第三項及ヒ本法第五十九條ノ場合ハ此限ニ在ラス  
 第五十三條 異議ノ申立アリタルトキハ其申立ノ取下又ハ却下ノ後ニ非サレハ封印ヲ除去スルコトヲ得ス  
 封印ヲ除去シタルトキハ直チニ書記又ハ公證人ヲシテ財産ノ目錄ヲ調製セシムヘシ但民法第二十五條第三項及ヒ本法第五十九條ノ場合ニ於テ立會人カ之ヲ調製セサルコトニ同意シタルトキハ此限ニ在ラス  
 第五十四條 封印ヲ除去ノ調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ  
 一 封印ノ除去ヲ命シタル裁判ノ表示  
 二 封印ノ除去ヲ爲シタル場所、年月日及ヒ其事由  
 三 申立人ノ氏名、住所  
 四 異議ノ申立ナカリシコト又ハ其申立ノ取下若クハ却下アリタルコト  
 五 財産ノ目錄ヲ調製セシメ又ハ之ヲ調製セシメザリシコト  
 六 封印ノ状況及ヒ異狀アルトキハ其事由

調書ハ裁判所ニ之ヲ保存スヘシ  
 第五十五條 管理人カ調製スヘキ財産ノ目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ管理入及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ  
 一 調製ノ場所、年月日及ヒ其事由  
 二 申立人ノ氏名、住所  
 三 不動産ノ表示  
 四 動産ノ種類及ヒ數量  
 五 債權及ヒ債務ノ表示  
 六 帳簿、證書其他ノ書類  
 財産ノ目錄ハ二通ヲ調製シ其一通ハ管理人ノ之ヲ保管シ其一通ハ之ヲ裁判所ニ提出スヘシ  
 第四十六條第二項ノ規定ハ財産ノ目錄ノ調製ニ之ヲ準用ス  
 第五十六條 民法第二十七條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ裁判所ハ公證人ヲシテ財産ノ目錄ヲ調製セシムヘキ旨ヲ管理入ニ命スルコトヲ得但管理人カ調製シタル目錄ヲ不充分ト認メタルトキ亦同シ  
 前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
 前條ノ規定ハ本條第一項又ハ第五十三條第二項ノ規定ニ依リテ書記又ハ公證人カ財産ノ目錄ヲ調製スヘキ場合ニ之ヲ準用ス  
 第五十七條 利害關係人ハ財産ノ目錄ノ閲覧ヲ申請シ又ハ手数料ヲ納付シテ其謄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得  
 檢察ハ財産ノ目錄ヲ閲覧スルコトヲ得  
 第五十八條 裁判所ハ不在者ノ財産ヲ賣却セシムヘキ場合ニ於テハ賣却法ノ規定ニ依リテ之ヲ賣却スヘキコトヲ命スヘシ



第五十九條 本人カ自ラ其財産ヲ管理スルコトヲ得ルニ至リタルトキ又ハ其死亡カ分明ト爲リ若クハ失踪ノ宣告アリタルトキハ裁判所ハ本人、利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ其命シタル處分ヲ取消スヘシ

第六十條 利害關係人ハ不在者ノ財産ノ管理若クハ保存ニ付キ處分ヲ命シ、其處分ヲ取消シ又ハ管理人ニ其權限ヲ超ユル行爲ヲ爲スコトヲ許可シタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

不在者カ置キタル管理人ハ其改任ヲ命シタル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ管理人カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十一條 裁判所カ職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ又ハ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判前ノ手續及ヒ裁判ノ告知ノ費用ハ不在者ノ財産ノ負擔トス裁判所ノ命シタル處分ニ付キ必要ナル費用亦同シ

第六十二條 裁判所カ抗告人ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ不在者ノ財産ノ負擔トス

第六十三條 民法第八百九十二條第二項乃至第四項ノ財産ノ管理ニ關スル事件ハ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十四條 第三者カ被後見人ニ與ヘタル財産ノ管理ニ關スル事件ハ被後見人ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十五條 民法第一千二百一十一條第二項、第三項及ヒ第一千五百二十五條ノ相続財産ノ管理又ハ保存ニ關スル事件ハ相続開始地

ノ區裁判所ノ管轄トス

第六十六條 民法第九百七十八條ノ遺產ノ管理ニ關スル事件ハ相続人ノ廢除又ハ其取消ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第六十七條 民法第一千四十三條ノ相続財産ノ管理ニ關スル事件ハ財産分離ノ請求ニ付キ第一審ニ於テ訴ヲ受ケタル裁判所ノ管轄トス

第六十八條 第三十九條乃至第六十二條ノ規定ハ前五條ニ掲ケタル事件ニ之ヲ準用ス

第六十九條 民法第一千五十二條第二項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 申立人ノ氏名、住所
- 二 被相続人ノ氏名、身分、職業及ヒ最後ノ住所
- 三 被相続人ノ出生及ヒ死亡ノ場所及ヒ其年月日
- 四 管理人ノ氏名、住所

第七十條 民法第一千五十八條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 前條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項
- 二 相続人ハ一定ノ期間内ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ノ催告

第七十一條 民事訴訟法第七百六十六條ニ定メタル公告ノ方法ハ前二條ノ公告ニ之ヲ準用ス

第七十二條 信託ニ關スル事件

第七十三條 信託法第八條第一項第三項、第二十二條第二項但書、第二十三條、第四十一條、第四十六條乃至第四十八條及ヒ第五十八條ニ定メタル事件ハ受託者ノ住所地ノ

區裁判所、同法第四十九條第一項第四項ニ定メタル事件ハ前受託者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トシ受託者又ハ前受託者數人アル場合ニ於テハ其一人ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

信託法第四十九條第二項ニ定メタル事件ハ遺言者ノ最後ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十一條ノ三 裁判所ハ信託事務ノ監督ニ付キ必要ト認ムルトキハ財産目録及ヒ信託事務ニ關スル帳簿及ヒ書類ノ提出ヲ命シ且信託事務ノ處理ニ付キ受託者其他ノ關係人ヲ審訊スルコトヲ得

前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十一條ノ四 裁判所ハ信託法第八條第一項又ハ同法第四十八條ノ規定ニ依リテ選任シタル信託管理人又ハ信託財産ノ管理人ヲ改任スルコトヲ得

第七十一條ノ五 第三十九條、第四十條第二項及ヒ第四十條ノ二ノ規定ハ信託管理人又ハ信託財産ノ管理人ノ選任又ハ改任ニ付キ之ヲ準用ス

第四十三條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル信託管理人又ハ信託財産ノ管理人ニ之ヲ準用ス

第七十一條ノ六 第二百二十八條、第二百二十九條ノ三及ヒ第二百二十九條ノ四ノ規定ハ信託法第四十一條第二項ノ規定ニ依リテ裁判所カ選任シタル檢査役ニ付キ之ヲ準用ス

第四章 裁判上ノ代位ニ關スル事件

第七十二條 債權者ハ自己ノ債權ノ期限前ニ債務者ノ權利ヲ行ハサレハ其債權ヲ保全スルコト能ハス又ハ之ヲ保全スルニ困難ヲ生スル虞アルトキハ裁判上ノ代位ヲ申請スルコト

ヲ得

第七十三條 裁判上ノ代位ハ債務者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十四條 代位ノ申請ニハ第九條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 債務者及ヒ第三債務者ノ氏名、住所
- 二 申請人ノ保全セントスル債權及ヒ其行ハントスル權利ノ表示

第七十五條 裁判所ハ申請ヲ理由アリト認ムルトキハ擔保ヲ供セシメ又ハ供セシメスシテ之ヲ許可スルコトヲ得

第七十六條 申請ヲ許可シタル裁判ハ職權ヲ以テ之ヲ債務者ニ告知スヘシ

前項ノ告知ヲ受ケタル債務者ハ其權利ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第七十七條 申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

申請ヲ許可シタル裁判ニ對シテハ債務者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ債務者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第七十八條 抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ニ付テハ申請人及ヒ抗告人ヲ當事者ト看做シ民事訴訟法第八十九條ノ規定ニ從ヒテ其負擔者ヲ定ム

第七十九條 第十三條及ヒ第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニ之ヲ適用セス

第五章 保存、供託、保管及ヒ鑑定ニ關スル事件

第八十條 民法第二百六十二條第三項ノ證書保存者ノ指定ハ



共有物ノ分割アリタル地ノ區裁判所ノ管轄トス  
裁判所ハ裁判ヲ爲ス前共有者ヲ訊問スヘシ  
裁判所カ第一項ノ指定ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ共有者ノ全員ノ負擔トス  
第八十一條 民法第四百九十五條第二項ノ供託所ノ指定及ヒ供託物保管者ノ選任ハ債務履行地ノ區裁判所ノ管轄トス  
裁判所ハ裁判ヲ爲ス前債權者及ヒ債務者ヲ訊問スヘシ  
裁判所カ第一項ノ指定及ヒ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債權者ノ負擔トス  
第八十二條 第四十條、第四十條ノ二、民法第六百五十八條第一項、第六百五十九條乃至第六百六十一條及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ前條ノ保管者ニ之ヲ準用ス但民法第六百六十條ノ通知ハ債務者ニ之ヲ爲スコトヲ要ス  
第八十三條 第八十一條ノ規定ハ民法第四百九十七條ノ裁判所ノ許可ニ之ヲ準用ス  
第八十三條ノ二 第八十一條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ民法第三百五十四條ニ依リ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス  
裁判所カ申請ヲ許可シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ債務者ノ負擔トス  
第八十四條 民法第五百八十二條ノ鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ不動産所在地ノ區裁判所ノ管轄トス  
裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ買主ノ負擔トス呼出及ヒ訊問ノ費用亦同シ  
第八十五條 民法第一千三十二條第二項、第一千三十四條及ヒ第一千三百三十二條第二項ノ鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第八十六條 民法第一千四十七條及ヒ第一千五十條ノ場合ニ於ケル鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ第六十七條ニ定メタル裁判所ノ管轄トス  
第八十七條 民法第一千三十二條第二項、第一千三十四條、第一千四十七條及ヒ第一千五十條ノ場合ニ於ケル鑑定人ノ選任ニ關スル費用ハ相續財產ノ負擔トス  
第八十八條 第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニハ之ヲ適用セス  
第八十九條 本章ノ規定ニ依リテ指定若クハ選任ヲ爲シ又ハ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
第六章 離婚、隠居、廢家、子ノ懲戒、家督相續人及ヒ親族會ニ關スル事件  
第八十九條ノ二 離婚ノ許可ハ離婚ヲ爲サントスル戸主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス  
裁判所ハ裁判ヲ爲ス前離婚セラレントスル家族ヲ審訊スルコトヲ要ス  
離婚ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ前項ノ家族ニ限り即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス  
第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス  
第九十條 隠居ノ許可ハ隱居ヲ爲サントスル戸主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス  
許可ノ申請ニハ法定ノ推定家督相續人ヲ表示シ又ハ家督相續人タルヘキコトヲ承認シタル者ヲ表示シ且其者ヲシテ署名、捺印セシムヘシ  
隱居ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス  
第九十一條 廢家ノ許可ハ廢家セントスル戸主ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス  
利害關係人及ヒ檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ

抗告ヲ爲スコトヲ得  
第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス  
第九十二條 子ノ懲戒ニ關スル事件ハ子ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス  
檢事ハ前項ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得  
第七十八條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス  
第九十三條 民法第九百七十八條ノ戸主權ノ行使ニ付キ必要ナル處分ハ第六十六條ニ定メタル裁判所ノ管轄トス  
第九十四條 家督相續人ノ選任ニ關スル許可ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス  
裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財產ノ負擔トス  
第九十五條 親族及ヒ檢事ハ前條ノ許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得  
第六十二條ノ規定ハ前項ノ抗告ニ之ヲ準用ス  
第九十六條 無能力者ノ爲メニ設ケヘキ親族會ニ關スル事件ハ其者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス  
裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ無能力者ノ負擔トス  
第九十七條 家督相續人ノ選任ノ爲メニ開クヘキ親族會ニ關スル事件ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス  
裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財產ノ負擔トス  
第九十八條 前二條ニ掲ケサル事件ノ爲メニ開クヘキ親族會ニ關シテハ事件ノ本人ノ住所地ノ區裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス  
裁判所カ申請ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手

續ノ費用ハ事件ノ本人ノ負擔トス  
第九十九條 裁判所ハ親族會員又ハ其補缺員ノ選任ニ付キ申請人又ハ民法第九百四十四條ニ掲ケタル者ヲシテ會員タルニ適當ナル者ヲ指名セシムルコトヲ得  
第一百條 親族會員タルコトヲ辭セントスル者ハ裁判所ニ其申請ヲ爲スヘシ  
前項ノ申請ニ相當スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
第一百條 親族會ノ招集又ハ親族會員ノ辭任ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
民法第九百四十四條ニ掲ケタル者ハ親族會員タルコトヲ得サル者ノ選任ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得  
第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス  
第一百條 親族會員其他民法第九百四十四條ニ掲ケタル者ハ親族會ノ決議ニ代ハルヘキ裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ裁判ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス  
第七章 相續ノ承認及ヒ拋棄ニ關スル事件  
第一百條 民法第一千三十七條第一項但書ニ定メタル期間ノ伸長ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス  
第一百條 相續ノ限定承認又ハ拋棄ノ申述ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス  
第一百五條 相續ノ限定承認又ハ拋棄ノ申述ニハ第九條第一號、第二號、第四號及ヒ第五號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シテ申述人又ハ代理人ノ署名、捺印スヘシ  
一 被相續人ノ氏名及ヒ最後ノ住所



二 相續ノ限定承認又ハ拋棄ヲ爲ス旨  
第六六條 期間ノ伸長ノ申請又ハ相續ノ限定承認若クハ拋棄ノ申述ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第八條 遺言ノ確認及ヒ執行  
第七七條 遺言執行者ノ選任及ヒ解任ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所ニ於テ選任シタル遺言執行者カ其任務ヲ辭セントスルトキ又ハ其就職ヲ拒ムトスルトキハ相續開始地ノ區裁判所ニ其申立ヲ爲スヘシ  
裁判所カ前二項ニ掲ケタル事件ニ付キ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ相續財產ノ負擔トス

第八條 遺言執行者ヲ選任シタル裁判又ハ其任務ヲ辭シ若クハ就職ヲ拒ムコトヲ許可シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

遺言執行者ノ選任若クハ解任ノ申請又ハ其任務ヲ辭シ若クハ就職ヲ拒ム申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

遺言執行者ハ其解任ヲ命ジタル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ遺言執行者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

第六十二條ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ準用ス  
第九九條 民法第七十六條及ヒ第八十一條但書ニ定メタル遺言ノ確認ハ遺言者ノ住所地又ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

前項ニ掲ケタル者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ前條ノ調書ヲ閱覽スルコトヲ得  
第六十六條 遺言書ノ提出、開封並ニ檢認及ヒ其告知ノ費用ハ相續財產ノ負擔トス

第九條 法人及ヒ夫婦財產契約ノ登記  
第七七條 法人ノ登記ニ付テハ法人ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第八十八條 夫婦財產契約ノ登記ニ付テハ夫ト爲ルヘキ者ノ住所地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス  
夫ト爲ルヘキ者カ夫又ハ婿養子ナルトキハ妻ト爲ルヘキ者ノ住所地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第九九條 各登記所ニ法人登記簿及ヒ夫婦財產契約登記簿ヲ備フ  
第二十條 法人設立ノ登記ハ理事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ定款、理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ主務官廳ノ許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

第二十一條 事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事、理事ノ缺ケタル場合ニ於テハ假理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ理事又ハ假理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添付シ且主務官廳ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ其許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル理事又ハ假理事カ同一登記所ニ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其資格ヲ證スル書面ヲ添

手續ノ費用ハ遺言者又ハ相續財產ノ負擔トス  
第十條 遺言ノ確認ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

利害關係人及ヒ檢事ハ遺言ノ確認ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ確認ノ申請人カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

前條第二項ノ規定ハ前二項ノ抗告ニ之ヲ適用ス  
第十一條 遺言書ノ檢認ハ相續開始地ノ區裁判所ノ管轄トス

第十二條 遺言書ノ檢認ハ公證人カ記載シタルモノヲ除ク外遺言ノ方式ニ關スル總テノ事實ヲ調査シテ之ヲ爲ス

第十三條 封印アル遺言書ノ開封ニ付テハ豫メ其期日ヲ定メテ相續人ヲ呼出スヘシ

第十四條 遺言書ノ提出、開封及ヒ檢認ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ  
調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ判事、書記及ヒ立會人之ニ署名、捺印スヘシ

一 提出者ノ氏名、住所  
二 提出、開封及ヒ檢認ノ年月日  
三 立會人ノ氏名、住所  
四 訊問シタル證人、鑑定人、相續人其他ノ利害關係人ノ氏名、住所及ヒ其陳述  
五 事實調査ノ結果

第十五條 裁判所ハ遺言書ノ開封及ヒ檢認ヲ爲シタルトキハ出頭セザリシ相續人其他遺言ノ旨趣ニ關係アル者ニ其旨ヲ告知スヘシ

附スルコトヲ要セズ  
二十二條 法人ノ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及ヒ理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ清算人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

二十三條 夫婦財產契約ニ關スル登記ハ契約者雙方ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
申請書ニハ夫婦財產契約書又ハ管理者ノ變更若クハ共有財產ノ分割ヲ許可シタル判決ノ謄本又ハ之ニ關スル契約書ヲ添付スルコトヲ要ス

二十四條 第一百七條、第二百二條乃至第二百四條ノ規定ハ日本ニ事務所ヲ設ケタル外國法人ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二十五條 第四十一條乃至第五十條、第五十五條乃至第五十七條ノ規定ハ本章程ニ定メタル登記ニ之ヲ準用ス

第六十五條ノ規定ハ夫婦財產契約ノ登記ノ更正ニ之ヲ準用ス

第三編 商事非訟事件  
第一章 會社及ヒ競賣ニ關スル事件

第二十六條 商法第五十八條、第七十三條第一項第二項、第七十八條、第八十一條第一項、第二百十四條第一項但書、第二百三十七條第二項、第二百五十八條第二項、第二百七十二條、第二百九十一條第二項、第二百九十四條、第三百五十三條第一項及ヒ第三百七十四條第二項、其準用

非訟事件手続法 商事非訟事件 會社及ヒ競賣ニ關スル事件

一一一



規定、同法第五百三十三條第二項並ニ有限會社法第八條第一項但書、第四十五條及ヒ第六十七條第三項ニ定メタル事件ハ會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

商法第一百一十一條第三項及ヒ其準用規定ニ定メタル事件ハ合併無効ノ訴ニ關スル第一審ノ受訴裁判所ノ管轄トス

商法第四百八十四條及ヒ其準用規定ニ定メタル事件ハ閉鎖ヲ命セラルヘキ外國會社ノ支店ノ所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

有限會社法第六十條第二項ニ定メタル事件ハ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

商法第五百二十七條第一項及ヒ第七百五十七條第一項ニ定メタル事件ハ競賣ニ付スヘキ物品所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

**第二百二十七條** 検査役ノ選任ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名、捺印スヘシ

一 申請ノ事由

二 検査ノ目的

三 年月日

四 裁判所ノ表示

**第二百二十八條** 検査役ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所ハ検査ニ付キ説明ヲ必要トスルトキハ検査役ヲ審訊スルコトヲ得

**第二百二十九條** 商法第七十三條第二項ノ規定ニ依ル裁判ハ

理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前發起人及ヒ取締役ノ陳述ヲ聽クヘシ

發起人及ヒ取締役ハ第一項ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

**第二百二十九條ノ二** 商法第二百九十四條第一項ノ規定ニ依リ検査役ノ選任ニ關スル裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽クヘシ

**第二百二十九條ノ三** 商法第七十三條第一項、第八十一條第一項、第二百九十四條第一項又ハ第三百五十三條第一項ノ規定ニ依リ裁判所ハ検査役ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽キ裁判所之ヲ定ム

**第二百二十九條ノ四** 前二條ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

**第二百三十條** 商法第二百九十四條ノ検査ニ付キ株主總會ノ召集ヲ必要ト認ムルトキハ裁判所ハ一定ノ期間内ニ其召集ヲ爲スヘキコトヲ命スヘシ

**第二百三十一條** 商法第五百三十三條第二項ノ規定ニ依リ検査ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ検査ヲ要スル事由、同法第二百三十七條第二項ノ規定ニ依リ總會召集ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ取締役カ其召集ヲ怠リシ事實ヲ説明スルコトヲ要ス

前項ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

**第二百三十二條** 前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

**第二百三十二條ノ二** 商法第七十八條(同法第三百七十條第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ許可ノ申請ハ其事由ヲ説明シ總發起人又ハ總取締役之ヲ爲スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

**第二百三十二條ノ三** 前條ノ規定ハ商法第二百十四條第一項但書(同法第三百七十九條第二項及ヒ第四百十六條第三項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ許可ノ申請ニ付キ之ヲ準用ス

**第二百三十二條ノ四** 商法第二百五十八條第二項(同法第二百八十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル職務代行者ノ選任ニ關スル裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽クヘシ

**第二百二十九條ノ三、** 第二百二十九條ノ四及ヒ第三百三十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

**第二百三十二條ノ五** 商法第二百七十一條第一項但書(同法第二百七十二條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ許可ノ申請ハ職務代行者之ヲ爲スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ノ期間ハ職務代行者カ裁判ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

前項ノ抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

**第二百三十二條ノ六** 第二百二十九條ノ四、第三百三十二條第一項及ヒ第三百三十二條ノ四第一項ノ規定ハ商法第二百七十二條(同法第二百八十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ職務ノ執行ノ停止若クハ職務代行者ノ選任又ハ其取消若

クハ變更ニ關スル裁判ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

假處分ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ其性質ノ許ササルモノヲ除ク外前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

**第二百三十三條** 第二百三十二條ノ二ノ規定ハ商法第二百九十一條第二項(同法第二百九十二條第三項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ認可ノ申請ニ付キ之ヲ準用ス

**第二百三十三條ノ二** 商法第三百七十四條第二項ノ規定ニ依ル申請ハ資本ノ増加ヲ無効トスル判決カ確定シタル日ヨリ六个月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

審問ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

數個ノ申請事件カ同時ニ繫屬スルトキハ審問及ヒ裁判ハ併合シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ申請アリタルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其旨ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ公告ハ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

**第二百三十三條ノ三** 前條第一項ノ申請ニ對スル裁判ハ總株主ニ對シ其效力ヲ有ス

**第二百二十九條第一項、** 第二百二十九條ノ二、 第二百二十九條ノ四及ヒ第三百三十二條ノ五第三項ノ規定ハ前項ノ裁判ニ付キ之ヲ準用ス

**第二百三十四條** 第二百二十九條第一項ノ規定ハ商法第五十八條第一項及ヒ第二項ノ規定ニ依リ裁判ニ之ヲ準用ス

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前利害關係人ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ



第三百三十五條 會社、利害關係人及ヒ檢事ハ前條ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第三百三十五條ノ二 第四百三十三條ノ二、第四百三十三條ノ三及ヒ第四百三十三條ノ四ノ規定ハ第五項ノ規定ニ依ル解散命令ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ三 會社ノ解散ヲ命スル裁判カ確定シタルトキハ裁判所ハ解散シタル會社ノ本店及ヒ支店ノ所在地ノ登記所ニ其登記ノ屬託ヲ爲スヘシ

第三百三十五條ノ四 第三十九條乃至第四十條ノ二、第四十一條第一項第三項、第四十二條、第六十一條、第六十二條、第六十九條ノ三及ヒ第七十九條ノ四ノ規定ハ商法第五十八條第三項ノ規定ニ依リ管理人人ノ選任其他會社財産ノ保全ニ必要ナル處分ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四百三十三條ノ規定ハ前項ノ管理人人ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ五 民事訴訟法第一百十條第一項及ヒ第一百一條乃至第一百十六條ノ規定ハ商法第五十九條ノ規定ニ依リテ供スヘキ擔保ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ六 會社ノ設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ受訴裁判所ハ會社ノ本店及ヒ支店ノ所在地ノ登記所ニ其登記ノ屬託ヲ爲スヘシ

登記所カ前項ノ屬託ヲ受ケタルトキハ會社ノ設立ノ無効ナルコトヲ登記スヘシ

第三百三十五條ノ七 前條ノ規定ハ會社ノ合併ヲ無効トスル判決カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ八 第二百二十九條第一項、第二百二十九條ノ四及ヒ第三百三十二條ノ五第三項ノ規定ハ商法第一百一條第三

項(同法第四百十七條及ヒ第四百十六條第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル裁判ニ付キ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ九 第二百二十九條乃至第三百三十三條ノ三及ヒ前條ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三百二十九條ノ二乃至第三百三十二條、第三百三十二條ノ三乃至第三百三十二條ノ六、第三百三十三條ノ二乃至第三百三十五條ノ五及ヒ前條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第三百三十四條乃至第三百三十五條ノ五ノ規定ハ外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ十 商法第九十一條第一項但書(同法第四百十七條及ヒ第四百五十八條第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ豫告ヲ爲シタル債權者ハ會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ニ持分ノ拂戻ノ請求權ノ保全ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得

第二百二十九條第一項及ヒ第二百二十九條ノ四ノ規定ハ前項ノ申請ニ對スル裁判ニ付キ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ十一 有限會社法第八條第一項但書ノ規定ニ依リ認可ノ申請ハ其事由ヲ疏明シ總社員之ヲ爲スヘシ但會社成立後ノ場合ニ於テハ總取締役之ヲ爲スヲ以テ足ル

第三百三十五條ノ十二 有限會社法第六十條第二項ノ規定ニ依リ認可ノ申請ハ合併ヲ爲ス會社ノ總取締役及ヒ總監査役之ヲ爲スヘシ

第三百三十五條ノ十三 前條ノ規定ハ有限會社法第六十七條第三項ノ規定ニ依リ認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ十四 第三百三十二條ノ規定ハ前三條ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二章 社債ニ關スル事件

第三百三十五條ノ十五 商法第三百十二條、第三百十三條、第三百十四條第二項、第三百十九條、第三百二十條第三項、第三百二十五條、第三百三十六條第一項及ヒ第三百七十六條第三項並ニ其準用規定ニ定メタル事件ハ社債ヲ發行シタル會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

第三百三十五條ノ十六 商法第三百十二條ノ規定ニ依リ許可、同法第三百十三條ノ規定ニ依リ解任又ハ同法第三百十四條第二項ノ規定ニ依リ選任ノ申請ニ付テハ裁判所ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

申請ヲ認許セサル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百三十五條ノ十七 商法第三百十九條ノ規定ニ依リ許可ノ申請ハ其事由ヲ疏明シ社債權者集會ノ招集者之ヲ爲スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ十八 第三百三十一條及ヒ第三百三十二條ノ規定ハ商法第三百二十條第三項ノ規定ニ依リ許可ノ申請ニ付キ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ十九 商法第三百二十五條ノ規定ニ依リ決議ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ議事録ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百二十九條ノ四、第三百三十二條ノ五第三項及ヒ第三百三十五條ノ十六第一項ノ規定ハ前項ノ申請アリタル場合ニ之ヲ

準用ス

第三百三十五條ノ二十 商法第三百三十六條第一項ノ規定ニ依リ許可ノ申請ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、代表者又ハ執行者之ヲ爲スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ二十一 第三百三十五條ノ十六ノ規定ハ商法第三百七十六條第三項(同法第四百十六條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ期間ノ伸長ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ二十二 第三百三十五條ノ十六乃至前條ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ二十三 第十五條ノ規定ハ本章ノ手續ニハ之ヲ適用セス

第三章 會社ノ整理ニ關スル事件

第三百三十五條ノ二十四 會社ノ整理ニ關スル事件ハ會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

第三百三十五條ノ二十五 會社ノ整理ハ裁判所ノ監督ニ屬ス裁判所ハ會社ノ業務ヲ監督スル官廳ニ對シ意見ヲ求メ又ハ調査ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ官廳ハ裁判所ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第三百三十五條ノ二十六 整理開始ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其事由ヲ疏明スルコトヲ要ス

債權者カ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其債權ヲモ疏明スルコトヲ要ス

第三百三十五條ノ二十七 整理開始ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ整理ノ手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納



アルコトヲ要ス豫納ナキトキハ裁判所ハ其申請ヲ却下スルコトヲ得  
費用ノ豫納ニ關スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百三十五條ノ二十八 裁判所カ職權ヲ以テ整理ノ開始ヲ命シタルトキハ整理ノ手續ノ費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨ス費用ノ豫納ナキニ拘ラス裁判所カ整理ノ開始ヲ命シタルトキ及ヒ豫納金カ不足ナルニ至リタルトキ亦同シ

第三百三十五條ノ二十九 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テハ整理ノ手續ノ費用ハ會社ノ負擔トス

第三百三十五條ノ三十 整理開始ノ申請アリタルトキハ裁判所ハ會社ノ業務ヲ監督スル官廳ニ其旨ヲ通知スヘシ

第三百三十五條ノ三十一 整理開始ノ命令ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ整理開始ノ申請ヲ却下スル場合亦同シ

前條ノ規定ハ前項ノ裁判アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ三十二 第三百三十三條ノ二第四項及ヒ第五項ノ規定ハ裁判所カ整理ノ開始ヲ命シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ三十三 整理開始ノ命令ニ對シテハ會社ニ限リ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
整理開始ノ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ申請人ニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得

爲スコトヲ要セス  
第三百三十五條ノ三十六 商法第三百八十三條第一項ノ規定ニ依ル破産手續及ヒ和議手續ノ中止ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
第三百三十五條ノ三十七 商法第三百八十四條ノ規定ニ依リ競賣手續ノ中止ヲ命スル場合ニ於テハ裁判所ハ競賣申立人ノ陳述ヲ聽クコトヲ要ス  
前項ノ中止ノ命令ニ對シテハ競賣申立人ニ限り即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
第三百三十五條ノ三十四ノ規定ハ第一項ノ中止ノ命令ヲ取消ス決定ニ之ヲ準用ス  
第三百三十五條ノ三十八 裁判所カ商法第三百八十七條第一項ニ掲ケタル處分ヲ取消シ又ハ變更シタルトキハ會社ノ本店及ヒ支店ノ所在地ノ登記所ニ其登記ヲ囑託スルコトヲ要ス  
裁判所カ商法第三百八十七條第二項ニ掲ケタル處分ヲ取消シ又ハ變更シタルトキハ其登記又ハ登録ヲ囑託スルコトヲ要ス  
第三百三十五條ノ三十九 登記所カ商法第三百八十七條又ハ前條ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其登記ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ノ規定ハ商法第三百八十七條第二項又ハ前條第二項ノ規定ニ依ル登録ノ囑託アリタル場合ニ之ヲ準用ス  
第三百三十五條ノ四十 第三百三十三條ノ二第四項及ヒ第五項ノ規定ハ商法第三百八十六條第一項第二號ノ處分ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ四十一 裁判所カ商法第三百八十六條第一項第三號ノ處分ヲ爲ストキハ同時ニ検査役ヲ選任スルコトヲ要ス

第四十條、第四十條ノ二及ヒ第二百二十八條ノ規定ハ検査役ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ四十二 前條第二項ノ規定ハ整理委員ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ四十三 商法第三百九十二條第三項ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ハ取締役及ヒ異議ヲ述ヘタル株主ノ陳述ヲ聽キ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ前項ノ裁判ハ異議ヲ述ヘタル株主ニ對シテモ之ヲ告知スルコトヲ要ス

第二百二十九條ノ四及ヒ第三百三十二條ノ五第三項ノ規定ハ第一項ノ裁判ニ付キ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ四十四 取締役ハ商法第三百九十三條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル株主表ニ同法第三百九十二條ノ承認又ハ確定アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

株主表及ヒ其添附書類ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲メ之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第三百三十五條ノ四十五 商法第三百九十三條第三項ノ規定ニ依リ認可ハ株主表ニ記載シテ之ヲ爲ス

前項ノ認可ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
會社及ヒ株主ハ手数料ヲ納付シテ株主表ノ抄本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

民事訴訟法第五十一條第二項ノ規定ハ株主表ノ抄本ニ之

ヲ準用ス

第三百三十五條ノ四十六 民事訴訟法第六編ノ規定ハ商法第三百九十三條第三項ノ強制執行ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ四十七 商法第三百八十六條第一項第五號ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ解任セントスル取締役又ハ検査役ノ陳述ヲ聽クコトヲ要ス

第三百三十五條ノ四十八 商法第三百八十六條第一項第六號ノ處分ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百三十五條ノ四十九 第二百二十九條ノ四、第三百三十二條ノ五第三項及ヒ第三百三十五條ノ十六第一項ノ規定ハ商法第三百八十六條第一項第七號ノ處分ニ付キ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ五十 商法第三百八十六條第一項第八號ノ規定ニ依ル査定ヲ申請スル場合ニ於テハ其原因タル事實ヲ説明スルコトヲ要ス

第三百三十五條ノ五十一 裁判所カ職權ヲ以テ査定手續ヲ開始スル場合ニ於テハ其旨ノ決定ヲ爲スヘシ

第三百三十五條ノ五十二 第三百三十五條ノ十六第一項ノ規定ハ査定ノ裁判及ヒ査定ノ申請ヲ却下スル裁判ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ五十三 裁判所カ商法第三百八十六條第一項第十號ノ處分ヲ爲ストキハ同時ニ監督員ヲ選任シ同法第三百九十七條第二項ノ指定ヲ爲スコトヲ要ス

第九十七條第二項ノ指定ヲ變更スルコトヲ得  
裁判所ハ何時ニテモ前項ノ指定ヲ變更スルコトヲ得  
第四十條及ヒ第四十條ノ二ノ規定ハ監督員ニ之ヲ準用ス  
第三百三十五條ノ五十四 裁判所カ商法第三百八十六條第一項第十一號ノ處分ヲ爲ストキハ同時ニ管理人ヲ選任スルコトヲ要ス



前條第三項ノ規定ハ管理人ニ之ヲ準用ス  
 第三百三十五條ノ五十五 第三百三十三條ノ二第四項第五項及ヒ  
 第三百三十五條ノ三十ノ規定ハ整理終結ノ決定ヲ爲シタル場  
 合及ヒ整理開始ノ命令ヲ取消ス決定カ確定シタル場合ニ之  
 ヲ準用ス  
 第三百三十五條ノ五十六 整理終結ノ決定ニ對シテハ其公告ア  
 リタル時ヨリ二週間内ニ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
 整理終結ノ決定ハ確定ノ後ニ非サレハ其效力ヲ生セズ  
 前條ノ規定ハ整理終結ノ決定ヲ取消ス決定カ確定シタル場  
 合ニ之ヲ準用ス  
 第三百三十五條ノ五十七 第三百三十五條ノ三十五ノ規定ハ整理  
 終結ノ登記又ハ整理開始ノ取消ノ登記ニ付キ之ヲ準用ス  
 第三百三十五條ノ五十八 整理開始ノ命令ヲ取消ス決定カ確定  
 シタルトキハ裁判所ハ商法第三百八十七條ノ登記若クハ登  
 録又ハ第三百三十五條ノ三十八ノ登記若クハ登録ノ抹消ヲ囑  
 託スルコトヲ要ス  
 前項ノ規定ハ整理終結ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用  
 ス但商法第三百八十六條第一項第五號ノ處分ノ登記ニ付テ  
 ハ此限ニ在ラス  
 第三百三十五條ノ三十九ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依ル囑託ア  
 リタル場合ニ之ヲ準用ス  
 第三百三十五條ノ五十九 商法第四百一條第一項ノ規定ニ依ル  
 認可ノ申請ハ總取締役又ハ總管理人ノ之ヲ爲スヘシ  
 前項ノ申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコト  
 ヲ得ス  
 第三百三十五條ノ六十 商法第四百一條第二項ノ和議事件及ヒ

同法第四百二條ノ破産事件ハ整理ノ開始ヲ命シタル裁判所  
 ノ管轄トス  
 第三百三十五條ノ六十一 第三百三十五條ノ三十及ヒ第三百三十五  
 條ノ五十八第二項第三項ノ規定ハ商法第四百一條ノ規定ニ  
 依リ和議手續ノ開始アリタル場合及ヒ同法第四百二條ノ規  
 定ニ依リ破産ノ宣告アリタル場合ニ之ヲ準用ス  
 第三百三十五條ノ六十二 商法第四百一條ノ規定ニ依リ和議手  
 續ノ開始アリタルトキハ和議法第十條及ヒ第五十六條ノ規  
 定ニ適用ニ付テハ整理開始ノ命令ハ其前ニ和議開始ノ申立  
 ナキトキハ之ヲ和議開始ノ申立ト看做シ整理ノ爲メニ生  
 タル債權及ヒ整理ノ手續ノ費用ハ之ヲ和議ノ爲メニ生  
 タル債權及ヒ和議手續ノ費用ト看做ス  
 第三百三十五條ノ六十三 商法第四百二條ノ規定ニ依リ破産ノ  
 宣告アリタルトキハ破産法第一編ノ規定ノ適用ニ付テハ整  
 理開始ノ命令ハ其前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキ  
 ハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做シ整理ノ爲メニ生  
 タル債權及ヒ整理ノ手續ノ費用ハ之ヲ財團債權トス  
 第三百三十五條ノ六十四 商法第四百三條ニ於テ準用スル破産  
 法第六十六條ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲  
 スコトヲ得  
 第四章 會社ノ清算ニ關スル事件  
 第三百三十六條 合名會社及ヒ合資會社ノ清算ニ關スル事件ハ  
 會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス  
 株式會社、株式合資會社及ヒ有限會社ノ清算ニ關スル事件  
 ハ會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス銀行又ハ無盡  
 業若クハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ清算ノ監督亦同シ

第三百三十六條ノ二 第三百三十五條ノ二十五ノ規定ハ會社ノ清  
 算ニ之ヲ準用ス  
 第三百三十七條 清算人ノ選任又ハ解任ノ裁判ニ對シテハ不服  
 ヲ申立ツルコトヲ得ス裁判所カ銀行又ハ無盡業若クハ無盡管  
 理業ヲ營ム會社ノ清算ノ監督ニ付キ爲シタル命令ニ對シ亦  
 同シ  
 第三百三十七條ノ二 第三百三十二條ノ四乃至第三百三十二條ノ六  
 ノ規定ハ株式會社、株式合資會社及ヒ有限會社ノ清算人ニ  
 之ヲ準用ス  
 第三百三十八條 左ニ掲ケタル者ハ清算人トシテ之ヲ選任スル  
 コトヲ得ス  
 一 未成年者  
 二 禁治產者及ヒ准禁治產者  
 三 剝奪公權者及ヒ停止公權者  
 四 裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人  
 五 破産者  
 第三百三十八條ノ二 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ銀行又  
 ハ無盡業若クハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ清算事務及ヒ財産ノ  
 狀況ヲ検査セシムルコトヲ得  
 第三百三十八條ノ三 第三百二十九條ノ三及ヒ第三百二十九條ノ四  
 ノ規定ハ裁判所カ清算人又ハ前條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲ス  
 ヘキ者ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス  
 第三百三十八條ノ四 裁判所カ商法第二百二十五條第四項又ハ其  
 準用規定ニ依リ鑑定人ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手  
 續ノ費用ハ會社ノ負擔トス呼出及ヒ訊問ノ費用亦同シ  
 第三百三十八條ノ五 第八十八條及ヒ第八十九條ノ規定ハ前條

ノ鑑定人ノ選任ノ手續及ヒ裁判ニ之ヲ準用ス  
 第三百三十八條ノ六 第三百三十二條第一項及ヒ第三百三十二條ノ  
 二第一項ノ規定ハ商法第四百二十三條第二項又ハ其準用規  
 定ニ依ル許可ノ申請ニ付キ之ヲ準用ス  
 第三百三十八條ノ七 商法第四百二十九條又ハ其準用規定ニ依  
 ル保存者ノ選任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得  
 ス  
 裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用  
 ハ會社ノ負擔トス  
 第三百三十八條ノ八 債權者集會ハ裁判所之ヲ指揮ス  
 第三百三十一條及ヒ第三百三十二條ノ規定ハ商法第四百三十九  
 條第三項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニ付キ之ヲ準用ス  
 債權者集會ヲ召集セントスルトキハ召集者ハ豫メ其期日及  
 ヒ會議ノ目的タル事項ヲ裁判所ニ届出ツルコトヲ要ス  
 第三百三十八條ノ九 商法第四百四十一條第二項ノ規定ニ依ル  
 裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
 第三百三十八條ノ十 商法第四百四十四條第三項及ヒ同法第四  
 百五十條第二項(同法第四百五十一條ニ於テ準用スル場合  
 ヲ含ム)ノ規定ニ依ル認可ノ申請ハ債權者集會ノ召集者之  
 ヲ爲スコトヲ要ス  
 第三百三十五條ノ十九ノ規定ハ前項ノ申請ニ付キ之ヲ準用ス  
 第三百三十八條ノ十一 第三百三十三條ノ二第四項及ヒ第五項ノ  
 規定ハ商法第四百五十條第二項(同法第四百五十一條ニ於  
 テ準用スル場合ヲ含ム)ノ認可ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用  
 ス  
 第三百三十八條ノ十二 第三百三十二條ノ五第二項及ヒ第三項ノ



規定ハ商法第四百四十五條第二項ノ規定ニ依ル許可ノ裁判ニ付キ之ヲ準用ス

第三百三十八條ノ十三 商法第四百五十五條ノ規定ニ依リ破産ノ宣告アリタルトキハ破産法第一編ノ規定ノ適用ニ付テハ特別清算開始ノ命令ハ其前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做シ特別清算ノ爲メニ生シタル債權及ヒ特別清算ノ手續ノ費用ハ之ヲ財團債權トス

第三百三十八條ノ十四 第三百三十五條ノ六十四ノ規定ハ特別清算ノ場合ニ於ケル監査委員及ヒ清算人ニ付キ之ヲ準用ス

第三百三十八條ノ十五 第三百三十五條ノ二十六乃至第三百三十五條ノ三十七、第三百三十五條ノ三十八第二項、第三百三十五條ノ三十九乃至第三百三十五條ノ四十一、第三百三十五條ノ四十三乃至第三百三十五條ノ四十六、第三百三十五條ノ四十八乃至第三百三十五條ノ五十二、第三百三十五條ノ五十五乃至第三百三十五條ノ五十八、第三百三十五條ノ六十及ヒ第三百三十五條ノ六十一ノ規定ハ特別清算ニ關スル事件ニ之ヲ準用ス

第三百三十八條ノ十六 本章ノ規定ハ其性質ノ許ササルモノヲ除ク外商法第四百八十五條（有限會社法第七十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ清算ニ之ヲ準用ス

第五章 商業登記

第一節 通則

第三百二十九條 商法及ヒ有限會社法ノ規定ニ依リテ登記ノ申請ヲ爲ス者ノ營業所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第四百十條 各登記所ニ左ノ商業登記簿ヲ備フ

一 商號登記簿

二 未成年者登記簿

三 妻登記簿

四 法定代理人登記簿

五 支配人登記簿

六 合名會社登記簿

七 合資會社登記簿

八 株式會社登記簿

九 株式合資會社登記簿

十 有限會社登記簿

十一 外國會社登記簿

第四百一十一條 各登記所ニ各商業登記簿ノ見出帳ヲ備フ

第四百一十二條 登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閱覽ヲ許シ又ハ手数料ヲ納付スルトキハ之ニ其謄本若クハ抄本ヲ交付スヘシ

登記所ハ登記上利害ノ關係ヲ疏明シテ申請ヲ爲シタル者ニ其關係アル部分ニ限り登記簿ノ附屬書類ノ閱覽ヲ許スヘシ

郵便料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ請フトキハ登記所ハ之ヲ送付スヘシ

第四百十三條 登記所ハ申請ニ因リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ爲スヘシ

第四百十四條 登記シタル事項ノ公告ハ官報及ヒ新聞紙上ニ少クモ一回之ヲ爲スコトヲ要ス

公告ハ之ヲ掲載シタル最終ノ官報及ヒ新聞紙發行ノ日ノ翌日之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百十五條 區裁判所ハ毎年十二月ニ翌年登記事項ノ公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙ヲ選定シ官報及ヒ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙カ休刊又ハ廢刊ヲ爲ストキハ更ニ他ノ新聞紙ヲ選定シ前項ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第四百十六條 區裁判所ハ其管轄内ニ公告ヲ爲サシムルニ適當ナル新聞紙ナシト認ムルトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ登記所及ヒ其管轄内ノ市町村役場ノ掲示場ニ公告ヲ爲スコトヲ得

第四百十七條 登記スヘキ事項ノ登記、其變更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十八條 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其更正ヲ申請スルコトヲ得

第四百十九條 登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四百十八條ノ二 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記カ商法、有限會社法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四百十九條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一 申請人ノ氏名、住所、會社カ申請人ナルトキハ其商號及ヒ本店又ハ支店

二 代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其氏名、住所

三 登記ノ目的及ヒ事由

四 年月日

五 登記所ノ表示

第四百二十條 本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請ヲ爲スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサル者アルトキハ其他ノ者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得

連署ヲ爲スコト能ハサル事由ハ之ヲ證明スルコトヲ要ス

第四百二十條ノ二 官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ官廳ノ許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第四百二十條ノ三 本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ニ付キ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ各本條ニ定メタル書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第四百二十一條 登記所ハ登記ノ申請カ商法、有限會社法又ハ本章ノ規定ニ適セサルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ送達スルコトヲ要ス

第四百二十一條ノ二 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記カ商法、有限會社法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ一ヶ月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スヘシ



登記ヲ爲シタル者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スヘシ  
登記所ハ右ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得

第五百一十一條ノ三 異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ  
前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス  
第五百一十一條ノ四 異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判カ確定シタルトキハ登記所ハ職權ヲ以テ登記ヲ抹消スヘシ

第五百一十一條ノ五 前三條ノ規定ハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ノ登記ニ付テハ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ニノミ之ヲ適用ス  
前項ノ場合ニ於テ本店所在地ノ登記所カ抹消シタルトキハ運滞ナク其旨ヲ支店所在地ノ登記所ニ通知スヘシ  
支店所在地ノ登記所カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ運滞ナク登記ヲ抹消スヘシ

第五百一十一條ノ六 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ運滞ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ但シ其錯誤又ハ遺漏カ登記所ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス  
前項但書ノ場合ニ於テハ登記所ハ運滞ナク地方裁判所長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲スヘシ  
第五百一十二條 (削除)

第五百一十三條 (削除)

第五百一十四條 商業登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ同法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メテ登記ノ回復ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得  
第五百一十五條 司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スヘキ商業登記ノ事務ヲ其一登記所ニ委任スルコトヲ得  
第五百一十六條 登記簿ノ複製其他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム  
第五百一十七條 不動産登記法第十條、第十三條、第十八條、第二十條、第二十二條、第二十四條及ヒ第五十九條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ適用ス

第五百一十八條 商號ノ登記ハ同市町村内ニ於テハ同一ノ營業ノ爲メ他人カ登記シタルモノト判然區別シ得ルトキニ非サレバ之ヲ爲スコトヲ得ス  
第五百一十九條 商法施行法第十三條第一項ノ規定ニ依リ他人カ登記シタル商號ト同一ノ商號ノ登記ヲ申請スル者ハ舊商法施行前ヨリ之ヲ使用スルコトヲ證明スルコトヲ要ス  
第六十條 商號ノ登記ノ申請書ニハ第四百九十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外營業ノ種類ヲ記載スヘシ商號ノ變更ノ登記ヲ申請スルトキ亦同シ

第六十一條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ノ承繼人カ商號ヲ綴用セントスルトキハ其資格ヲ證スル書面又ハ讓受證書ヲ添ヘ其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス  
商號讓渡ノ場合ニ在リテハ商法第二十四條第一項ノ規定ニ該當スルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添付スルコトヲ要ス

商號ノ登記ヲ爲シタル者カ氏、名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ運滞ナク其登記ヲ申請スヘシ

第六十一條ノ二 商法第二十六條第二項ノ登記ハ讓渡人及ヒ讓受人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
第六十二條 商號ヲ廢止シ又ハ變更シタルトキハ當事者ハ其登記ヲ申請スヘシ  
相續人又ハ法定代理人カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ申請書ニ其資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス  
第六十一條第三項ノ規定ハ本條第一項ノ申請ニ之ヲ準用ス

第六十三條 商法第三十一條ノ規定ニ依リテ商號登記ノ抹消ヲ申請スル者ハ其登記上利害ノ關係ヲ有スルコトヲ證明スルコトヲ要ス  
第六十四條 第五百一十一條ノ二乃至第五百一十一條ノ四ノ規定ハ前條ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス  
第六十五條 登記所カ第五百一十一條ノ六第二項ノ規定ニ依リ商號ニ關スル登記ノ更正ヲ爲シタルトキハ運滞ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ

第三節 未成年者、妻及ヒ法定代理人ノ登記  
第六十六條 未成年者カ商法第四條ノ營業ヲ爲ス場合ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ法定代理人ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス但シ法定代理人カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス  
親權ヲ行フ母又ハ後見人カ同意ヲ爲シタル場合ニ於テハ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添付スルコトヲ要ス繼父、繼母又ハ嫡母カ同意ヲ爲シタルトキ亦同シ

第六十七條 妻カ商法第四條ノ營業ヲ爲ス場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ夫ノ許可ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス但シ夫カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス  
夫カ未成年者ナルトキハ前項ノ許可ヲ爲スニ付キ必要ナル同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添付スルコトヲ要ス

第六十八條 商法第四條ノ營業ヲ爲スコトヲ許可シタル者カ之ヲ取消シ又ハ之ヲ制限シタルトキハ運滞ナク其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス  
第六十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第六十九條 前條ノ規定ニ從ヒテ制限ノ登記ノ申請アリタルトキハ登記所ハ原登記ニ其旨ヲ記載スヘシ

第七十條 法定財產制ニ異リタル契約ノ登記ヲ爲シタル妻カ商法第五條ノ登記ヲ申請スルトキ又ハ同條ノ登記ヲ爲シタル後管理者ノ變更若クハ共有財產ノ分割ノ登記ヲ爲シタルトキハ書面ヲ以テ登記所ニ其届出ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ノ届出アリタルトキハ登記所ハ當事者ノ商業登記ニ之ヲ記載スヘシ

第七十一條 法定代理人カ無能力者ノ爲メニ商法第四條ノ營業ヲ爲ス場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ法定代理人タル資格ヲ記載シ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス



第四百二十二條 支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記  
之ヲ爲ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ前項ノ登記ハ其會社ヲ代表  
スヘキ社員又ハ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

- 一 支配人ノ氏名、住所
- 二 申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ營業ヲ爲ストキハ  
支配人カ代理スヘキ營業及ヒ其使用スヘキ商號
- 三 支配人ヲ置キタル場所
- 四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定  
メタルトキハ其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ登記ノ年  
月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項第四號ニ掲ケタル事項  
ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四百七十四條 第四百七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅  
並ニ前條第一項第四號ニ掲ケタル事項及ヒ其變更、消滅ノ  
登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事  
項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四百七十五條 清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ  
登記所ノ管轄トス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス  
第四百七十五條ノ二 業務執行社員又ハ取締役カ清算人ト爲リ

タル場合ノ登記ノ申請書ニハ其資格ヲ證スル書面ヲ添附ス  
ルコトヲ要ス

第四百七十六條 清算人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ其選任並ニ  
商法第二百二十三條第一項第二號及ヒ第三號ニ掲ケタル事項  
ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四百七十七條 商法第二百二十三條第一項ニ掲ケタル事項ノ變  
更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ申請ニ因リテ之  
ヲ爲ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス  
第四百七十七條ノ二 第四百八十八條ノ二及ヒ第四百八十八條ノ三  
ノ規定ハ株式會社、株式合資會社及ヒ有限會社ノ清算人ノ  
職務代行者ニ付キ之ヲ準用ス

第四百七十八條 清算ノ終了ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ清  
算人カ其計算ノ承認ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スル  
コトヲ要ス

第四百七十九條 合名會社及ヒ合資會社ノ登記  
テ之ヲ爲ス

- 一 定款
- 二 社員中ニ未成年者又ハ妻アルトキハ其社員タルコト  
ニ同意ヲ爲スヘキ者ノ同意ヲ證スル書面
- 三 財産ヲ目的トスル出資ニ付キ履行ヲ爲シタル部分ヲ  
證スル書面

第四百八十條 合名會社ノ支店ノ設立、其本店又ハ支店ノ移轉  
其他變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ社員ノ申請ニ因リテ

之ヲ爲ス

前項ノ申請書ニハ其登記事項ニ付キ總社員ノ同意又ハ或社  
員ノ一致ヲ要スル場合ニ於テハ會社ヲ代表スヘキ社員ノ定  
アルトキニ限リ總社員ノ同意又ハ或社員ノ一致アリタルコ  
トヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

商法第九十一條第一項ノ規定ニ依リ社員カ退社シタル場合  
ニ於ケル變更ノ登記ノ申請書ニハ差押及ヒ豫告アリタルコ  
トヲ證スル書面、出資ノ履行ヲ爲シタル場合ニ於ケル變更  
ノ登記ノ申請書ニハ其履行アリタルコトヲ證スル書面ヲ添  
附スルコトヲ要ス

社員ノ氏名、名若クハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ  
社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第四百八十一條 合名會社ノ解散ノ登記ハ總社員又ハ其相續人  
ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且相續人カ申請ヲ爲ストキ  
ハ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

會社カ裁判ニ因リテ解散シタル場合ニ於テハ登記所ハ裁判  
所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第四百八十一條ノ二 第四百七十九條第一項ノ規定ハ合名會社ノ  
繼續ノ登記ニ之ヲ準用ス

申請書ニハ繼續ノ事由ヲ記載シ且退社シタル社員アルトキ  
又ハ新ニ社員ヲ加入セシメタルトキハ之ヲ證スル書面ヲ添  
附スルコトヲ要ス

商法第三百三十九條第二項(同法第四百二十二條ニ於テ準用ス

ル場合ヲ含ム)ニ於テ準用スル同法第九十七條ノ規定ニ依  
ル繼續ノ登記ノ申請書ニハ判決ノ謄本ヲ併セテ添附スルコ  
トヲ要ス

第四百八十二條 合名會社ノ合併ニ因ル解散ノ登記ハ解散スヘ  
キ會社ノ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ商法第九十一條第一項ノ規定ニ依ル公告及ヒ催告ヲ  
爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ  
對シ辨濟ヲ爲シ若クハ擔保ヲ供シ又ハ信託ヲ爲シタルコト  
ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

商法第四百一十一條(同法第四百五十八條第二項ニ於テ準用  
スル場合ヲ含ム)ノ場合ニ於テハ合併契約書ヲ併セテ添附  
スルコトヲ要ス

第四百八十二條ノ二 合名會社カ合併ニ因ル變更ノ登記ヲ申請  
スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第四百七十九條第二項及ヒ  
前條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第四百八十二條ノ三 合名會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請  
スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ第四百七十九條第二項及ヒ  
第四百八十二條第二項ニ掲ケタル書類並ニ設立委員ノ資格ヲ  
證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四百八十三條 第四百七十九條第一項ノ規定ハ合名會社ノ合併  
ニ因ル變更又ハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四百八十四條 (削除)

第四百八十四條ノ二 第三百三十五條ノ六ノ規定ハ合名會社ノ設  
立ノ取消ノ判決カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百八十四條ノ三 第四百八十二條第一項ノ規定ハ合名會社ノ  
組織變更ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス



第百八十四條ノ四 商法第百十四條ノ規定ニ依リ合資會社ニ付キ爲スヘキ登記ハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

有限責任社員ヲ加入セシメタル場合ニ於テハ其加入ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十五條 商法第百六十二條第三項ノ規定ニ依リ合名會社ニ付キ爲スヘキ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百八十五條ノ二 第百七十九條第二項及ヒ前條ノ規定ハ商法第百六十三條ノ規定ニ依リ合名會社ニ付キ爲スヘキ登記ニ之ヲ準用ス

第百八十六條 第百七十九條乃至第百八十四條ノ三ノ規定ハ合資會社ノ登記ニ之ヲ準用ス但合名會社ニ於テ總社員ノ申請ニ因リテ爲スヘキ登記ハ合資會社ニ於テハ其無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第六節 株式會社ノ登記

第百八十七條 株式會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 定款
- 二 株式ノ引受ヲ證スル書面
- 三 株式申込證
- 四 取締役及ヒ監査役又ハ檢査役ノ調査報告書及ヒ其附

書類

- 五 檢査役ノ報告ニ關スル裁判アリタルトキハ其原本
- 六 發起人カ取締役及ヒ監査役ヲ選任シタルトキハ之ニ關スル書類
- 七 創立總會ノ議事録
- 八 株金ノ拂込ヲ取扱ヒタル銀行又ハ信託會社ノ拂込金簿

第百八十八條 支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ登記事項ニ付キ株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其議事録ヲ添附スルコトヲ要ス

取締役又ハ監査役ノ氏、名又ハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第百八十八條ノ二 第百三十五條ノ六ノ規定ハ商法第百二十五條第二項(同法第百八十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)及ヒ第百七十條第三項(同法第百七十二條第二項及ヒ第百八十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ定メタル登記ニ之ヲ準用ス

前條第三項ノ規定ハ前項ノ登記アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第百八十八條ノ三 商法第百七十六條第二項ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ取締役及ヒ監査役ノ協議ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十八條第三項ノ規定ハ第一項ノ登記アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第百八十九條 會社ノ資本増加ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類

ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 株式ノ引受ヲ證スル書面
- 二 株式申込證
- 三 商法第百五十四條ノ規定ニ從ヒテ監査役又ハ檢査役カ爲シタル調査報告書及ヒ其附屬書類
- 四 資本ノ増加ニ關スル株主總會ノ議事録
- 五 株金ノ拂込ヲ取扱ヒタル銀行又ハ信託會社ノ拂込金簿ニ關スル證明書

第百八十九條ノ二 商法第百六十三條第一項及ヒ第百六十九條第一項ニ定メタル登記ノ申請書ニハ株式又ハ社債ノ轉換ノ請求書ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十條 會社ノ資本減少ノ登記ノ申請書ニハ之ニ關スル株主總會ノ議事録ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項ノ規定ハ資本減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百九十一條 社債ノ登記ハ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 最終ノ貸借對照表
- 二 社債ノ引受ヲ證スル書面
- 三 社債申込證
- 四 各社債ニ付キ商法第百三十三條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面
- 五 社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ議事録
- 六 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社アルトキハ其委託ヲ證スル書面

第百九十二條 社債ニ關スル變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ總取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百九十三條 會社ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且會社カ株主總會ノ決議ニ因リテ解散シタルトキハ株主總會ノ議事録、合併ニ因リテ解散シタルトキハ合併契約書及ヒ株主總會ノ議事録、營業全部ノ讓渡ニ因リテ解散シタルトキハ其讓渡ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第百八十二條第二項ノ規定ハ株式會社カ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

會社カ裁判ニ因リ解散シタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

第百九十三條ノ二 株式會社カ合併ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 合併契約書
- 二 株式ノ割當及ヒ引受ヲ證スル書面
- 三 第百八十二條第二項ニ掲ケタル書類
- 四 第百八十九條第三號ニ掲ケタル書類
- 五 合併ニ關スル株主總會ノ議事録

商法第百十四條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ申請書ニ社債承繼ノ旨ヲ記載シ合併ニ因リテ消滅スル會社ノ社債ニ關スル登記簿ノ抄本ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス

第百九十三條ノ三 株式會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス



一 合併契約書  
 二 第百八十二條第二項ニ掲ケタル書類  
 三 第百八十七條第二項ニ掲ケタル書類  
 四 設立委員ノ資格ヲ證スル書面  
 前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 第百九十四條 株式會社ノ繼續ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ繼續ノ事由ヲ記載シ株主總會ノ議事録ヲ添付スルコトヲ要ス

第百九十四條ノ二 (削除)  
 第百九十四條ノ三 (削除)  
 第百九十四條ノ四 (削除)  
 第百九十四條ノ五 (削除)  
 第百九十五條 資本ノ増加及ヒ減少、株式ノ轉換ニ依ル株式ノ數ノ増減、社債ノ轉換ニ依ル資本ノ増加及ヒ社債ノ減少、解散、合併ニ因ル變更及ヒ設立並ニ繼續ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
 第百九十五條ノ二 第百九十三條第一項第二項及ヒ前條ノ規定ハ株式會社ノ組織變更ニ因ル解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス  
 第百九十五條ノ三 株式會社ノ組織ヲ變更シ有限會社ト爲シタル場合ニ於ケル設立ノ登記ハ有限會社ノ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
 申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス  
 一 定款  
 二 第百八十二條第二項ニ掲ケタル書類

三 會社ニ現存スル純財産額ヲ證スル書面  
 四 社債ノ償還ヲ完了シタルコトヲ證スル書面  
 第百九十五條ノ四 第百三十五條ノ六ノ規定ハ商法第二百五十條(同法第百八十條第三項、第二百五十二條、第二百五十三條第二項及ヒ第四百十三條第三項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)並ニ同法第三百七十二條及ヒ第三百八十條第三項ニ於テ準用スル同法第三百十七條ニ定メタル登記ニ之ヲ準用ス  
 第七節 株式合資會社ノ登記  
 第百九十六條 株式合資會社ノ設立ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
 第百七十九條第二項及ヒ第百八十七條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス  
 創立總會カ定款ノ變更ヲ決議シタル場合ニ於テハ商法第四百六十四條ノ無限責任社員ノ一致アリタルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添付スルコトヲ要ス  
 第百九十七條 支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其他變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
 前項ノ申請書ニハ株主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其議事録ヲ添付スルコトヲ要スル外第百八十條第二項ノ規定ヲ準用ス  
 無限責任社員又ハ監査役ノ氏、名若クハ住所ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第百九十八條 第百八十九條、第百九十條及ヒ第百九十六條第二項ノ規定ハ資本ノ増加又ハ減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス  
 第百八十九條ノ二及ヒ第百九十六條第一項ノ規定ハ株式ノ轉換ニ依ル株式ノ數ノ増減又ハ社債ノ轉換ニ依ル資本ノ増加及ヒ社債ノ減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス  
 第百九十四條及ヒ第百九十六條第一項ノ規定ハ株式合資會社ノ繼續ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス  
 第百九十八條ノ二 社債ノ登記ハ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
 申請書ニハ第百九十一條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添付スルコトヲ要ス  
 第百九十八條ノ三 社債ニ關スル變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
 申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス  
 第百九十九條 第百七十九條第二項、第百九十三條ノ二、第百九十三條ノ三及ヒ第百九十六條第一項ノ規定ハ合併ニ因ル變更又ハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス  
 第百九十九條 株式合資會社ノ解散ノ登記ハ無限責任社員ノ全員又ハ其相續人及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス但無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於ケル解散ノ登記ハ無限責任社員又ハ其相續人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ  
 第百九十三條ノ規定ハ株式合資會社ノ解散ノ登記ニ付キ之ヲ準用ス  
 第百九十九條ノ二 株式合資會社ノ組織變更ニ因ル解散ノ登記ハ無限責任社員ノ全員及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ株主總會ノ議事録ヲ添付スルコトヲ要ス  
 第百九十九條 株式合資會社ノ組織ヲ變更シ株式會社ト爲シタル場合ニ於ケル設立ノ登記ハ株式會社ノ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
 申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款、株式ノ引受ヲ證スル書面及ヒ組織變更ニ關スル株主總會ノ議事録ヲ添付スルコトヲ要ス  
 前二項ノ規定ハ商法第四百七十條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スル場合ニ之ヲ準用ス  
 第百九十九條ノ二 商法第四百七十一條ノ規定ニ依リテ會社ヲ繼續スル場合ニ於ケル設立ノ登記ハ總社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
 申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款ヲ添付スルコトヲ要ス  
 第百九十九條ノ三 第百八十八條ノ二、第百八十八條ノ三、第百八十八條ノ四ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス  
 第八節 有限會社ノ登記  
 第百一十條ノ四 有限會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
 申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス  
 一 定款  
 二 出資全額ノ拂込又ハ現物出資ノ目的タル財産全部ノ給付アリタルコトヲ證スル書面  
 三 有限會社法第十一條(同法第三十三條第二項ニ於テ



準用スル場合ヲ含ムノ社員總會ノ議事録

第二一五條ノ五 有限會社ノ資本増加ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

一 出資ノ引受ヲ證スル書面

二 出資全額ノ拂込又ハ現物出資ノ目的タル財産全部ノ給付アリタルコトヲ證スル書面

三 資本ノ増加ニ關スル社員總會ノ議事録

第二一六條ノ六 第九十條ノ規定ハ有限會社ノ資本減少ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二一七條ノ七 第九十三條ノ規定ハ有限會社ノ解散ノ登記ニ付キ之ヲ準用ス

第二一八條ノ八 有限會社カ合併ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

一 合併契約書

二 第八十二條第二項ニ掲ケタル書類

三 第二一一條ノ五第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル書類

四 合併ニ關スル社員總會ノ議事録

前項ノ場合ニ於テ合併ヲ爲ス會社ノ一方カ株式會社ナルトキハ其社債ノ償還ヲ完了シタルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添付スルコトヲ要ス

第二一九條ノ九 有限會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

一 合併契約書

二 第八十二條第二項ニ掲ケタル書類

三 第二一一條ノ五第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル書類

四 合併ニ關スル社員總會ノ議事録

前項ノ場合ニ於テ合併ヲ爲ス會社ノ一方カ株式會社ナルトキハ其社債ノ償還ヲ完了シタルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添付スルコトヲ要ス

第二二〇條ノ十 資本ノ増加及ヒ減少、解散、合併ニ因ル變更及ヒ設立並ニ繼續ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

一 定款

二 株式ノ引受ヲ證スル書面

三 第八十二條第二項ニ掲ケタル書類

四 會社ニ現存スル純財産額ヲ證スル書面

五 組織變更ニ關スル社員總會ノ議事録

第二二一條ノ十三 第八十四條ノ二、第八十八條乃至第百八十八條ノ三、第九十五條ノ二及ヒ第九十五條ノ四ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第九節 外國會社ノ登記

第二二二條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキハ會社ノ代表者ハ申請書ニ支店ノ代表者ノ氏名、住所ヲ記載シ且左ノ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

一 本店ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面

二 代表者タル資格ヲ證スル書面

三 會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面

前項ノ書面ハ外國會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第二二三條 日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者ニ變更アリタルトキハ現任代表者ハ管轄登記所ニ其届出ヲ爲スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二二四條 外國會社ノ支店ノ廢止又ハ其登記事項ノ變更ノ登記ハ支店ノ代表者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者カ外國ニ於テ生シタル登記事項ノ變更ニ付キ其登記ヲ申請スル場合ニ於テハ會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證アル書面ニ依リテ變更ノ事實ヲ證明スルコトヲ要ス

第二二五條 外國會社ノ支店カ裁判ニ因リテ閉鎖セラレタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

附則

第二二六條 過料事件ハ他ノ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外過料ニ處セラルヘキ者ノ住所地ノ地方裁判所ノ管轄トス

非訟事件手續法 商事非訟事件 商業登記 外國會社ノ登記 附則

一四一

第三 第二一一條ノ四第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル書類

四 有限會社法第六十二條ニ掲ケタル社員總會ノ議事録

五 設立委員ノ資格ヲ證スル書面

前條第二項ノ規定ハ合併ヲ爲ス會社ノ一方カ株式會社ナル場合ニ之ヲ準用ス

第二二一條ノ十 第九十四條ノ規定ハ有限會社ノ繼續ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二二二條ノ十一 資本ノ増加及ヒ減少、解散、合併ニ因ル變更及ヒ設立並ニ繼續ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二二三條ノ十二 有限會社ノ組織ヲ變更シ株式會社ト爲シタル場合ニ於ケル設立ノ登記ハ株式會社ノ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二二四條ノ十三 第八十四條ノ二、第八十八條乃至第百八十八條ノ三、第九十五條ノ二及ヒ第九十五條ノ四ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第九節 外國會社ノ登記

第二二二條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其登記ヲ申請スルトキハ會社ノ代表者ハ申請書ニ支店ノ代表者ノ氏名、住所ヲ記載シ且左ノ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

一 本店ノ存在ヲ認ムルニ足ル書面

二 代表者タル資格ヲ證スル書面

三 會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ識別スルニ足ル書面

前項ノ書面ハ外國會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第二二三條 日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者ニ變更アリタルトキハ現任代表者ハ管轄登記所ニ其届出ヲ爲スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ届出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二二四條 外國會社ノ支店ノ廢止又ハ其登記事項ノ變更ノ登記ハ支店ノ代表者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

日本ニ於テ登記シタル外國會社ノ支店ノ代表者カ外國ニ於テ生シタル登記事項ノ變更ニ付キ其登記ヲ申請スル場合ニ於テハ會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ日本ニ在ル領事ノ認證アル書面ニ依リテ變更ノ事實ヲ證明スルコトヲ要ス

第二二五條 外國會社ノ支店カ裁判ニ因リテ閉鎖セラレタルトキハ登記所ハ裁判所ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スヘシ

附則

第二二六條 過料事件ハ他ノ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外過料ニ處セラルヘキ者ノ住所地ノ地方裁判所ノ管轄トス

非訟事件手續法 商事非訟事件 商業登記 外國會社ノ登記 附則

一四一



本法施行前ニ裁判所カ申立ヲ受ケ又ハ著手シタル事件ハ舊法令ニ依ル

第二百九條ノ二 外國人ニ關スル非訟事件手續ニシテ條約ニ因リ特ニ定ムルコトヲ要スルモノハ司法大臣之ヲ定ム

第二十條 本法ハ民法及ヒ商法ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和九年法律第三號附則)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十四年法律第七十九號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十四年勅令第五百十號ヲ以テ昭和十五年一月一日ヨリ施行)

本法施行前ニ裁判所ノ受理シタル事件ニハ從前ノ規定ヲ適用ス

商法中改正法律施行法ニ依リ同法第一條ニ於テ謂フ舊法ヲ適用スベキ場合ニ付テハ從前ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス他ノ法令ノ適用上從前ノ規定ヲ適用スベキトキ及他ノ法令中非訟事件手續法ヲ準用スル場合ニ於テ改正規定ニ依ルコト能ハザルトキ亦同シ

本法施行ノ際現ニ他ノ法令ニ於テ第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ本法ニ依ル第二百六條ノ規定ノ改正ニ拘ラズ第二百八條ノ二ノ規定ハ適用セラルルコトナシ但シ當該法令ガ本法施行後第二百六條乃至第二百八條ノ規定ノ準用ヲ止メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

○非訟事件手續法第二條第三項ノ規定ニ

依ル管轄裁判所指定 (大正五年六月十六日 司法省令第十四號)

非訟事件手續法第二條第三項ノ規定ニ依リ東京市ヲ管轄裁判所ノ所在地ト指定ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○商事非訟事件印紙法 (明治二十三年八月十六日 法律第六十六號)

改正 明治四三年第一六號、大正一五年第六五號、昭和二年第三二號、昭和一四年第六八號

商事非訟事件印紙法

朕商事非訟事件印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

商事非訟事件印紙法

第一條 商法及有限會社法中登記ニ關ル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ從ヒ其差出ス書類ニ印紙ヲ貼用ス可シ但口述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 左ニ掲クルモノニ付テハ一圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 抗告又ハ假差押ノ申立

二 債權者ヨリ爲ス破產宣告ノ申立

第三條 左ニ掲クルモノニ付テハ二十五錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一 抗告ニ對スル答辯

○競賣法 (明治三十一年六月二十一日 法律第十五號)

改正 大正一五年第六八號、昭和六年第一九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル競賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

競賣法

第一章 通則

第一條 競買ノ申込ハ他ノ高價競買ノ申込アリタルトキ又ハ競落ヲ爲サスシテ競賣ヲ終了シタルトキハ當然其效力ヲ失フ

第二條 競買人ハ競落ニ因リテ競賣ノ目的タル權利ヲ取得ス

競賣ノ目的ノ上ニ存スル先取特權及ヒ抵當權ハ競落ニ因リテ消滅ス

競買人ハ留置權者、競賣人ニ對シテ優先權ヲ有スル質權者及ヒ其質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル債權者ニ辨濟スルニ非サレハ競賣ノ目的物ヲ受取ルコトヲ得ス

第二章 動産ノ競賣

第三條 動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者其他民法又ハ商法ノ規定ニ依リテ其競賣ヲ爲サントスル者ノ委任ニ因リ競賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所所屬ノ執達吏之ヲ爲ス

前項ノ委任ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ其競買人ト爲ルコトヲ得ス

二 裁判所ノ命令其ノ他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特

定ニ規定セサル非訟事件ニ係ルモノ

第四條 (削除)

第五條 (削除)

第六條 (削除)

第七條 (削除)

第八條 本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第一編第三章第一節ノ規定ヲ準用ス

民事訴訟用印紙法ハ本法ノ規定ニ抵觸セサルモノニ限り之ヲ準用ス



債權者ノ委任ニ因リテ競賣ヲ爲ス場合ニ於テハ債務者ハ現金ヲ以テ代價ヲ提供スルニ非サレハ其競買ノ申込ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 競賣ハ競賣ニ付スヘキ物ノ現在地ニ於テ之ヲ爲ス但其地ニ於テ相當ノ代價ヲ得ル見込ナキトキハ他所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第六條 競賣ノ日時ハ執達吏カ其委任ヲ受ケタルトキ直チニ之ヲ定ムルコトヲ要ス但直チニ之ヲ定ムルコト能ハサル事情アルトキハ此限ニ在ラス

第七條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ豫メ之ヲ公告スルコトヲ要ス

公告ハ競賣ニ付スヘキ物ノ品質及ヒ價格ニ準シ競賣地ニ於ケル適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 競賣委任者ノ氏名、住所
- 二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質
- 三 競賣ノ條件ヲ定メタルトキハ其條件
- 四 競賣ノ場所及ヒ年月日時
- 五 競賣ノ委任ヲ受ケタル執達吏ノ氏名、住所

委任者カ競賣ノ條件ヲ定メサリシトキハ民事訴訟法第五百七十七條第三項ノ規定ヲ準用ス

第八條 競賣ノ場所及ヒ日時ハ競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但通知ヲ受クヘキ者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ此限ニ在ラス

第九條 公告ト競賣トノ間ニハ五日以上ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス但競賣ニ付スヘキ物ニ關シ之ヨリ速ニ競賣ヲ爲スコトヲ得

トヲ要スル特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラス

第十條 高價品ノ競賣ハ鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシメタル後之ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 金銀及ヒ金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得

第十二條 前條ニ掲ケタル物ヲ競賣スル場合ニ於テ競賣ノ日ニ相當ナル競買ノ申込ナキトキハ執達吏ハ金銀及ヒ金銀ノ製品ニ付テハ地金銀ノ相場以上ノ代價、取引所ノ相場アル物ニ付テハ競賣ノ日ノ相場以上ノ代價ヲ以テ任意ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第十三條 競賣ハ其條件ヲ告知シ各競買物ニ付キ競買ノ申込ヲ催告スルニ始マリ最高價競買ノ申込人ニ對シ競落ノ告知ヲ爲スニ因リテ終了ス

競落ノ告知ハ最高價競買ノ申込ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

第十四條 執達吏ハ競賣調書ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シ署名、捺印スヘシ

- 一 競賣委任者ノ氏名、住所
- 二 競賣ニ付スヘキ物ノ種類、數量及ヒ品質
- 三 鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシメタルトキハ其評價額
- 四 競賣ノ場所及ヒ日時
- 五 第九條但書ノ事由アリタルトキハ其事由
- 六 利害ノ關係ヲ有スル者ニ通知ヲ發シタルコト若シ之ヲ發セサリシトキハ其事由

七 告知シタル競賣ノ條件

八 各競買物ニ對スル競落人ノ氏名及ヒ其申込價額

九 競賣ヲ停止シタルトキ又ハ競落ヲ爲ササリシトキハ其事由

十 競賣ノ開始及ヒ完結ノ日時

十一 競賣調書ヲ作りタル場所及ヒ年月日

競賣調書ニハ委任者又ハ其代理人ヲシテ署名、捺印セシメ且競賣ノ公告ヲ爲シ及ヒ通知ヲ發シタルコトヲ證明スル書面及ヒ委任狀ヲ添付スルコトヲ要ス

執達吏ハ委任者ノ請求ニ因リ競賣調書ノ謄本ヲ交付スルコトヲ得

第十五條 執達吏ハ競賣ノ完結後賣得金ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金及ヒ競落セサリシ物ハ運滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付シ又ハ其者ノ爲メニ之ヲ供託スルコトヲ要ス

第十六條 執達吏ハ競賣ニ付キ正副二通ノ計算書ヲ作り其正本ハ計算ニ關スル證明書ト共ニ之ヲ委任者ニ交付シ其副本ハ之ヲ競賣調書ニ添付スヘシ

第十七條 競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ハ競賣ノ完結ニ至ルマテ其手續ニ關スル執達吏ノ處分ニ付キ其所属區裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ裁判ハ申立人ニ之ヲ通知スヘシ此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

異議ノ裁判ハ之ヲ以テ善意ノ競落人ニ對抗スルコトヲ得

第十八條 前條ノ規定ニ依リテ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ競賣ノ停止ヲ命スルコトヲ得但停止ニ因リテ著シキ損害ヲ生スル虞アルトキハ此限ニ在ラス

第十九條 第三者カ競賣ノ目的物ニ關シテ訴ヲ提起シタルコトヲ證明シタルトキハ執達吏ハ其競賣ヲ停止スルコトヲ要ス

物ノ保管ニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキ又ハ運滞ノ爲メ著シク物ノ價格ヲ減少スル虞アルトキハ執達吏ハ競賣ヲ續行シテ賣得金ヲ供託スルコトヲ得

第二十條 前二條ノ規定ニ依リテ競賣ヲ停止シタル場合ニ於テハ執達吏ハ相當ノ方法ヲ以テ競賣ノ目的物ヲ保管スルコトヲ要ス此場合ニ於ケル競賣手續及ヒ保管ノ費用ハ委任者ノ負擔トス

第二十一條 競賣ノ委任ハ競落ノ告知アルマテ之ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル競賣手續ノ費用ハ委任者ノ負擔トス

第二十二條 不動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者、抵當權者其他民法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲サントスル者ノ申立ニ因リ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ爲ス

民事訴訟法第六百四十一條第一項ノ規定ハ競賣ヲ爲スヘキ裁判所ノ管轄ニ之ヲ準用ス

第二十三條 申立人ハ競落期日マテハ最高價競買申込人ノ同意アル場合ニ限り其申立ノ取下ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 競賣ノ申立ハ書面ヲ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 債務者及ヒ所有者ノ氏名、住所



二 競賣ニ付スヘキ不動産ノ表示  
 三 競賣ノ原因タル事由  
 四 年月日  
 五 裁判所  
 申立書ニハ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ノ謄本及ヒ代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其委任狀ヲ添付スルコトヲ要ス  
 抵當證券ノ所持人カ競賣ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ書面ノ外申立書ニ抵當證券ヲ添付スルコトヲ要ス  
 民事訴訟法第六百四十三條第一項第二號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ第一項ノ申立ニ之ヲ準用ス  
 第二十五條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス  
 開始決定ニハ申立人ノ氏名、住所及ヒ前條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名、捺印スヘシ  
 第二十六條 裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ其管轄登記所ニ囑託スヘシ  
 民事訴訟法第六百五十一條第二項、第六百五十二條及ヒ第六百五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 第二十七條 裁判所カ開始決定ヲ爲シタルトキハ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス  
 競賣ノ期日ハ競賣手續ノ利害關係人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス  
 左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス  
 一 申立人

二 債務者及ヒ所有者  
 三 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者  
 四 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者  
 五 知レタル抵當證券ノ所持人及ヒ裏書人  
 第二十八條 裁判所ハ鑑定人ヲシテ競賣ニ付スヘキ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額トスヘシ  
 第二十九條 競賣期日ノ公告ニハ第二十二條ニ掲ケタル者ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス  
 民事訴訟法第六百六十一條ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス  
 第三十條 競賣期日、其開始、競賣調書及ヒ競賣終局ノ告知ニ關スル民事訴訟法第六百五十九條、第六百六十二條乃至第六百六十九條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス  
 第三十一條 競賣期日ニ相當ノ競買申込ナキトキハ裁判所ハ更ニ期日ヲ定メテ競賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第六百七十條ノ規定ヲ準用ス  
 第三十二條 競落期日ハ民事訴訟法第六百六十條ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ開ク  
 競落ノ手續、競落ヲ許ササル場合ノ新競賣期日、競賣ノ履行及ヒ競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關スル民事訴訟法第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條及ヒ第六百八十八條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス  
 第三十三條 競落人ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル後直チニ

代價ヲ裁判所ニ支拂フコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ其裁判ノ謄本ヲ添ヘ競落人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ヲ管轄登記所ニ囑託スヘシ  
 裁判所ハ前項ノ代價ノ中ヨリ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金ハ遲滞ナク之ヲ受取ルヘキ者ニ交付スルコトヲ要ス  
 第三十四條 裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ爲ス前申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス  
 第三十五條 競落ヲ爲サシテ競賣手續ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ第二十六條ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ノ抹消ヲ囑託スヘシ  
 第四章 船舶ノ競賣  
 第三十六條 登記シタル船舶ノ競賣ハ申立ニ因リ其當時ノ碇泊港又ハ船舶ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス  
 第三十七條 競賣ノ申立書ニハ船舶所有者並ニ船長ノ氏名、住所、船舶ノ表示及ヒ競賣ノ原因ヲ記載シ且船舶登記簿ノ謄本及ヒ官ノ認可ヲ要スル場合ニ於テハ其認可ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス  
 第三十八條 競賣期日ノ公告ニハ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨ノ外船舶ノ表示及ヒ其碇泊港又ハ現在ノ場所ヲ記載スルコトヲ要ス  
 第三十九條 前章ノ規定及ヒ民事訴訟法第七百十九條、第七百二十條第二項、第七百二十三條、第七百二十五條ノ規定ハ船舶ノ競賣ニ之ヲ準用ス  
 第五章 増價競賣

第四十條 民法第三百八十四條ノ規定ニ依リテ抵當不動産ノ増價競賣ヲ請求スル債權者ハ第三取得者ニ競賣ノ請求ヲ送達シタル日ヨリ三日内ニ抵當不動産所在地ノ區裁判所ニ競賣ノ申立ヲ爲シ且擔保ノ認許ヲ求ムルコトヲ要ス  
 前項ノ規定ニ依ラサル競賣ノ請求ハ無効トス  
 第四十一條 競賣ノ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ請求債權者之ニ署名、捺印スヘシ  
 一 債務者ノ氏名、住所  
 二 抵當不動産ノ表示  
 三 第三取得者及ヒ讓渡人ノ氏名、住所  
 四 擔保ノ表示  
 五 第三取得者カ提供シタル金額  
 六 請求者カ定メタル増價金額  
 七 年月日  
 八 裁判所  
 申立書ニハ民法第三百八十三條ノ送達ヲ受ケタル日ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス  
 民事訴訟法第六百四十三條第一項第三號乃至第五號、第二項及ヒ第三項ノ規定ハ本條ノ申立ニ之ヲ準用ス  
 第四十二條 裁判所ハ擔保ノ許否ニ付キ期日ヲ定メ決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ  
 期日ニハ請求債權者及ヒ第三取得者ヲ呼出タスヘシ  
 擔保ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
 第四十三條 競賣ノ請求ハ擔保ヲ認許セサル裁判ニ因リテ當然其效力ヲ失フ  
 民法第三百八十四條ニ定メタル期間内ニ第三取得者ニ對シ



テ競賣ノ請求書ヲ送達シタル他ノ債權者ハ前項ノ裁判アリタル日ヨリ三日内ニ第四十條ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 裁判所カ擔保ヲ認許シタルトキハ競賣手續ノ開始ノ決定ヲ爲スヘシ

決定ニハ認許シタル擔保ヲ表示シ且第四十一條第一項第一號乃至第三號、第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第二十五條第二項、第三項及ヒ第二十六條第一項ノ規定ハ本條ノ決定ニ之ヲ準用ス

第四十五條 第二十七條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ增價競賣ニ之ヲ準用ス

左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

一 競賣請求者

二 債務者

三 第三取得者及ヒ讓渡人

四 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者

五 不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者

第四十六條 競賣ノ公告ニハ增價競賣ノ申立ニ因リテ競賣ヲ爲ス旨及ヒ請求者ノ定メタル增價金額ノ外民事訴訟法第六百五十八條第一號乃至第三號、第五號、第七號、第九號及ヒ第十號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第三十三條及ヒ民事訴訟法第六百五十九條乃至第六百六十九條、第六百七十一條乃至第六百七十四條、第六百七十六條乃至第六百八十三條、第六百八十七條ノ規定ハ本章ノ競賣及ヒ競落ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四十七條 競賣期日ニ請求債權者カ定メタル增價金額ニ達

スル競買ノ申込ヲキトキハ請求債權者ヲ以テ競落人トス

民事訴訟法第六百七十八條ノ規定ニ依リ最高價競買人カ其競買ヲ取消シタルトキハ裁判所ハ更ニ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第四十八條 增價競賣ノ擔保ハ競落代價ノ完済ニ因リテ其效力ヲ失フ

第四十九條 裁判所ハ競賣請求者ノ申立ニ因リ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ民事訴訟法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ依ル外本章ノ規定ヲ準用ス

附則

第五十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十一年勅令第二百二十三號ヲ以テ同年七月十六日ヨリ施行)

第五十一條 明治二十三年法律第九十二號增價競賣法ハ本法發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○破産法

(大正十一年四月二十五日) 法律第七十一號

改正 大正一五年第七〇號、昭和一四年第六八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル破産法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

破産法

第一章 實體規定

第一節 總則

第一條 破産ハ其ノ宣告ノ時ヨリ效力ヲ生ス

第二條 外國人又ハ外國法人ハ破産ニ關シ日本人又ハ日本法人ト同一ノ地位ヲ有ス但シ其ノ本國法ニ依リ日本人又ハ日本法人カ同一ノ地位ヲ有スルトキニ限ル

第三條 日本ニ於テ宣告シタル破産ハ破産者ノ財産ニシテ日本ニ在ルモノニ付テノミ其ノ效力ヲ有ス

外國ニ於テ宣告シタル破産ハ日本ニ在ル財産ニ付テハ其ノ效力ヲ有セス

民事訴訟法ニ依リ裁判上ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ債權ハ日本ニ在ルモノト看做ス

第四條 解散シタル法人ハ破産ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第五條 相續人又ハ相續財産ニ對スル破産ノ宣告ハ限定承認又ハ財産分離ヲ妨ケス但シ破産取消若ハ破産廢止ノ決定カ確定シ又ハ破産終結ノ決定アル迄其ノ手續ヲ中止ス

第六條 破産者カ破産宣告ノ時ニ於テ有スル一切ノ財産ハ之

ヲ破産財團トス

破産者カ破産宣告前ニ生シタル原因ニ基キ將來行フコトアルベキ請求權ハ破産財團ニ屬ス

差押フルコトヲ得サル財産ハ破産財團ニ屬セス但シ民事訴訟法第五百七十條第一項第四號第七號ニ掲ケタルモノ、同條第二項ノ規定ニ依リ差押ノ承諾アリタルモノ及破産宣告後差押フルコトヲ得ルニ至リタルモノハ此限ニ在ラス

第七條 破産財團ノ管理及處分ヲ爲ス權利ハ破産管財人ニ專屬ス

第八條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ相續ノ開始アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告後ニ爲シタル單純承認ハ破産財團ニ對シテハ限定承認ノ效力ヲ有ス

第九條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ遺產相續ノ開始アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告後ニ相續ノ拋棄ヲ爲シタルキト雖破産財團ニ對シテハ限定承認ノ效力ヲ有ス

破産管財人ハ前項ノ規定ニ拘ラス拋棄ノ效力ヲ認ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ拋棄アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三月内ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ申述スルコトヲ要ス

第十條 前二條ノ規定ハ包括遺贈ニ之ヲ準用ス

第十一條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ特定遺贈アリタル場合ニ於テ破産カ破産宣告ノ當時承認又ハ拋棄ヲ爲サザリシトキハ破産管財人破産者ニ代リテ其ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得

民法第八十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ之ニ屬スル一切ノ財産ヲ以テ破産財團トス



被相続人カ相續人ニ對シ及相續人カ被相続人ニ對シテ有シタル權利ハ消滅セザリシモノト看做ス

第十三條 隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ留保財產モ亦破産財產ニ屬ス

第十四條 相續人カ相續財產ノ全部又ハ二部ヲ處分シタル後相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人カ反對給付ニ付有スル權利ハ破産財產ニ屬ス

第十五條 破産者ニ對シ破産宣告前ノ原因ニ基キテ生シタル財產上ノ請求權ハ之ヲ破産債權トス

第十六條 破産債權ハ破産手續ニ依ルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十七條 期限附債權ハ破産宣告ノ時ニ於テ辨濟期ニ至リタルモノト看做ス

第十八條 債權カ無利息ニシテ其ノ期限カ破産宣告後ニ到來スヘキ場合ニ於テハ破産債權ノ額ハ破産宣告ノ時ヨリ期限ニ至ル迄ノ破産債權ニ對スル法定利息ヲ債權額ヨリ控除スルモノトス

第十九條 前條ノ規定ハ金額及存續期間ノ確定スル定期金債權ニ之ヲ準用ス但シ其ノ總額カ法定利率ニ依リ其ノ定期金ニ相當スル利息ヲ生スヘキ元本額ヲ超ユルトキハ其ノ元本額ヲ以テ破産債權ノ額トス

第二十條 第十八條ノ場合ニ於テ期限カ不確定ナルトキハ破産宣告ノ時ニ於ケル評價額ヲ以テ破産債權ノ額トス定期金債權ノ金額又ハ存續期間カ不確定ナルトキ亦同シ

第二十一條 前三條ノ規定ハ法人又ハ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十二條 債權ノ目的カ金錢ニ非サルトキ又ハ金錢ナルモ其ノ額カ不確定ナルトキ若ハ外國ノ通貨ヲ以テ定メタルモノナルトキハ破産宣告ノ時ニ於ケル評價額ヲ以テ破産債權ノ額トス

第二十三條 條件附債權ハ其ノ全額又ハ前條ノ規定ニ依ル評價額ヲ以テ破産債權ノ額トス

第二十四條 數人カ各自全部ノ履行ヲ爲ス義務ヲ負フ場合ニ於テ其ノ全員又ハ其ノ中ノ數人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ破産宣告ノ時ニ於テ有スル債權ノ全額ニ付各破産財團ニ對シ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十五條 保證人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債權者ハ破産宣告ノ時ニ於テ有スル債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十六條 數人カ各自全部ノ履行ヲ爲ス義務ヲ負フ場合ニ於テ其ノ全員又ハ其ノ中ノ數人者ハ一人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破産者ニ對シテ將來行フコトアルヘキ求償權ヲ有スル者ハ其ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ債權者カ其ノ債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 前項但書ノ場合ニ於テ前項ノ求償權ヲ有スル者カ辨濟ヲ爲シタルトキハ其ノ辨濟ノ割合ニ應ジテ債權者ノ權利ヲ取得ス

第二十八條 前二項ノ規定ハ擔保ヲ供シタル第三者カ破産者ニ對シテ將來行フコトアルヘキ求償權ニ付之ヲ準用ス

第二十九條 規定ハ數人ノ保證人カ各自債務ノ一部ヲ負擔スヘキ場合ニ於テ其ノ負擔部分ニ付之ヲ準用ス

第三十條 法人ノ債務ニ付其ノ債權者ニ對シテ無限ノ責任ヲ負フ者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ法人ノ債權者ハ破産宣告ノ時ニ於テ有スル債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第三十一條 法人ノ債務ニ付其ノ債權者ニ對シテ有限ノ責任ヲ負フ者又ハ其ノ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ法人ノ債權者ハ有限ノ責任ヲ負フ者ニ對シテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ法人ハ出資ノ請求ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第三十二條 相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ財產ノ分離アリタルトキト雖相續債權者及受遺者ハ其ノ債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第三十三條 相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ第三十條ノ規定ハ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ財產ノ分離アリタルトキト雖相續債權者及受遺者ハ其ノ債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第三十四條 民法第九百八十九條又ハ第九百九十一條ノ場合ニ於テ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第三十五條 相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ第三十條ノ規定ハ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ財產ノ分離アリタルトキト雖相續債權者及受遺者ハ其ノ債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第三十六條 民法第九百八十九條又ハ第九百九十一條ノ場合ニ於テ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第三十七條 民法第九百八十九條又ハ第九百九十一條ノ場合ニ於テ其ノ權利ヲ行フコトヲ得



ニ於テ相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ前戸主ハ將來行フコトアルヘキ求債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十六條第一項但書及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條 左ニ掲クル請求權ハ之ヲ破産債權トセス但シ法人又ハ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 破産宣告後ノ利息

二 破産宣告後ノ不履行ニ因ル損害賠償及違約金

三 破産手續参加ノ費用

四 罰金、科料、刑事訴訟費用、追徴金及過料

第三十九條 破産財團ニ屬スル財產ニ付一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル破産債權ハ他ノ債權ニ先ツ

第四十條 同一順位ニ於テ辨濟スヘキ債權ハ各其ノ債權額ノ割合ニ應ジテ之ヲ辨濟ス

第四十一條 優先權カ一定ノ期間内ノ債權額ニ付存在スル場合ニ於テハ其ノ期間ハ破産宣告ノ時ヨリ溯リテ之ヲ計算ス

第四十二條 相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續債權者ノ債權ハ受遺者ノ債權又ハ相續開始後ノ前戸主ノ債權者ノ債權ニ先ツ

第四十三條 相續財產ニ對シ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル期間内ノ申立ニ因リ相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ノ債權ハ相續債權者及受遺者ノ債權ニ先ツ相續財產ニ付テハ相續債權者及受遺者ノ債權ハ相續人ノ債權者ノ債權ニ先ツ

第四十四條 相續財產及相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ノ債權ハ相續人ノ破産財團ニ付テハ相續債權者及受遺者ノ債權ニ先ツ

第四十五條 相續財產及前戸主ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續開始後ノ前戸主ノ債權者ノ債權ハ前戸主ノ破産財團ニ付テハ相續債權者ノ債權ニ先ツ

第四十六條 法人又ハ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ債權額ト第十八條乃至第二十條ノ規定ニ依リテ定ル額トノ差額ノ請求權及第三十八條ニ掲クル請求權ハ法人ノ債權者又ハ相續債權者ノ他ノ債權ニ後ル

第四十七條 左ニ掲クル請求權ハ之ヲ財團債權トス

一 破産債權者ノ共同ノ利益ノ爲ニスル裁判上ノ費用

二 國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依リ徵收スルコトヲ得ヘキ請求權但シ破産宣告後ノ原因ニ基テ請求權ハ破産財團ニ關シテ生シタルモノニ限ル

三 破産財團ノ管理、換價及配當ニ關スル費用

四 破産財團ニ關シ破産管財人ノ爲シタル行爲ニ因リテ生シタル請求權

五 事務管理又ハ不當利得ニ因リ破産財團ニ對シテ生シタル請求權

六 委任終了又ハ代理權消滅ノ後急迫ノ必要ノ爲ニ爲シタル行爲ニ因リ破産財團ニ對シテ生シタル請求權

七 第五十九條第一項ノ規定ニ依リ破産管財人カ債務ノ履行ヲ爲ス場合ニ於テ相手方カ有スル請求權

八 破産宣告ニ因リテ雙務契約ニ關シ解約ノ申入アリタル

九 場合ニ於テ其ノ終了ニ至ル迄ノ間ニ生シタル請求權

九 破産者及之ニ扶養セラルル者ノ扶助手

第四十八條 破産管財人負擔附遺贈ノ履行ヲ受ケタルトキハ負擔ノ利益ヲ受ケヘキ請求權ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ超エサル限度ニ於テ之ヲ財團債權トス

第四十九條 財團債權ハ破産手續ニ依ラスシテ隨時之ヲ辨濟ス

第五十條 財團債權ハ破産財團ヨリ先ツ之ヲ辨濟ス

第五十一條 破産財團カ財團債權ノ總額ヲ辨濟スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ財團債權ノ辨濟ハ法令ニ定ムル優先權ニ拘ラス未タ辨濟セサル債權額ノ割合ニ應ジテ之ヲ爲ス但シ財團債權ニ付存スル留置權、特別ノ先取特權、質權及抵當權ノ效力ヲ妨ケス

第四十七條第一號乃至第七號ノ財團債權ハ他ノ財團債權ニ先ツ

第五十二條 第十七條乃至第二十條、第二十二條及第二十三條第一項ノ規定ハ第四十七條第七號及第四十八條ニ規定スル財團債權ニ之ヲ準用ス

第五十三條 法律行爲ニ關スル破産ノ效力

第五十四條 破産者カ破産宣告ノ後破産財團ニ屬スル財產ニ關シテ爲シタル法律行爲ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

破産者カ破産宣告ノ日ニ於テ爲シタル法律行爲ハ破産宣告後ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第五十四條 破産宣告ノ後破産財團ニ屬スル財產ニ關シ破産者ノ法律行爲ニ因ラスシテ權利ヲ取得スルモ其ノ取得ハ之

ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ取得ニ之ヲ準用ス

第五十五條 不動産又ハ船舶ニ關シ破産宣告前ニ生シタル登記原因ニ基キ破産宣告ノ後爲シタル登記又ハ不動産登記法第二條第一號ノ規定ニ依ル假登記ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ登記權利者カ破産宣告ノ事實ヲ知ラスシテ爲シタル登記又ハ假登記ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ權利ノ設定、移轉又ハ變更ニ關スル登録又ハ假登録ニ付テ之ヲ準用ス

第五十六條 破産宣告ノ後其ノ事實ヲ知ラスシテ破産者ニ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得

破産宣告ノ後其ノ事實ヲ知リテ破産者ニ爲シタル辨濟ハ破産財團カ受ケタル利益ノ限度ニ於テ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得

第五十七條 爲替手形ノ振出人又ハ裏書人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ支拂人又ハ豫備支拂人カ其ノ事實ヲ知ラズシテ引受又ハ支拂ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ生シタル債權ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ小切手及金錢其ノ他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ之ヲ準用ス

第五十八條 前三條ノ規定ノ適用ニ付テハ破産宣告ノ公告前ニ在リテハ其ノ事實ヲ知ラザリシモノト推定シ公告後ニ在リテハ其ノ事實ヲ知リタルモノト推定ス

第五十九條 雙務契約ニ付破産者及其ノ相手方カ破産宣告ノ當時未タ共ニ其ノ履行ヲ完了セサルトキハ破産管財人ハ其



ノ選擇ニ從ヒ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ破産者ノ債務ヲ履行シテ相手方ノ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ相手方ハ破産管財人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ契約ノ解除ヲ爲スルコトヲ得破産管財人カ求スルカヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得破産管財人カ其ノ期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第六十條 前條ノ規定ニ依リ契約ノ解除アリタルトキハ相手方ハ損害ノ賠償ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

破産者ノ受ケタル反對給付カ破産財團中ニ現存スルトキハ相手方ハ其ノ返還ヲ請求シ現存セサルトキハ其ノ價額ニ付財團債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第六十一條 取引所ノ相場アル商品ノ賣買ニ付一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ時期カ破産宣告後ニ到來スヘキトキハ契約ノ解除アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ損害賠償ノ額ハ履行地又ハ其ノ地ノ相場ノ標準ト爲ルヘキ地ニ於ケル同種ノ取引ニシテ同一ノ時期ニ履行スヘキモノノ相場ト賣買ノ代價トノ差額ニ依リテ之ヲ定ム

前條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル損害賠償ニ付之ヲ準用ス

第一項ノ場合ニ付取引所ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ其ノ定ニ從フ

第六十二條 第五十九條第二項ノ規定ハ民法第六百二十一

條、第六百三十一條又ハ第六百四十二條第一項ノ規定ニ依リ相手方又ハ破産管財人カ有スル解除權ノ行使ニ付之ヲ準用ス

第六十三條 貸貸人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ借賃ノ前拂又ハ借賃ノ債權ノ處分ハ破産宣告ノ時ニ於ケル當期及次期ニ關スルモノヲ除クノ外之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得サルニ因リテ損害ヲ受ケタル者ハ其ノ損害ノ賠償ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

前二項ノ規定ハ地上權及永小作權ニ付之ヲ準用ス

第六十四條 破産者カ請負契約ニ因リ仕事ヲ爲ス義務ヲ負擔スルトキハ破産管財人ハ必要ナル材料ヲ供シ破産者ヲシテ其ノ仕事ヲ爲サシムルコトヲ得其ノ仕事カ破産者自ラ爲スコトヲ要セサルモノナルトキハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ破産者カ其ノ相手方ヨリ受クヘキ報酬ハ破産財團ニ屬ス

第六十五條 委任者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ受任者カ破産宣告ノ通知ヲ受ケス且破産宣告ノ事實ヲ知ラスシテ委任事務ヲ處理シタルトキハ之ニ因リテ生シタル債權ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第六十六條 交互計算ハ當事者ノ一方カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ終了ス此ノ場合ニ於テハ各當事者ハ計算ヲ閉鎖シ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ請求權ハ破産者之ヲ有スルトキハ破産財

團ニ屬シ相手方之ヲ有スルトキハ破産債權トス

第六十七條 數人共同シテ財產權ヲ有スル場合ニ於テ共有者ハ中破産ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ分割ヲ爲ササル定アルトキト雖破産手續ニ依ラスシテ其ノ分割ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ他ノ共有者ハ相當ノ價金ヲ拂ヒテ破産者ノ持分ヲ取得スルコトヲ得

第六十八條 民法第七百九十六條第二項第三項及第七百九十七條ノ規定ハ配偶者ノ財產ヲ管理スル者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ、同法第八百九十七條ノ規定ハ親權ヲ行フ者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 破産財團ニ屬スル財產ニ關シ破産宣告ノ當時緊屬スル訴訟ハ破産管財人又ハ相手方ニ於テ之ヲ受繼クコトヲ得第四十七條第七號ニ掲ケル請求權ニ關スル訴訟ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ訴訟費用ハ之ヲ財團債權トス

第七十條 破産債權ニ付破産財團ニ屬スル財產ニ對シ爲シタル強制執行、假差押又ハ假處分ハ破産財團ニ對シテハ其ノ效力ヲ失フ但シ強制執行ニ付テハ破産管財人ニ於テ破産財團ノ爲其ノ手續ヲ續行スルコトヲ妨ケス

前項但書ノ規定ニ依リ破産管財人カ強制執行ノ手續ヲ續行スルトキハ費用ハ之ヲ財團債權トシ強制執行ニ對スル第三者ノ異議ノ訴ニ付テハ破産管財人ヲ被告トス

前二項ノ規定ハ一般ノ先取特權者カ破産財團ニ屬スル財產ニ對シ爲シタル競賣手續ニ之ヲ準用ス

第七十一條 破産財團ニ屬スル財產ニ對シ國稅徵收法又ハ國

稅徵收ノ例ニ依ル滯納處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ破産ノ宣告ハ其ノ處分ノ續行ヲ妨ケス

破産財團ニ屬スル財產ニ關シ破産宣告ノ當時行政廳ニ屬スル事件アルトキハ其ノ手續ハ受繼又ハ破産手續ノ解止ニ至ル迄之ヲ中斷ス

第六十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六章 否認權

第七十二條 左ニ掲ケル行爲ハ破産財團ノ爲之ヲ否認スルコトヲ得

一 破産者カ破産債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル行爲但シ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル者カ其ノ行爲ノ當時破産債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

二 破産者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後ニ爲シタル擔保ノ供與、債務ノ消滅ニ關スル行爲其ノ他破産債權者ヲ害スル行爲但シ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル者カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

三 前號ノ行爲ニシテ破産者ノ親族、戸主、家族又ハ同居者ヲ相手方トスルモノ但シ相手方カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

四 破産者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタル後又ハ其ノ前三十日内ニ爲シタル擔保ノ供與又ハ債務ノ消滅ニ關スル行爲ニシテ破産者ノ義務ニ屬セス又ハ其ノ方法若ハ時期カ破産者ノ義務ニ屬セサルモノ但シ債權者カ其ノ行



爲ノ當時支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタルコト又ハ破産債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

五 破産者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタル後又ハ其ノ前六月内ニ爲シタル無償行爲及之ト同視スヘキ有償行爲

第七十三條 前條ノ規定ハ破産者ヨリ手形ノ支拂ヲ受ケタル者カ其ノ支拂ヲ受ケサレハ債務者ノ一人又ハ數人ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フヘカリシ場合ニハ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テ最終ノ償還義務者又ハ手形ノ振出ヲ委託シタル者カ振出ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキハ破産管財人ハ之ヲシテ破産者カ支拂ヒタル金額ヲ償還セシムルコトヲ得

第七十四條 支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後權利ノ設定、移轉又ハ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルニ必要ナル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ行爲カ權利ノ設定、移轉又ハ變更アリタル日ヨリ十五日ヲ經過シタル後惡意ニテ爲シタルモノナルトキハ之ヲ否認スルコトヲ得但シ登記及登錄ニ付テハ假登記又ハ假登錄アリタル後本登記又ハ本登錄ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ權利取得ノ效力ヲ生スル登録ニ付テハ準用ス

第七十五條 否認權ハ否認セムトスル行爲ニ付執行力アル債務名義アルトキ又ハ其ノ行爲カ執行行爲ニ基クモノナルトキト雖之ヲ行フコトヲ妨ケス

第七十六條 否認權ハ訴又ハ抗辯ニ依リ破産管財人ノ行フ

第七十七條 否認權ノ行使ハ破産財團ヲ原狀ニ復セシム

第七十二條第五號ニ掲タル行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ相手方カ行爲ノ當時善意ナリシトキハ其ノ現ニ受ケル利益ヲ償還スルヲ以テ足ル

第七十八條 破産者ノ行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ其ノ受ケタル反對給付カ破産財團中ニ現存スルトキハ相手方ハ其ノ返還ヲ請求シ反對給付ニ因リテ生シタル利益カ現存スルトキハ其ノ利益ノ限度ニ於テ財團債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

反對給付ニ因リテ生シタル利益カ現存セザルトキハ相手方ハ其ノ償額ノ償還ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得反對給付ノ償額カ現存スル利益ヨリ大ナル場合ニ於テ其ノ差額ニ付亦同シ

第七十九條 破産者ノ行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ相手方カ其ノ受ケタル給付ヲ返還シ又ハ其ノ償額ヲ償還シタルトキハ相手方ノ償額ハ之ニ因リテ原狀ニ復ス

第八十條 第七十二條、第七十三條及前二條ノ規定ハ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ被相續人、相續人、相續財產管理人及遺言執行者カ相續財產ニ關シテ爲シタル行爲或前戸主カ第十三條ノ財產ニ關シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス

第八十一條 相續財產ニ對シ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ受遺者ニ對スル辨濟其ノ他債務ノ消滅ニ關スル行爲カ其ノ償額ニ先ツ償額ヲ有スル破産債權者ヲ害スルトキハ之ヲ否認スルコトヲ得

第八十二條 相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於

テ第八十條ニ規定スル行爲カ否認セラレタルトキハ相續債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後否認セラレタル行爲ノ相手方ニ其ノ權利ノ償額ニ應シテ殘餘財產ヲ分配スルコトヲ要ス

第八十三條 左ノ場合ニ於テハ否認權ハ轉得者ニ對シテモ亦之ヲ行フコトヲ得

一 轉得者カ轉得ノ當時各其ノ前者ニ對スル否認ノ原因アルコトヲ知リタルトキ

二 轉得者カ破産者ノ親族、戸主、家族又ハ同居者ナルトキ但シ轉得ノ當時各其ノ前者ニ對スル否認ノ原因アルコトヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

三 轉得者カ無償行爲又ハ之ト同視スヘキ有償行爲ニ因リテ轉得シタル場合ニ於テ各其ノ前者ニ對シ否認ノ原因アルトキ

第七十七條第二項ノ規定ハ前項第三號ノ規定ニ依リ否認權ノ行使アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十四條 破産宣告ノ日ヨリ一年前ニ爲シタル行爲ハ支拂ノ停止ノ事實ヲ知リタルコトヲ理由トシテ之ヲ否認スルコトヲ得ス

第八十五條 否認權ハ破産宣告ノ日ヨリ二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス行爲ノ日ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第八十六條 民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ破産債權者ノ提起シタル訴訟カ破産宣告ノ當時緊屬スルトキハ其ノ訴訟手續ハ受續又ハ破産手續ノ解止ニ至ル迄之ヲ中斷ス

第六十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七章 取戻權

第九十二條 破産財團ニ屬スル財產ノ上ニ存スル特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ目的タル財產ニ付別除權ヲ有ス

第九十三條 破産財團ニ屬スル財產ノ上ニ存スル留置權ニシテ商法ニ依ルモノハ破産財團ニ對シテハ之ヲ特別ノ先取特

第八十七條 破産ノ宣告ハ破産者ニ屬セザル財產ヲ破産財團ヨリ取戻ス權利ニ影響ヲ及ホサス

第八十八條 破産宣告前破産者ニ財產ヲ讓渡シタル者ハ擔保ノ目的ヲ以テシタルコトヲ理由トシテ其ノ財產ヲ取戻スコトヲ得ス

第八十九條 賣主カ賣買ノ目的タル物品ヲ買主ニ發送シタル場合ニ於テ買主カ未タ代金ノ全額ヲ辨濟セス且到達地ニ於テ其ノ物品ヲ受取ラサル間ニ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ賣主ハ其ノ物品ヲ取戻スコトヲ得但シ破産管財人カ代金ノ全額ヲ支拂ヒテ其ノ物品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ妨ケス

前項ノ規定ハ第五十九條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第九十條 前條第一項ノ規定ハ物品買入ノ委託ヲ受ケタル間屋カ其ノ物品ヲ委託者ニ發送シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九十一條 破産者カ破産宣告前取戻權ノ目的タル財產ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ取戻權者ハ反對給付ノ請求權ヲ移轉ヲ請求スルコトヲ得破産管財人カ取戻權ノ目的タル財產ヲ讓渡シタル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ破産管財人カ反對給付ヲ受ケタルトキハ取戻權者ハ破産管財人カ反對給付トシテ受ケタル財產ノ給付ヲ請求スルコトヲ得

第八章 別除權

第九十二條 破産財團ニ屬スル財產ノ上ニ存スル特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ目的タル財產ニ付別除權ヲ有ス

第九十三條 破産財團ニ屬スル財產ノ上ニ存スル留置權ニシテ商法ニ依ルモノハ破産財團ニ對シテハ之ヲ特別ノ先取特

破産法 實體規定 取戻權 別除權

一五七



權ト看做ス此ノ先取特權ハ他ノ特別ノ先取特權ニ後ル  
前項ニ規定スルモノヲ除クノ外留置權ハ破産財團ニ對シテ  
ハ其ノ效力ヲ失フ

第九十四條 數人共同シテ財産權ヲ有スル場合ニ於テ其ノ一  
人ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ之ニ對シ共有ニ關スル債  
權ヲ有スル他ノ共有者ハ分割ニ因リテ破産者ニ歸スヘキ共  
有財産ノ部分ニ付別除權ヲ有ス

第九十五條 別除權ハ破産手續ニ依ラスシテ之ヲ行フ  
第九十六條 別除權者ハ其ノ別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受  
クルコト能ハサル債權額ニ付テノ破産債權者トシテ其ノ  
權利ヲ行フコトヲ得但シ別除權ヲ拋棄シタル債權額ニ付破  
産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第九十七條 破産財團ニ屬セサル破産者ノ財産ノ上ニ特別ノ  
先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ權利ノ行使ニ  
依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサル債權額ニ付テノ破産債  
權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得華族世襲財産ヲ差押フ  
ル權利ヲ有スル者及破産者カ更ニ破産ノ宣告ヲ受ケタル場  
合ニ於テ前ノ破産ニ付破産債權ヲ有スル者亦同シ

前項ニ掲クル權利ヲ有スル者ニハ第二編中別除權ニ關スル  
規定ヲ準用ス

第九章 相殺權  
第九十八條 破産債權者カ破産宣告ノ當時破産者ニ對シテ債  
務ヲ負擔スルトキハ破産手續ニ依ラスシテ相殺ヲ爲スコト  
ヲ得

第九十九條 破産債權者ノ債權カ破産宣告ノ時ニ於テ期限附  
若ハ解除條件附ナルトキ又ハ第二十二條ニ掲クルモノナル

トキト雖相殺ヲ爲スコトヲ妨ケス債務カ期限附若ハ條件附  
ナルトキ又ハ將來ノ請求權ニ關スルモノナルトキ亦同シ

第一百條 停止條件附債權又ハ將來ノ請求權ヲ有スル者カ其ノ  
債務ヲ辨濟スル場合ニ於テハ後日相殺ヲ爲ス爲其ノ債權額  
ノ限度ニ於テ辨濟額ノ寄託ヲ請求スルコトヲ得

第一百一條 解除條件附債權ヲ有スル者カ相殺ヲ爲ストキハ其  
ノ相殺額ニ付擔保ヲ供シ又ハ寄託ヲ爲スコトヲ要ス

第一百二條 第十八條乃至第二十條、第二十二條及第二十三條  
ノ規定ハ破産債權者ノ債權ニ之ヲ準用ス

第一百三條 破産債權者カ貸借人ナルトキハ破産宣告ノ時ニ於  
ケル當期及次期ノ借賃ニ付相殺ヲ爲スコトヲ得數金アル  
キハ其ノ後ノ借賃ニ付亦同シ

前項ノ規定ハ地代及小作料ニ付之ヲ準用ス

第一百四條 左ノ場合ニ於テハ相殺ヲ爲スコトヲ得ス  
一 破産債權者カ破産宣告ノ後破産財團ニ對シテ債務ヲ負  
擔シタルトキ  
二 破産者ノ債務者カ破産宣告ノ後他人ノ破産債權ヲ取得  
シタルトキ  
三 破産者ノ債務者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル  
コトヲ知リテ破産債權ヲ取得シタルトキ但シ其ノ取得カ  
法定ノ原因ニ基クトキ、債務者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ  
申立アリタルコトヲ知リタル時ヨリ前ニ生シタル原因ニ  
基クトキ又ハ破産宣告ノ時ヨリ一年前ニ生シタル原因ニ  
基クトキハ此ノ限ニ在ラス

第二編 手續規定  
第一章 總則

合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス  
第一百三條 抗告裁判所ノ決定ハ確定ノ後ニ非サレハ其ノ效  
力ヲ生セス但シ裁判所ハ其ノ決定ヲ以テ直ニ效力ヲ生スヘ  
キコトヲ定ムルコトヲ得

抗告裁判所ノ破産ノ宣告ハ前項ノ規定ニ拘ラス直ニ其ノ效  
力ヲ生ス

第一百四條 破産手續ニ關スル申立、陳述及抗告ハ書面又ハ  
口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第一百五條 本編ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ官報及登記事  
項ノ公告ヲ掲載スヘキ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス

第一百六條 裁判所ノ管轄内ニ前條第一項ノ新聞紙ナキトキ  
ハ公告ハ裁判所及破産者ノ營業所若ハ住所ノ所在地ノ出張  
署ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ公告ハ揭  
示ノ日ヨリ三日ヲ經過シタル後其ノ效力ヲ生ス

第一百七條 本編ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ  
公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一百八條 本編ノ規定ニ依リ公告ノ外送達ヲ爲スヘキ場合  
ニ於テハ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シテ之ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ公告ハ一切ノ關係人ニ對スル送達ノ效  
力ヲ有ス

第一百九條 法人ニ對シテ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ裁判  
所ハ職權ヲ以テ遲滯ナク囑託書ニ破産決定書ノ謄本ヲ添附  
シテ破産ノ登記ヲ各營業所又ハ各事務所ノ所在地ノ登記所  
ニ囑託スルコトヲ要ス

第二百五條 破産事件ハ債務者カ營業者ナルトキハ其ノ主たる  
營業所ノ所在地、外國ニ主タル營業所ヲ有スルトキハ日本  
ニ於ケル主タル營業所ノ所在地、營業者ニ非サルトキ又ハ  
營業所ヲ有セサルトキハ其ノ普通裁判籍ノ所在地ヲ管轄ス  
ル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二百六條 相續財産ニ關スル破産事件ハ相續開始地ヲ管轄ス  
ル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二百七條 前二條ノ規定ニ依ル管轄裁判所ナキトキハ財産ノ  
所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

債權ハ裁判上ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル地ヲ以テ其ノ所在地  
ト看做ス

前二項ノ規定ニ依リ二以上ノ裁判所カ管轄權ヲ有スルトキ  
ハ先ニ破産ノ申立アリタル裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二百八條 破産手續ニ關シテハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ民  
事訴訟法ヲ準用ス

第二百九條 破産事件ニ關シテハ裁判所ハ互ニ法律上ノ補助ヲ  
求ムルコトヲ得

第一百十條 破産手續ニ關スル裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ  
爲スコトヲ得  
裁判所ハ職權ヲ以テ破産事件ニ關シ必要ナル調査ヲ爲スコ  
トヲ得  
第一百十一條 破産手續ニ關スル裁判ハ職權ヲ以テ其ノ送達ヲ  
爲スコトヲ要ス  
第一百十二條 破産手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本編ニ別段ノ  
定アル場合ヲ除クノ外其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ  
即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場



第二百十條 裁判所カ破産者ニ關スル登記アルコトヲ知リタルトキハ職權ヲ以テ遲滞ナク囑託書ニ破産決定書ノ謄本ヲ添附シテ破産ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス破産財團ニ屬スル權利ニシテ登記シタルモノアルコトヲ知リタルトキ亦同シ

第二百十一條 前二條ノ規定ハ破産取消、破産廢止又ハ強制和議取消ノ決定カ確定シタル場合及破産終結ノ決定アリタル場合ニ之ヲ準用ス破産管財人カ破産ノ登記アリタル權利ヲ破産財團ヨリ拋棄シタル場合ニ於テ登記囑託ノ申立アリタルトキ亦同シ

第二百十二條 登記所カ前二條ノ規定ニ依リテ登記ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ノ登記ニ付テハ登録稅ヲ課セス  
第二百十三條 登記ノ原因タル行爲カ否認セラレタルトキハ破産管財人ハ否認ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス登記カ否認セラレタルトキ亦同シ

第二百十四條 前四條ノ規定ハ破産財團ニ屬スル權利ニシテ登録シタルモノニ之ヲ準用ス  
第二百十五條 法人ニ對シテ破産ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ法人ノ設立又ハ目的タル事業ニ付官廳ノ許可アリタルモノナルトキハ裁判所ハ破産ノ宣告アリタル旨ヲ主務官廳ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ破産取消、破産廢止若ハ強制和議取消ノ決定カ確定シ又ハ破産終結ノ決定アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二章 破産宣告

第二百十六條 債權者カ支拂ヲ爲スコト能ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス  
債權者カ支拂ヲ停止シタルトキハ支拂ヲ爲スコト能ハサルモノト推定ス

第二百十七條 法人ニ對シテハ其ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テモ亦破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ規定ハ合名會社及合資會社ノ存立中ハ之ヲ適用セス  
第二百十八條 法人ニ對シテハ其ノ解散ノ後ト雖殘餘財産ノ引渡又ハ分配カ終了セサル間ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二百十九條 相續財産ヲ以テ相續債權者及受遺者ニ對スル債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス  
第二百二十條 破産ノ申立又ハ破産ノ宣告アリタル後相續カ開始シタルトキハ破産手續ハ相續財産ニ對シテ之ヲ續行ス  
破産ノ申立又ハ破産ノ宣告アリタル後ニ於ケル國籍ノ喪失ハ破産手續ニ關シテハ其ノ效力ヲ有セス

第二百二十一條 相續財産ニ對シテハ民法第四百一十一條ノ規定ニ依リ財產分離ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル間ニ限り破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得其ノ間ニ限定承認又ハ財產分離アリタル場合ニ於テハ相續債權者及受遺者ニ對スル擔保力未タ終了セサル間亦同シ

第二百二十二條 債權者又ハ債務者ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
債權者カ破産ノ申立ヲ爲ストキハ其ノ債權ノ存在及破産ノ

原因タル事實ヲ疎明スルコトヲ要ス

第二百二十三條 民法ニ依リテ設立シタル法人又ハ產業組合ニ對シテハ理事、合名會社合資會社又ハ株式合資會社ニ對シテハ無限責任社員、株式會社又ハ相互保險會社ニ對シテハ取締役ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
前項ニ規定スル法人ニ對シテハ清算人モ亦破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二百二十四條 理事、無限責任社員、取締役又ハ清算人ノ全員カ破産ノ申立ヲ爲ササル場合ニ於テハ破産ノ原因タル事實ヲ疎明スルコトヲ要ス  
第二百二十五條 前二條ノ規定ハ第三百三十三條ニ規定スル法人以外ノ法人ニ之ヲ準用ス

第二百二十六條 相續財産ニ對シテハ相續債權者及受遺者ノ外相續人、相續財産管理人及遺言執行者モ亦破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
相續財産管理人、遺言執行者又ハ限定承認若ハ財產分離アリタル場合ニ於テハ相續人カ相續財産ヲ以テ相續債權者及受遺者ニ對スル債務ヲ完済スルコト能ハサルコトヲ發見シタルトキハ直ニ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス

相續人、相續財産管理人又ハ遺言執行者カ破産ノ申立ヲ爲ストキハ破産ノ原因タル事實ヲ疎明スルコトヲ要ス  
第二百二十七條 破産申立ノ當時既ニ外國ニ於テ破産ノ宣告アリタルトキハ破産申立人ハ破産ノ原因タル事實ヲ疎明スルコトヲ要セス

第二百二十八條 破産申立人カ債權者ニ非サルトキハ申立ト同時ニ財產ノ概況ヲ示ヘキ書面並債權者及債務者ノ一覽表

ヲ提出スルコトヲ要ス申立ト同時ニ提出スルコト能ハサルトキハ爾後遲滞ナク之ヲ提出スルコトヲ要ス

第二百二十九條 債權者カ破産ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ破産手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス豫納ナキトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得  
費用ノ豫納ニ關スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第二百三十條 破産申立人カ債權者ニ非サルトキハ破産手續ノ費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨ス破産申立人カ債權者ナル場合ニ於テ費用ノ豫納ナキニ拘ラス裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキ、豫納金カ不足ナルニ至リタルトキ及裁判所カ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二百三十一條 破産決定書ニハ破産宣告ノ年月日時ヲ記載スルコトヲ要ス  
第二百三十二條 裁判所ハ破産ノ宣告ト同時ニ破産管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス  
一 債權届出ノ期間但シ其ノ期間ハ破産宣告ノ日ヨリ二週間以上四月以下ナルコトヲ要ス  
二 第一回ノ債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ハ破産宣告ノ日ヨリ一月内ナルコトヲ要ス

三 債權調査ノ期日但シ其ノ期日ト債權届出期間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス  
前項第二號及第三號ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ妨ケス

第二百三十三條 裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ直ニ左



ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス  
 一 破産決定ノ主文  
 二 破産管財人ノ氏名及住所  
 三 前條ノ規定ニ依リ定メタル期間及期日  
 四 破産者ノ債務者及破産財團ニ屬スル財産ノ所持者ハ破産者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ其ノ財産ヲ交付スヘカラサル旨及債務ヲ負擔スルコト又ハ其ノ財産ヲ所持スルコト、所持者カ別除權ヲ有スルトキハ其ノ債權ヲ有スルコトヲ一定ノ期間内ニ破産管財人ニ届出ツヘキ旨ノ命令  
 ノ期間内ニ破産管財人ニ届出ツヘキ旨ノ命令  
 知レタル債權者、債務者及財産所持者ニハ前項ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス  
 前二項ノ規定ハ第一項第二號乃至第四號ニ掲クル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス  
 第一項第四號ノ届出ヲ怠リタル者ハ之ニ因リテ破産財團ニ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス  
 第四百十四條 裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ遲滞ヲク其ノ旨ヲ檢事ニ通知スルコトヲ要ス  
 第四百十五條 裁判所カ破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認ムルトキハ破産ノ宣告ト同時ニ破産廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ破産決定ノ主文並破産廢止ノ決定ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス  
 前項ノ場合ニ於テ破産廢止ノ決定ノ取消カ確定シタルトキハ前三條ノ規定ヲ準用ス  
 第四百十六條 前條ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社、產業組合其ノ他ノ法人ニハ之ヲ適用セス破産手續

ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ノ豫納アリタル場合亦同シ  
 第四百十七條 破産者ハ裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ居住地ヲ離ルルコトヲ得ス  
 第四百十八條 裁判所ハ必要ト認ムルトキハ破産者ノ引致ヲ命スルコトヲ得  
 引致ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ爲ス  
 引致ニハ刑事訴訟法中勾引ニ關スル規定ヲ準用ス  
 第四百十九條 破産者カ逃走シ又ハ財産ヲ隱匿若ハ毀棄スル虞アルトキハ裁判所ハ其ノ監守ヲ命スルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決定書ノ正本ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス檢事ハ破産者ノ居住地ヲ管轄スル警察官署ニ命シテ監守ヲ執行セシム  
 第五百十條 監守ヲ命セラレタル破産者ハ裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ外人ト面接又ハ通信スルコトヲ得ス  
 第五百十一條 監守ノ必要カ止ミタルトキハ裁判所ハ破産者若ハ破産管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ監守ノ決定ヲ取消スコトヲ要ス  
 前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決定書ノ正本ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス檢事ハ警察官署ニ命シテ監守ヲ解カシム  
 第五百十二條 前五條ノ規定ハ破産者ノ法定代理人、理事及之ニ準スヘキ者並支配人ニ付之ヲ準用ス相續財産ニ對スル破産ニ於テ相續人及前戶主並其ノ法定代理人及支配人ニ付亦同シ  
 第五百十三條 破産者、其ノ代理人並其ノ理事及之ニ準スヘキ者ハ破産管財人、監査委員又ハ債權者集會ノ請求ニ因リ破産ニ關シ必要ナル説明ヲ爲スコトヲ要ス相續財産ニ對ス

ル破産ニ於テ相續人、前戶主、相續財産管理人、遺言執行者並相續人及前戶主ノ代理人亦同シ  
 前項ノ規定ハ前二項ニ規定スル資格ヲ有シタル者ニ之ヲ準用ス  
 第四百十四條 破産ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産宣告前ト雖債務者及第五百十二條ニ規定スル者ノ引致又ハ監守ヲ命スルコトヲ得  
 第四百十五條 破産ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産宣告前ト雖利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産財團ニ關シ假差押、假處分其ノ他ノ必要ナル保全處分ヲ命スルコトヲ得  
 裁判所ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得  
 前二項ノ規定ニ依ル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス  
 第四百十六條 破産取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テハ裁判所ハ直ニ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス  
 第四百十三條第二項、第四百十四條、第五百十一條第二項、第五百十二條及第三百五十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
 第三章 破産管財人  
 第五百十七條 破産管財人ハ裁判所之ヲ選任ス  
 第五百十八條 破産管財人ハ一人トス但シ裁判所必要ト認ムルトキハ數人ヲ選任スルコトヲ得  
 第五百十九條 裁判所ハ破産管財人ニ其ノ選任ヲ證スル書面ヲ交付スルコトヲ要ス  
 破産管財人ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ利害關係人ノ請求アル

トキハ前項ノ書面ヲ示スコトヲ要ス  
 第四百二十條 破産管財人ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ス  
 破産管財人カ其ノ任務ヲ辭セムトスルトキハ裁判所ニ申立ヲ爲スコトヲ要ス  
 第四百二十一條 破産管財人ハ裁判所ノ監督ニ屬ス  
 第四百二十二條 破産財團ニ關スル訴ニ付テハ破産管財人ヲ以テ原告又ハ被告トス  
 第四百二十三條 破産管財人數人アルトキハ共同シテ其ノ職務ヲ行フ但シ裁判所ノ許可ヲ得テ職務ヲ分掌スルコトヲ得  
 破産管財人數人アルトキハ第三者ノ意思表示ハ其ノ一人ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足ル  
 第四百二十四條 破産管財人ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其ノ職務ヲ行フコトヲ要ス  
 破産管財人カ前項ノ注意ヲ怠リタルトキハ其ノ破産管財人ハ利害關係人ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス  
 第四百二十五條 破産管財人ハ臨時故障アル場合ニ於テ其ノ職務ヲ行ハシムル爲自己ノ責任ヲ以テ豫メ代理人ヲ選任スルコトヲ得  
 前項ノ代理人ノ選任ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス  
 第四百二十六條 破産管財人ハ費用ノ前拂及報酬ヲ受クルコトヲ得其ノ額ハ裁判所之ヲ定ム  
 第四百二十七條 裁判所ハ債權者集會ノ決議若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産管財人ヲ解任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ破産管財人ヲ審訊スルコトヲ要ス  
 第四百二十八條 破産管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ破産管



財人又ハ其ノ相續人ハ遲滞ナク債權者集會ニ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

破産者、破産債權者又ハ後任ノ破産管財人カ債權者集會ニ於テ計算ニ付異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

破産管財人ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲計算報告書及監査委員ノ意見書ヲ債權者集會ノ日ヨリ三日前ニ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

第六十九條 破産管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ破産管財人又ハ其ノ相續人ハ後任ノ破産管財人又ハ破産者カ財産ヲ管理スルコトヲ得ルニ至ル迄必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 監査委員ヲ置クカ否ハ第一回ノ債權者集會ニ於テ之ヲ議決スルコトヲ要ス但シ後ノ債權者集會ニ於テ其ノ決議ヲ變更スルコトヲ得

第七十一條 監査委員ハ三人以上トシ債權者集會ニ於テ之ヲ選任ス

監査委員ノ選任ノ決議ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第七十二條 監査委員ノ執行ハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ表決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十三條 各監査委員ハ何時ニテモ破産管財人ニ對シテ破産財團ニ關スル報告ヲ求メ又ハ破産財團ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第七十四條 監査委員ハ何時ニテモ債權者集會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第八十一條 破産債權者ハ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第八十二條 破産債權者ハ確定債權額ニ應ジテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

未確定債權、停止條件附債權、將來ノ請求權又ハ別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ニ付破産管財人又ハ破産債權者ノ異議アルトキハ裁判所ハ議決權ヲ行ハシムヘキカ否及如何ナル金額ニ付之ヲ行ハシムヘキカラ定ム

裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ何時ニテモ前項ノ規定ニ依ル決定ヲ變更スルコトヲ得

第八十三條 債權者集會ノ決議ハ之ヲ以テ監査委員ノ同意ニ代フルコトヲ得

債權者集會ノ決議カ監査委員ノ意見ト異ナルトキハ其ノ決議ニ從フ

第八十四條 債權者集會ノ決議カ破産債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキハ裁判所ハ破産管財人、監査委員若ハ破産債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ決議ノ執行ヲ禁止スルコトヲ得

議決權ヲ有セザリシ破産債權者カ前項ノ申立ヲ爲スニハ其ノ破産債權者タルコトヲ説明スルコトヲ要ス

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ監査委員ヲ解任スルコトヲ得

第七十五條 第六十四條及第六十六條ノ規定ハ監査委員ニ之ヲ準用ス

第五節 債權者集會

第七十六條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所之ヲ招集ス届出ヲ爲シタル總債權額ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル破産債權者ノ申立アリタルトキ亦同シ

第七十七條 債權者集會ノ期日及會議ノ目的タル事項ハ裁判所之ヲ公告スルコトヲ要ス

債權者集會ノ延期又ハ續行ニ付言渡アリタルトキハ送達又ハ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第七十八條 債權者集會ハ裁判所之ヲ指揮ス

第七十九條 債權者集會ノ決議ニハ議決權ヲ行フコトヲ得

ヘキ出席破産債權者ノ過半数ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ半額ヲ超ユル者ノ同意アルコトヲ要ス

債權者集會ノ決議ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

第八十條 前條ノ規定ニ依リ決議ヲ爲スコト能ハサルトキト雖議決スヘキ事項ニ付同意シタル者ノ債權額カ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破産債權者ノ總債權ノ半額ヲ超ユルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ決議アリタルモノト看做スコトヲ得

前項ノ決定ハ裁判所之ヲ公告スルコトヲ要ス

其ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第六節 破産財團ノ管理及換價

第八十五條 破産管財人ハ就職ノ後直ニ破産財團ニ屬スル財產ノ占有及管理ニ著手スルコトヲ要ス

第八十六條 破産管財人必要ト認ムルトキハ裁判所書記、執達吏又ハ公證人ヲシテ破産財團ニ屬スル財產ニ封印ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ封印ヲ爲シタル者ハ調書ヲ作ルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ封印除去ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條 裁判所書記ハ破産宣告ノ後直ニ破産者ノ財產ニ關スル帳簿ヲ閉鎖シ之ニ署名捺印シ且調書ヲ作り之ニ帳簿ノ現狀ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十八條 破産管財人ハ遲滞ナク裁判所書記、執達吏又ハ公證人ノ立會ヲ以テ破産財團ニ屬スル一切ノ財產ノ價額ヲ評定スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ遲滞ノ虞アル場合ヲ除クノ外破産者ノ立會ヲ求ムルコトヲ要ス

第八十九條 破産管財人ハ財產目錄及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

破産管財人ハ財產目錄及貸借對照表ノ謄本ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス封印ニ關スル調書ニ付亦同シ

利害關係人ハ前項ニ規定スル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第九十條 裁判所ハ通信官署又ハ公衆通信取扱所ニ對シ破産者ニ宛テタル郵便物又ハ電報ヲ破産管財人ニ配達スヘキ旨ヲ囑託スルコトヲ要ス

破産管財人ハ其ノ受取りタル前項ノ郵便物又ハ電報ノ開披



ヲ爲スコトヲ得  
破産者ハ前項ノ郵便物又ハ電報ノ閱覽ヲ求メ且破産財團ニ  
關セサルモノノ交付ヲ求ムルコトヲ得  
第九十一條 裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ破産管財人ノ意  
見ヲ聽キ前條第一項ノ囑託ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコト  
ヲ得  
破産取消若ハ破産廢止ノ決定カ確定シタルトキ又ハ破産終  
結ノ決定アリタルトキハ裁判所ハ前條第一項ノ囑託ヲ取消  
スコトヲ要ス  
第九十二條 第一回ノ債權者集會前ニ於テハ破産管財人ハ  
裁判所ノ許可ヲ得テ破産者及之ニ扶養セラルル者ニ扶助料  
ヲ與ヘ又ハ破産者ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得  
貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品ノ保管方法ハ裁判所之ヲ定  
ム  
第九十三條 破産管財人ハ破産宣告ニ至リタル事情並破産  
者及破産財團ニ關スル經過及現狀ニ付第一回ノ債權者集會  
ニ報告ヲ爲スコトヲ要ス  
第九十四條 第一回ノ債權者集會ニ於テハ扶助料ノ給與、  
營業ノ廢止又ハ繼續及高價品ノ保管方法ニ付決議ヲ爲スコ  
トヲ要ス  
第九十五條 破産管財人ハ別除權者ニ對シ其ノ權利ノ目的  
タル財產ヲ示スヘキコトヲ求ムルコトヲ得  
破産管財人カ前項ノ財產ヲ評價セムトスルトキハ別除權者  
ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス  
第九十六條 一般ノ債權調査ノ終了前ニ於テハ破産管財人  
ハ破産財團ノ換價ヲ爲スコトヲ得ス一般ノ債權調査ノ終了

前項和議ノ提供アリタル場合ニ於テ其ノ落著ニ至ル迄亦  
同シ  
破産財團ニ屬スル財產ニシテ遲滞ナク之ヲ換價スルニ非サ  
レハ破産財團ニ損害ヲ生スル虞アルモノハ前項ノ規定ニ拘  
ラス監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ  
得テ破産管財人其ノ換價ヲ爲スコトヲ得  
第九十七條 破産管財人左ニ掲クル行爲ヲ爲スニハ監査委  
員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但シ第七號乃至第十四號ニ掲ク  
ル行爲ニ付千圓以上ノ價額ヲ有スルモノニ關セサルトキハ  
此ノ限ニ在ラス  
一 不動産ニ關スル物權、登記スヘキ日本船舶及外國船舶  
ノ任意賣却  
二 營業權、漁業權、特許權、意匠權、實用新案權及著作  
權ノ任意賣却  
三 營業ノ讓渡  
四 商品ノ一括賣却  
五 借財  
六 第九條第二項ノ規定ニ依ル相續拋棄ノ承認、第十條ノ  
規定ニ依ル包括遺贈拋棄ノ承認及第十一條第一項ノ規定  
ニ依ル特定遺贈ノ拋棄  
七 動産ノ任意賣却  
八 債權及有價證券ノ讓渡  
九 第五十九條第一項ノ規定ニ依ル履行ノ請求  
十 訴ノ提起  
十一 和解及仲裁契約  
十二 權利ノ拋棄

十三 財團債權、取戻權及別除權ノ承認

第十四 別除權ノ目的ノ受戻  
第九十八條 第一回ノ債權者集會前ニ於テ前條ノ規定ニ依  
リ監査委員ノ同意ヲ要スル行爲ヲ爲スノ必要アルトキハ破  
産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス  
監査委員ヲ置カサル場合ニ於テハ破産管財人ハ債權者集會  
ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス但シ急迫ノ必要アルトキハ裁判所  
ノ許可ヲ得ルヲ以テ足ル  
第九十九條 前二條ノ場合ニ於テ破産管財人ハ遲滞ノ虞ア  
ル場合ヲ除クノ外破産者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス  
第二百條 破産管財人カ第九十七條ニ掲クル行爲ヲ爲スニ  
付監査委員ノ同意ヲ得タルトキト雖裁判所ハ破産者ノ申立  
ニ因リ其ノ行爲ノ執行ノ中止ヲ命シ且其ノ行爲ニ關スル決  
議ヲ爲サシムル爲債權者集會ヲ召集スルコトヲ得  
第二百一條 破産管財人カ第九十六條乃至第九十八條ノ  
規定ニ違反シ又ハ前條ノ規定ニ依ル執行中止ノ命令ニ違反  
シタルトキト雖之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得  
ス  
第二百二條 第九十七條第一號及第二號ニ掲クルモノノ換  
價ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ爲ス  
第二百三條 破産管財人ハ民事訴訟法ニ依リ別除權ノ目的タ  
ル財產ノ換價ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別除權者ハ  
之ヲ拒ムコトヲ得ス  
前項ノ場合ニ於テ別除權者ノ受クヘキ金額カ未タ確定セザ  
ルトキハ破産管財人ハ代金ヲ別ニ寄託スルコトヲ要ス此ノ  
場合ニ於テハ別除權ハ代金ノ上ニ存ス

第二百四條 別除權者カ法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ別

除權ノ目的ヲ處分スル權利ヲ有スルトキハ裁判所ハ破産管  
財人ノ申立ニ因リ別除權者カ其ノ處分ヲ爲スヘキ期間ヲ定  
ム  
別除權者カ前項ノ期間内ニ處分ヲ爲ササルトキハ前項ノ權  
利ヲ失フ  
第二百五條 破産管財人ハ債權者集會ノ定ムル所ニ依リ債權  
者集會又ハ監査委員ニ破産財團ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要  
ス  
第二百六條 破産管財人カ其ノ寄託シタル貨幣、有價證券其  
ノ他ノ高價品ノ返還ヲ求ムルニハ監査委員ノ同意、監査委  
員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス但シ債權者集  
會ニ於テ別段ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ニ依ル  
破産管財人カ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テ受寄者カ  
善意ニシテ且過失ナキトキハ辨濟ハ其ノ效力ヲ有ス  
前二項ノ規定ハ破産管財人カ受寄者ヲシテ支拂其ノ他ノ給  
付ヲ爲サシムル爲證券ヲ發行スル場合ニ之ヲ準用ス  
第二百七條 商法第二百二十六條ノ規定ハ法人カ破産ノ宣告ヲ  
受ケタル場合ニ之ヲ準用ス相互保險會社カ破産ノ宣告ヲ受  
ケタル場合ニ於テ基金ノ支拂ニ付亦同シ  
第二百八條 無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社カ破産ノ  
宣告ヲ受ケタルトキハ破産管財人ハ損失分擔ノ割合ニ應ジ  
會社ノ債務ヲ辨濟スルニ必要ナル金額ヲ社員ニ賦課スルコ  
トヲ要ス  
前項ノ場合ニ於テ社員中ニ無資力者アルトキハ其ノ負擔ス  
ヘキ金額ハ他ノ社員之ヲ負擔ス



第二百九條 前條ノ場合ニ於テハ破産管財人ハ第八十九條

第二項ノ規定ニ依リ財産目録及貸借對照表ノ謄本ヲ裁判所ニ提出シタル後直ニ計算表ヲ作り之ニ各社員ノ氏名、住所及負擔額ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百十條 破産管財人ハ前條ノ計算表ニ主務官廳カ認證シタル定款ノ謄本ヲ添附シ之ヲ裁判所ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

破産ノ宣告ヲ受ケタル相互保險會社ニ關スル登記簿カ破産裁判所タル區裁判所ノ出張所ニ在ルトキハ登記所カ交付シタル社員名簿ノ謄本ヲ申請書ニ添付スルコトヲ要ス

第二百十一條 前條ノ申請アリタルトキハ裁判所ハ計算表ニ記載シタル社員ヲ呼出ス爲メ期日ヲ定メ之ヲ公告スルコトヲ要ス

裁判所ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲メ期日ヨリ三日前ニ計算表ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第二百十二條 裁判所ハ前條ノ期日ニ於テ相互保險會社ノ取締役、監査役、破産管財人及監査委員ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

社員ハ期日ニ於テ異議ヲ述フルコトヲ得

第二百十三條 裁判所ハ社員ノ異議ヲ理由アリトスルトキ其ノ他必要ト認ムルトキハ計算表ヲ更正シ又ハ破産管財人ヲシテ之ヲ更正セシメタル後計算表認可ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

計算表認可ノ決定ハ期日又ハ直ニ言渡シタル一週間内ノ期日ニ於テ之ヲ言渡スコトヲ要ス

計算表認可ノ決定書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲メ計算表

ヲ地方裁判所ノ訴訟手續ニ關スル費用ノ一部ト看做ス

第二百十八條 第二百十六條第一項ノ期間内ハ異議ノ訴ニ付口頭辯論ヲ開クコトヲ得ス

第二百十九條 強制執行ノ停止及續行並執行處分ノ取消ニ付テハ民事訴訟法第五百四十七條及第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

第二百二十條 異議ノ訴ニ付爲シタル判決ハ社員ノ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第二百二十一條 社員ノ無資力、異議ノ訴其ノ他ノ理由ニ因リ社員ニ對スル賦課ヲ必要トスルトキハ破産管財人ハ更ニ計算表ヲ作ルコトヲ要ス

第二百二十二條 最後ノ配當ノ許可アリタルトキハ破産管財人ハ最後ノ計算表ヲ作ルコトヲ要ス

第二百二十三條 最後ノ計算表ニ依リ全部ノ辨濟ヲ爲スニ足ルヘキ金額ヲ得ルコト能ハサルトキハ破産管財人ハ更ニ計算表ヲ作ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ脱退シタル社員ニ對シテモ亦其ノ責任ノ限度内ニ於テ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二百二十四條 前十六條ノ規定ハ無責任又ハ保證責任ノ産業組合其ノ他ノ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條 匿名組合契約カ營業者ノ破産ニ因リテ終了シタルトキハ破産管財人ハ匿名組合員カ負擔スヘキ損失ノ額ヲ限度トシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十六條 相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル後限定承認ヲ爲シタルトキ又ハ財産分離アリタルトキハ相續財産ノ處

下共ニ之ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第二百十四條 第二百十一條第一項及前條第二項ノ規定ニ依リ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百十五條 計算表認可ノ決定アリタルトキハ破産管財人ハ遲滞ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

社員ニ對スル強制執行ハ執行文ヲ附シタル決定ノ正本及計算表ノ抄本ニ依リテ之ヲ爲ス

民事訴訟法第五百二十一條、第五百四十五條及第五百四十六條ノ規定ニ依リ訴ハ第二百四十五條ニ定ムル裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二百十六條 各社員ハ計算表認可ノ決定言渡ノ日ヨリ一月ノ不變期間内ニ破産管財人ニ對シ計算表ニ付異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

異議ノ訴ハ期日ニ於テ其ノ理由ヲ主張シタルトキ又ハ過失ナクシテ之ヲ主張スルコト能ハサルコトヲ確明スルニ非サレバ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第二百十七條 前條ノ異議ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ專屬ス但シ訴訟ノ目的ノ價額カ區裁判所ノ權限ヲ超ユル場合ニ於テ本案ノ辯論前ニ當事者ノ申立アリタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ抗告期間ハ決定言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ決定カ確定シタルトキハ事件ハ地方裁判所ニ專屬ス此ノ場合ニ於テハ區裁判所ノ訴訟手續ニ關スル費用ハ之

分ハ破産管財人之ヲ爲スコトヲ要ス限定承認又ハ財産分離アリタル後相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

破産管財人カ前項ノ處分ヲ終ヘタルトキハ殘餘財産ニ付破産財團ノ財産目録及貸借對照表ヲ補充スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ包括受遺者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百十七條 前條ノ規定ハ第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ限定承認ノ效力ヲ有スル場合ニ之ヲ準用ス

第七章 破産債權ノ届出及調査

第二百十八條 破産債權者ハ裁判所ノ定メタル期間内ニ其ノ債權ノ額及原因、一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アリタルトキハ其ノ權利ヲ裁判所ニ届出テ且證據書類又ハ其ノ謄本若ハ抄本ヲ提出スルコトヲ要ス

別除權者ハ前項ニ規定スル事項ノ外別除權ノ目的及其ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受ケタルコト能ハサルヘキ債權額ヲ届出ツルコトヲ要ス

破産債權ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スルトキハ第一項ニ規定スル事項ノ外裁判所、件名及番號ヲ届出ツルコトヲ要ス

第二百十九條 裁判所書記ハ債權表ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 債權者ノ氏名及住所
- 二 債權ノ額及原因
- 三 優先權アルトキハ其ノ權利
- 四 別除權者カ前條第二項ノ規定ニ依リテ届出テタル債權額



裁判所書記ハ債権表ノ謄本ヲ破産管財人ニ交付スルコトヲ要ス

第二百三十條 債権ノ届出ニ關スル書類及債権表ハ利害關係人ノ閲覧ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第二百三十一條 債権調査ノ期日ニ於テハ届出アリタル各債権ニ付第二百二十九條第一項ニ掲クル事項ヲ調査ス

第二百三十二條 破産者ハ債権調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得

届出ヲ爲シタル破産債権者又ハ其ノ代理人ハ債権調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ得代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第二百三十三條 債権ノ調査ハ破産管財人出頭スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百三十四條 期間後ニ届出アリタル債権ニ付テハ破産管財人及破産債権者ノ異議アル場合ヲ除ク外債権調査ノ一期日ニ於テ其ノ調査ヲ爲スコトヲ得

破産管財人又ハ破産債権者ノ異議アリタルトキハ裁判所ハ前項ノ債権ノ調査ヲ爲ス爲特別期日ヲ定ムルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ費用ハ期間後ニ届出ヲ爲シタル破産債権者ノ負擔トス

第二百三十五條 前條ノ規定ハ破産債権者カ届出テタル事項ニ付届出期間後他ノ破産債権者ノ利益ヲ害スヘキ變更ヲ加ヘタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十六條 第二百三十四條第二項ノ規定ハ破産債権者カ債権調査ノ一期日以後ニ債権ノ届出ヲ爲シタル場合ニ之

ヲ準用ス

第二百三十七條 債権調査ノ特別期日ヲ定ムル決定ハ之ヲ公告シ且破産管財人、破産者及届出ヲ爲シタル破産債権者ニ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第二百三十八條 前條ノ規定ハ債権調査ノ期日ノ變更並債権調査ノ延期及續行ニ之ヲ準用ス但シ言渡アリタルトキハ公告及送達ヲ爲スコトヲ要セス

第二百三十九條 前二條ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百四十條 債権調査ノ期日ニ於テ破産管財人及破産債権者ノ異議ナカリシトキハ債権ノ額及優先權ハ之ニ因リテ確定ス

破産者カ異議ヲ述ヘタル債権ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スルトキハ債権者ハ破産者ヲ相手方トシテ之ヲ受繼クコトヲ得

第二百四十一條 裁判所ハ債権調査ノ結果ヲ債権表ニ記載スルコトヲ要ス破産者ノ述ヘタル異議亦同シ

裁判所書記ハ確定シタル債権ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記載シ裁判所ノ印ヲ捺捺スルコトヲ要ス

第二百四十二條 確定債権ニ付テハ債権表ノ記載ハ破産債権者ノ全員ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第二百四十三條 破産債権者カ債権調査ノ期日ニ出頭セサル場合ニ於テ其ノ債権ニ付異議アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ其ノ債権者ニ通知スルコトヲ要ス

第二百四十四條 異議アル債権ニ付テハ其ノ債権者ハ異議者

ニ對シ訴ヲ以テ其ノ債権ノ確定ヲ求ムルコトヲ得

異議者數人アルトキハ之ヲ共同被告トス破産者カ異議者ノ一人ナルトキ亦同シ

裁判所ハ債権者ニ其ノ債権ニ關スル債権表ノ謄本ヲ交付スルコトヲ要ス

第二百四十五條 債権確定ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ專屬ス但シ訴カ地方裁判所ノ權限ニ屬スルトキハ破産裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二百四十六條 異議アル債権ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スル場合ニ於テ債権者カ其ノ債権ノ確定ヲ求ムルコトヲ要ス

トキハ異議者ヲ相手方トシテ訴訟ヲ受繼クコトヲ要ス

第二百四十七條 破産債権者ハ第二百四十一條第一項ノ規定ニ依リ債権表ニ記載シタル事項ニ付テハ其ノ債権確定ノ訴ヲ提起シ又ハ第二百四十條第二項若ハ前條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受繼クコトヲ得

第二百四十八條 執行力アル債務名義又ハ終局判決アル債権ニ付テハ異議者ハ破産者カ爲スコトヲ得ヘキ訴訟手續ニ依リテノミ其ノ異議ヲ主張スルコトヲ得

第二百四十九條 裁判所ハ破産管財人又ハ破産債権者ノ申立定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百五十條 債権ノ確定ニ關スル訴訟ニ付爲シタル判決ハ破産債権者ノ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第二百五十一條 破産財團カ債権ノ確定ニ關スル訴訟ニ因リテ利益ヲ受ケタルトキハ異議ヲ主張シタル破産債権者ハ其ノ利益ノ限度ニ於テ財團債権者トシテ訴訟費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

第二百五十二條 債権ノ確定ニ關スル訴訟ノ目的ノ價額ハ配當ノ確定額ヲ標準トシ受訴裁判所ノ之ヲ定ム

第二百五十三條 公訴附帶ノ私訴ニ付テハ第二百四十六條又ハ第二百四十八條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受繼キ、上訴ヲ爲シ又ハ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

公訴附帶ノ私訴ノ目的タル債権ニ付破産者カ異議者ノ一人ナル場合ニ於テハ之ヲ共同被告トスルコトヲ得ス

第二百五十四條 第三十八條第四號ニ掲クル請求權ニ付テハ國又ハ公共團體ハ遲滞ナク其ノ額及原因ヲ裁判所ニ届出ツルコトヲ要ス

第二百五十一條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ届出アリタル請求權ニ付テハ準用ス

第二百五十五條 前條第一項ノ規定ニ依リ届出アリタル請求權ノ原因カ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘキ處分ナルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其ノ請求權ノ額及原因ヲ破産管財人ニ通知スルコトヲ要ス

第二百五十八條乃至第二百五十條ノ規定ハ破産管財人カ異議ヲ主張スル場合ニ之ヲ準用ス

第八章 配當

第二百五十六條 一般ノ債権調査終了後ニ於テハ破産管財人配當スルニ適當ナル金錢アリト認ムル毎ニ遲滞ナク配當ヲ爲スコトヲ要ス



第二百五十七條 破産管財人配當ヲ爲スニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百五十八條 破産管財人ハ配當表ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 配當ニ加フヘキ債權者ノ氏名及住所

二 配當ニ加フヘキ債權ノ額

三 配當スルコトヲ得ヘキ金額

配當ニ加フヘキ債權ハ優先權ヲ有スニ依リテ之ヲ區別シ優先權アルモノニ付テハ其ノ順位ニ從ヒテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百五十九條 破産管財人ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲配當表ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

第二百六十條 破産管財人ハ配當ニ加フヘキ債權ノ總額及配當スルコトヲ得ヘキ金額ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十一條 異議アル債權ニ付テハ債權者カ配當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ債權ノ確定ニ關スル訴ヲ提起又ハ訴訟ノ受審ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其ノ配當ヨリ除斥セラル

第二百六十二條 別除權者カ前條ニ定ムル除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ權利ノ目的ノ處分ニ著手シタルコトヲ證明シ且其ノ處分ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ヲ證明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラル

第二百六十三條 左ノ場合ニ於テハ破産管財人ハ直ニ配當表ヲ更正スルコトヲ要ス

一 債權表ヲ更正スヘキ事由カ除斥期間内ニ生シタルトキ

二 前二條ニ定ムル事項ノ證明及疏明アリタルトキ

三 別除權者カ除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ權利放棄ノ意思ヲ表示シ又ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受タルコト能ハサルシ債權額ヲ證明シタルトキ

第二百六十四條 債權者ハ配當表ニ對シ除斥期間經過ノ後一週間内ニ限り裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

裁判所カ配當表ノ更正ヲ命シタルトキハ其ノ決定書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ備ヘ置クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ抗告期間ハ決定書ヲ備ヘタル日ヨリ之ヲ起算ス

第二百六十五條 破産管財人ハ前條第一項ニ定ムル期間經過シタル後、異議ノ申立アリタルトキハ其ノ決定アリタル後遅滞ナク配當率ヲ定メ配當ニ加フヘキ各債權者ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

配當率ヲ定ムルニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百六十六條 解除條件附債權ヲ有スル者ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ配當ヲ受クルコトヲ得ス

第二百六十七條 強制和議ノ提供アリタルトキハ裁判所ハ破産管財人カ未ダ配當率ヲ通知ヲ發セサル場合ニ限り提供者ノ申立ニ因リ其ノ配當ノ中止ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十八條 前條ノ規定ニ依リ配當ノ中止ヲ命シタル場合ニ於テ強制和議ノ提供ノ棄却若ハ其ノ不認可ノ決定カ確定シタルトキ又ハ債權者集會ニ於テ強制和議ヲ否決シタルトキハ裁判所ハ配當手續ヲ續行スヘキコトヲ命ス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十九條 債權者ハ破産管財人ニ就キ配當ヲ受クルコトヲ要ス

トヲ要ス

破産管財人カ配當ヲ爲シタルトキハ債權表及債權ノ證書ニ配當シタル金額ヲ記入シ之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第二百七十條 第二百六十一條又ハ第二百六十二條ニ定ムル事項ヲ證明又ハ疏明セサルニ因リテ配當ヨリ除斥セラレタル債權者カ後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ其ノ證明又ハ疏明ヲ爲シタルトキハ前ノ配當ニ於テ受クヘカリシ額ニ付テ他ノ同順位ノ債權者ニ先チテ配當ヲ受クルコトヲ得

第二百七十一條 左ニ掲グル債權ニ對スル配當額ハ破産管財人ノ寄託スルコトヲ要ス

一 第二百四十四條、第二百四十六條又ハ第二百四十八條ノ規定ニ依リ異議アル債權ニ付テ提起又ハ訴訟ノ受審アリタルモノ

二 配當率ノ通知ヲ發スル前ニ訴願又ハ行政訴訟ノ落着セサル債權

三 第二百六十二條ノ規定ニ依リ別除權者カ疏明シタル債權額

四 停止條件附債權及將來ノ請求權

五 第二百六十六條ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セサル場合ニ於ケル解除條件附債權

第二百七十二條 破産管財人最後ノ配當ヲ爲スニハ監査委員ノ同意アリタルトキト雖裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十三條 最後ノ配當ニ關スル除斥期間ハ配當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間以上一月内ニ於テ裁判所之ヲ定ム此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百七十四條 最後ノ配當ニ在リテハ破産管財人ハ配當表

ニ對スル異議落着ノ後遅滞ナク各債權者ニ對スル配當額ヲ定メ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百七十五條 停止條件附債權又ハ將來ノ請求權カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ之ヲ行使スルコトヲ得ルニ至ラサルトキハ其ノ債權者ハ配當ヨリ除斥セラル

第二百七十六條 解除條件附債權ノ條件カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ成就セサルトキハ第二百六十六條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其ノ效力ヲ失ヒ第二百七十一條第五號ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額ハ之ヲ其ノ債權者ニ支拂フコトヲ要ス第百一條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保又ハ寄託シタル金額亦同シ

第二百七十七條 別除權者カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ權利放棄ノ意思ヲ表示セス又ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルシ債權額ヲ證明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラル

第二百七十八條 第二百七十五條又ハ前條ノ規定ニ依リテ除斥セラレタル債權者ノ爲ニ寄託シタル金額ハ之ヲ他ノ債權者ニ配當スルコトヲ要ス第百條ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額亦同シ

第二百七十九條 配當額ノ通知ヲ發スル前新ニ配當ニ充ツヘキ財産アルニ至リタルトキハ破産管財人ハ遅滞ナク配當表ヲ更正スルコトヲ要ス

第二百八十條 左ニ掲グル配當額ハ債權者ノ爲破産管財人之ヲ供託スルコトヲ要ス

一 第二百七十一條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ寄託シタル配當額



二 配當額ノ通知ヲ發スル前ニ異議ノ訴、訴願又ハ行政訴訟ノ落著セサル債權ニ對スル配當額

三 債權者カ受取ラサル配當額

第二百八十一條 計算報告ノ爲ニ招集シタル債權者集會ニ於テハ破産管財人カ價值ナキ爲換價セザリシ財産ノ處分ニ付決議ヲ爲スコトヲ要ス

第二百八十二條 債權者集會終結シタルトキハ裁判所ハ破産終結ノ決定ヲ爲シ且其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百八十三條 配當額ノ通知ヲ發シタル後新ニ配當ニ充ツヘキ相當ノ財産アルニ至リタルトキハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ追加配當ヲ爲スコトヲ要ス破産終結ノ決定アリタル後ト雖亦同シ

破産管財人追加配當ノ許可ヲ得タルトキハ遲滞ナク配當スルコトヲ得ヘキ金額ヲ公告シ且各債權者ニ對スル配當額ヲ定メ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百八十四條 追加配當ハ最後ノ配當ニ付作リタル配當表ニ依リテ之ヲ爲ス

第二百八十五條 破産管財人追加配當ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク計算報告書ヲ作り之ヲ裁判所ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

第二百八十六條 配當率又ハ配當額ノ通知ヲ發スル前破産管財人ニ知レサル財團債權者ハ各配當ニ於テ配當スヘキ金額ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス

第二百八十七條 確定債權ニ付テハ破産者カ債權調査ノ期日

ニ於テ其ノ債權ニ對シテ異議ヲ述ヘザリシ場合ニ限り債權表ノ記載ハ破産者ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

債權者ハ破産終結ノ後債權表ノ記載ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百五條第三項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス

第二百八十八條 破産者カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ債權調査ノ期日ニ出頭スルコト能ハザリシトキハ其ノ事由ノ止ミタル日ヨリ一週間内ニ限り異議ヲ追完スル爲破産裁判所ニ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ破産者ノ異議アル債權ノ債權者ニ原狀回復ノ申立書ヲ送達スルコトヲ要ス

裁判所原狀回復ヲ許シタルトキハ破産者カ債權調査ノ期日ニ於テ異議ヲ述ヘタルト同一ノ效力ヲ生ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權表ニ異議ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第二百八十九條 相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ最後ノ配當ヨリ除外セラレタル相續債權者及受遺者ハ殘餘財産ニ付テ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第九章 強制和議

第二百九十條 破産者ハ何時ニテモ強制和議ノ提供ヲ爲スコトヲ得

第二百九十一條 強制和議ノ提供ハ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス

第二百九十二條 強制和議ノ提供ハ相續財産ニ在リテハ相續人之ヲ爲シ相續人數人アルトキハ其ノ一致アルコトヲ要ス

第二百九十三條 一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ヲ有スル者ハ強制和議ニ付テハ之ヲ破産債權者ト看做サス

第二百九十四條 強制和議ノ提供ヲ爲スニハ提供者ハ辨濟ノ方法、擔保ヲ供セムトスルトキハ其ノ擔保其ノ他強制和議ノ條件ヲ裁判所ニ申出ツルコトヲ要ス

第二百九十五條 強制和議ノ提供者ノ所在不明ナルトキ又ハ詐欺破産ノ公訴繫屬スルトキハ強制和議ヲ爲スコトヲ得ス

詐欺破産ニ付有罪ノ判決確定シタルトキ亦同シ

第二百九十六條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ破産管財人及監査委員ノ意見ヲ聽キ強制和議ノ提供ヲ棄却スルコトヲ得

一 債權者集會ニ於テ強制和議ヲ否決シタルコトアルトキ

二 強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日公告後ニ其ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ

三 強制和議不認可ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ

四 強制和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ

第二百九十七條 裁判所強制和議ノ提供ヲ棄却セザル場合ニ於テ監査委員アルトキハ之ヲシテ意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

第二百九十八條 強制和議ノ提供ニ關スル書類及監査委員ノ意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第二百九十九條 強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日ハ其ノ決定公告ノ日ヨリ一月内ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ要ス

期日ニハ届出ヲ爲シタル破産債權者、強制和議ノ提供者、強制和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他破産者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ破産債權者ノ爲ニ擔保ヲ供スル者、破産管財人及監査委員ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ニ規定スル者ニハ強制和議ノ條件及監査委員ノ意見ノ

要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第三百條 裁判所ハ強制和議ノ提供者及監査委員ノ申立ニ因リ強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日ヲ債權調査ノ一般期日ト併合スルコトヲ得

第三百一條 強制和議ノ提供者ハ期日ニ出頭シテ強制和議ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

強制和議ノ提供者又ハ其ノ代理人期日ニ出頭シテ強制和議ノ申立ヲ爲ササルトキハ其ノ提供ヲ撤回シタルモノト看做ス

第三百二條 強制和議ノ提供者ハ破産債權者ヲ利スル場合ニ限り債權者集會ニ於テ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得

第三百三條 強制和議ハ一般ノ債權調査ノ終了前又ハ最後ノ配當ノ許可アリタル後ハ之ヲ決議スルコトヲ得ス

第三百四條 強制和議ノ條件ハ各破産債權者ニ付平等ナルコトヲ要ス但シ不利益ヲ受クル者ノ同意アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百五條 強制和議ノ提供者又ハ第三者カ強制和議ノ條件ニ依ラスシテ或破産債權者ニ特別ノ利益ヲ與フル行爲ハ之ヲ無効トス

第三百六條 強制和議ヲ可決スルニハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破産債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ届出ヲ爲シタル破産債權者ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ當ル者ノ同意アルコトヲ要ス

前項ノ債權額及總債權ノ計算ニ付テハ確定債權ニ在リテハ



其ノ額ニ依リ其ノ他ノ債權ニ在リテハ裁判所カ第百八十二條第二項ノ規定ニ依リ定メタル所ニ依ル

第三百七條 前條ニ規定スル條件ノ一カ成立シタルトキ又ハ

其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ半額ニ超ユル者カ期日ノ續

行ニ同意シタルトキハ裁判所ハ強制和議ノ提供者ノ申立ニ

因リ又ハ職權ヲ以テ續行期日ヲ定メ之ヲ言渡スコトヲ要ス

第三百八條 強制和議ノ可決アリタルトキハ裁判所ハ其ノ期

日又ハ直ニ言渡シタル期日ニ於テ強制和議ノ認否ニ付決定

ヲ爲スコトヲ要ス

第二百九十九條第二項ニ規定スル者ハ強制和議ノ認否ニ付

意見ヲ述フルコトヲ得

第三百九條 第二百三十八條但書及第二百三十九條ノ規定ハ

前二條ノ規定ニ依リ期日ヲ定ムル決定ニ之ヲ準用ス

第三百十條 裁判所ハ左ノ場合ニ限り破産債權者ノ申立ニ因

リ又ハ職權ヲ以テ強制和議ノ可決ヲ爲スコトヲ得

一 強制和議ノ手續又ハ決議カ法律ノ規定ニ反スル場合ニ

於テ其ノ欠缺カ追完スヘカラサルモノナルトキ

二 第二百九十五條ニ規定スル事由カ強制和議ノ決議後ニ

生シタルトキ

三 強制和議ノ決議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リ

タルトキ

四 強制和議ノ決議カ破産債權者ノ一般ノ利益ニ反スルト

キ

議決權ヲ有セザリシ破産債權者カ前項ノ申立ヲ爲スニハ其

ノ破産債權者タルコトヲ疏明スルコトヲ要ス

第三百十七條 強制和議カ前條ノ破産債權者ノ正當ノ利益ヲ

害スヘキトキハ裁判所ハ其ノ申立ニ因リ強制和議ノ認否ノ

決定ヲ爲スコトヲ要ス

第三百十條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ申立ニ之ヲ準用

ス

第三百十八條 強制和議認否ノ決定ハ之ヲ言渡シ且公告スル

コトヲ要ス但シ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第三百十九條 議決權ヲ有セザリシ破産債權者カ強制和議認

否ノ決定ニ對シテ不服ヲ申立ツルニハ其ノ破産債權者タル

コトヲ疏明スルコトヲ要ス

第三百二十條 強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得サル

破産債權者ハ強制和議ノ認否ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立

ツルコトヲ得ス

第三百二十一條 強制和議ハ認否ノ決定ノ確定ニ因リテ其ノ

效力ヲ生ス

第三百二十二條 強制和議認否ノ決定カ確定シタルトキハ裁

判所書記ハ強制和議ノ條件ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス

第三百二十三條 強制和議認否ノ決定カ確定シタルトキハ破

産管財人ハ財團債權者及一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先

權ヲ有スル者ノ確定債權ノ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

財團債權及一般ノ優先債權アル債權ニシテ異議アルモノニ付

テハ破産管財人ハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス破産管

財人ニ對シテ疏明アリタル一般ノ優先債權ニ付亦同シ

第三百二十四條 第二百八十二條ノ規定ハ強制和議ノ認否ノ

決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

申立人ハ申立ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

第三百十一條 法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ強制

和議ノ可決アリタルトキハ社團法人ニ在リテハ定款ノ變更

ニ關スル規定ニ從ヒ社團法人ニ在リテハ主務官廳ノ認可ヲ

得テ法人ヲ繼續スルコトヲ得

第三百十二條 法人ヲ繼續スルカ否ノ定リタルトキ又ハ遲滯

ナク其ノ手續ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ其ノ法人ノ理事又

ハ之ニ準スヘキ者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議ノ

認否ニ付決定ヲ爲ス爲期日ヲ定メ之ヲ公告スルコトヲ要

ス

前項ノ期日ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

法人ヲ繼續セサルトキ又ハ遲滯ナク其ノ手續ヲ爲ササルト

キハ裁判所ハ強制和議ノ可決ヲ爲スコトヲ要ス

第三百十三條 相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ

於テハ相續債權者ニ限り強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコ

トヲ得

第三百十四條 相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於

テ限定承認又ハ財產分離アリタルトキハ相續人ノ債權者ニ

限り強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十五條 相續財產及相續人又ハ前主ニ對シテ破産ノ

宣告アリタル場合ニ於テハ相續人又ハ前主ノ強制和議ニ

付テハ相續人ノ債權者又ハ前主ノ相續開始後ノ債權者ニ

限リ之ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十六條 前三條ノ場合ニ於テハ強制和議ニ關スル決議

ニ加ハルコトヲ得サル破産債權者ノ債權ハ第三百六條第一

項ノ總債權ニ之ヲ算入セス

強制和議ニ定メタル制限ニ從フコトヲ要ス

第三百二十六條 強制和議ハ破産債權者ノ全員ノ爲且其ノ全

員ニ對シテ效力ヲ有ス

強制和議ハ破産債權者カ破産者ノ保證人其ノ他破産者ト共

ニ債務ヲ負擔スル者ニ對シテ有スル權利及破産債權者ノ爲

ニ供シタル擔保ニ影響ヲ及ホサス

第三百二十七條 法人ノ債務ニ付責任ヲ負フ社員ハ破産債權

者ニ對シ強制和議ノ定ムル限度ニ於テ其ノ責任ヲ負フ但シ

強制和議ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

第三百二十八條 確定債權ヲ有スル破産債權者ハ破産者カ債

權調査ノ期日ニ於テ其ノ債權ニ對シ異議ヲ述ヘザリシ場合

ニ限り破産終結ノ後破産者、強制和議ノ爲ニ保證人ト爲リ

其ノ他破産者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ破産債權者ノ爲ニ擔

保ヲ供シタル者ニ對シ債權表ノ記載ニ基キテ強制執行ヲ爲

スコトヲ得但シ民法第四百五十二條及第四百五十三條ノ適

用ヲ妨ケス

第二百十五條第三項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百

五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十九條 強制和議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ

至リタルトキハ各破産債權者ハ強制和議ヲ以テ定メタル議

決ヲ取消スコトヲ得但シ過失ニ因リ強制和議ノ認否ノ申立

ヲ爲サザリシ破産債權者ハ此ノ限ニ在ラス

議歩ノ取消權ハ破産債權者カ取消ノ原因ヲ知りタル時ヨリ

第三百二十五條 破産財團ノ管理及處分ニ付テハ破産者ハ強

制和議

手續規定

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議

強制和議



ノ履行ヲ受ケサル破産債権者ハ強制和議ヲ以テ定メタル讓歩ヲ取消スコトヲ得

第三百三十一條 讓歩ノ取消ハ破産債権者カ強制和議ニ因リテ得タル權利ニ影響ヲ及ボサス

讓歩ノ取消ニ因リテ回復シタル債權額ニ付テハ破産債権者ハ強制和議ノ履行完了ノ後ニ非サレハ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス

第三百三十二條 破産者カ強制和議ノ履行ヲ怠リタル場合ニ於テ届出ヲ爲シタル破産債権者ノ過半数ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ當ル者ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

強制和議ノ定ムル所ニ從ヒ全部ノ履行ヲ受ケタル破産債権者ハ前項ノ申立ニ必要ナル員數ニハ之ヲ算入セス全部又ハ一部ノ履行ヲ受ケタル者ニ付テハ從前ノ破産債権ノ額ヨリ其ノ受ケタル額ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ債權額トス

第一項ノ債權額及總債權ノ計算ニ付テハ第三百六條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三百三十三條 詐欺破産ニ付有罪ノ判決カ確定シタルトキハ裁判所ハ破産債権者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議ノ取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ有罪ノ判決確定前ト雖第五百四條及第五百五條ニ定ムル處分ヲ命スルコトヲ得

第三百三十四條 第三百三十一條第一項ノ規定ハ強制和議ノ取消ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條 強制和議取消ノ決定カ確定シタルトキハ破産手續ヲ續行ス

第三百三十六條 第一編ノ規定ノ適用ニ付テハ強制和議ノ取消ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做シ第三百三十二條ノ場合ニ在リテハ強制和議取消ノ申立、第三百三十三條ノ場合ニ在リテハ公訴ノ提起ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做ス

第三百三十七條 第四百一條乃至第四百六條及第五百五條乃至第五百六條ノ規定ハ強制和議ノ取消ニ付之ヲ準用ス

破産手續續行ノ費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

第三百三十八條 強制和議ノ效力ヲ受ケタル債権者ニ付テハ從前ノ破産債権ノ額ヨリ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタル額ヲ控除シタルモノヲ以テ破産債権ノ額トス

第三百三十九條 從前ノ確定債權ニ付テハ破産債権者カ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタル額ノミヲ調査ス

第三百四十條 強制和議ノ效力ヲ受ケタル債権者カ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタルモノアルトキハ從前ノ破産債權ノ額ヲ以テ配當ニ加フヘキ債權ノ額ト看做シ破産財團ニ其ノ債権者カ受ケタルモノヲ加算シテ配當率ノ標準ヲ定ム

但シ其ノ債権者ハ他ノ破産債権者カ自己ノ受ケタルモノト同一ノ割合ノ配當ヲ受ケタル迄ハ配當ヲ受ケタルコトヲ得ス

第三百四十一條 破産終結ノ後破産者カ強制和議ノ效力ヲ受ケタル債権者ニ對シテ爲シタル擔保ノ供與ハ強制和議ノ取消ニ因リテ其ノ效力ヲ失フ

第三百四十二條 強制和議ノ效力ヲ受ケタル債権者ハ從前ノ債權ニ付テハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第三百四十三條 強制和議取消ノ申立及破産ノ申立アリタル

付亦同シ

前項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第三百四十八條 法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ破産廢止ノ申立ヲ爲スニハ法人繼續ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

此ノ場合ニ於テハ第三百三十一條ノ規定ヲ準用ス

第三百四十九條 破産廢止ノ申立ヲ爲スニハ其ノ申立ニ必要ナル條件カ具備スルコトヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百五十條 裁判所ハ破産廢止ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲其ノ申立ニ關スル書類ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第三百五十一條 破産債権者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間内ニ破産廢止ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ期間經過前ニ届出ヲ爲シタル破産債権者モ亦異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百五十二條 裁判所ハ前條第一項ノ期間經過ノ後破産廢止ノ決定ヲ爲スニ必要ナル條件カ具備スルカ否ニ付破産者、破産管財人及異議ヲ申立テタル破産債権者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百五十三條 破産宣告ノ後裁判所カ破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタルトキハ破産管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債権者集會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

場合ニ於テ裁判所カ其ノ一ニ付強制和議取消ノ決定又ハ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ他ノ一ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル棄却ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百四十四條 第三百三十一條第一項及第三百三十八條乃至第三百四十一條ノ規定ハ強制和議ノ履行完了前ニ破産ノ宣告アリタル場合ニ之ヲ準用ス第三百三十三條ノ規定ニ依リ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テ破産ノ宣告アリタルトキ亦同シ

第三百四十五條 相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續人ハ強制和議ノ履行完了前其ノ固有財產ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財產ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但シ強制和議ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

民法第六百四十五條、第六百四十六條、第六百五十五條第一項第二項及第一千二百一十一條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百四十六條 第三百三十一條ノ規定ハ相續財產ニ關スル強制和議取消ノ申立ニ之ヲ準用ス

第十章 破産廢止

第三百四十七條 破産者ハ債權届出ノ期間内ニ届出ヲ爲シタル總破産債権者ノ同意ヲ得タルトキ又ハ同意ヲ爲ササル破産債権者ニ對シ他ノ破産債権者ノ同意ヲ得テ破産財團ヨリ擔保ヲ供シタルトキハ破産廢止ノ申立ヲ爲スコトヲ得

未確定債權ニ付其ノ債権者ノ同意ヲ必要トスヘキカ否ハ裁判所之ヲ定ム破産債権者ニ供スヘキ擔保カ相當ナルカ否ニ



前項ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社、産業組合其ノ他ノ法人ニハ之ヲ適用セズ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ノ費納アリタル場合亦同シ

第三百五十四條 裁判所カ破産廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百五十五條 破産廢止ノ決定カ確定シタルトキハ破産管財人ハ財團債權ノ辨濟ヲ爲シ異議アルモノニ付テハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス

第三百五十六條 第二百九十一條及第二百九十二條ノ規定ハ破産廢止ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三百五十七條 第二百八十七條ノ規定ハ破産廢止ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一章 小破産

第三百五十八條 破産財團ニ屬スル財産ノ額カ一萬圓ニ滿タスト認ムルトキハ裁判所ハ破産ノ宣告ト同時ニ小破産ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ第四百三十三條第一項ニ掲ケル事項ノ外小破産決定ノ主文ヲ公告シ且同條第三項ノ書面ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百五十九條 裁判所破産手續中ニ破産財團ニ屬スル財産ノ額カ一萬圓ニ滿タサルコトヲ發見シタルトキハ小破産ノ決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ小破産ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判所ハ決定ノ主文ヲ公告シ且破産管財人、監査委員並知レタル債權者及債務者ニ之ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第三百六十條 裁判所破産手續中ニ破産財團ニ屬スル財産ノ額カ一萬圓以上ナルコトヲ發見シタルトキハ小破産取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三百六十一條 小破産ノ決定及小破産取消ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百六十二條 第一回ノ債權者集會ノ期日及債權調査ノ期日ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ併合スルコトヲ要ス

第三百六十三條 監査委員ハ之ヲ置カス

第三百六十四條 第一回ノ債權者集會、強制和議取消後ノ第一回ノ債權者集會並債權調査、計算報告及強制和議ノ爲ニスル債權者集會ヲ除クノ外裁判所ノ決定ヲ以テ債權者集會ノ決議ニ代フ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百六十五條 配當ハ一回トシ最後ノ配當ニ關スル規定ニ依ル但シ追加配當ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三百六十六條 小破産手續ニ關スル公告ハ第四百十六條ノ規定ニ依ル揭示ヲ爲スヲ以テ足ル

第三編 復権

第三百六十七條 破産者カ辨濟其ノ他ノ方法ニ因リ破産債權者ニ對スル債務ノ全部ノ免責ヲ得タルトキハ破産裁判所ハ破産者ヲ申立ニ因リ復権ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

申立人ハ免責ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百六十八條 復権ノ決定ハ確定ノ後ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三百六十九條 裁判所ハ復権ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲其ノ申立ニ關スル書類ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第三百七十條 破産債權者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ三月内ニ復権ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百七十一條 異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産者及異議ヲ申立タル破産債權者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百七十二條 復権ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百七十三條 第八條乃至第十二條及第十四條乃至第一百十七條ノ規定ハ復権ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四編 罰則

第三百七十四條 債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハス自己若ハ他人ノ利益ヲ圖リ又ハ債權者ヲ害スル目的ヲ以テ左ニ掲ケル行爲ヲ爲シ其ノ宣告確定シタルトキハ詐欺破産ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

一 破産財團ニ屬スル財産ヲ隱匿、毀棄又ハ債權者ノ不利ニ爲シタルコト

二 破産財團ノ負擔ヲ虚偽ニ増加スルコト

三 法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラズ、之ニ財産ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

四 第四百八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

第三百七十五條 債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハス左ニ掲ケル

行爲ヲ爲シ其ノ宣告確定シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 浪費又ハ賭博其ノ他ノ射倖行爲ヲ爲シ因テ著ク財産ヲ減少シ又ハ過大ノ債務ヲ負擔スルコト

二 破産ノ宣告ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ著ク不利益ナル條件ニテ債務ヲ負擔シ又ハ信用取引ニ因リ商品ヲ買入レ著ク不利益ナル條件ニテ之ヲ處分スルコト

三 破産ノ原因タル事實アルコトヲ知ルニ拘ラス或債權者ニ特別ノ利益ヲ與フル目的ヲ以テ爲シタル擔保ノ供與又ハ債務ノ消滅ニ關スル行爲ニシテ債務者ノ義務ニ屬セス又ハ其ノ方法若ハ時期カ債務者ノ義務ニ屬セサルモノ

四 法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラズ、之ニ財産ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

五 第四百八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

第三百七十六條 債務者ノ法定代理人、理事及之ニ準スヘキ者並支配人前二條ニ規定スル行爲ヲ爲シ債務者ニ對スル破産宣告確定シタルトキハ前二條ノ例ニ依リ相續財産ニ對スル破産ニ於テ相續人及前戶主並其ノ法定代理人及支配人ニ付亦同シ

第三百七十七條 本法ニ依リ監守ヲ命セラレタル者逃走シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得スシテ外人ト面接若ハ通信シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

破産者裁判所ノ許可ヲ得スシテ居住地ヲ離レタルトキ前項ニ同シ







確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 和議廢止ノ決定アリタル場合又ハ和議不認可若ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テ裁判所ハ破産ノ申立アルトキハ其ノ申立ニ因リ、申立ナキトキハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス

第十條 前條第一項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告アリタルトキハ破産法第一編ノ適用ニ付テハ和議開始若ハ和議取消ノ申立又ハ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ和議申立人ノ行爲ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做シ和議ノ爲ニ生シタル債權及和議手續ノ費用ハ之ヲ財團債權トス

第十一條 破産法第二條、第三條、第九條乃至第一百一條、第十三條乃至第一百八條及第二百五條ノ規定ハ和議ニ關シ之ヲ準用ス

第十二條 破産ノ原因タル事實アル場合ニ於テハ債務者ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス

第十三條 和議開始ノ申立ヲ爲スニハ辨濟ノ方法、擔保ヲ供セムトスルトキハ其ノ擔保其ノ他和議ノ條件ヲ裁判所ニ申

出ツルコトヲ要ス  
和議申立人ハ申立ト同時ニ財産ノ狀況ヲ示スヘキ明細書並債權者及債務者ノ一覽表ヲ提出スルコトヲ要ス申立ト同時ニ提出スルコト能ハサルトキハ爾後遲滞ナク之ヲ提出スルコトヲ要ス

第十四條 和議開始ノ申立ヲ爲スニハ和議手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス

第十五條 和議開始ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 破産ノ宣告アリタル後ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 和議開始ノ申立及破産ノ申立アリタルトキハ破産手續ハ之ヲ中止ス

第十八條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス

一 破産回避ノ目的ヲ以テ申立ヲ爲シタルトキ  
二 和議申立人ノ所在カ不明ナルトキ  
三 詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ行爲アリト認ムルトキ  
四 和議ノ條件カ法律ノ規定ニ反スルトキ  
五 和議ノ條件カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得

一 和議手續ノ費用ノ豫納ナキトキ  
二 債權者集會ニ於テ和議ヲ否決シタルコトアルトキ  
三 和議開始ノ申立又ハ和議ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ

第二十七條 裁判所ハ和議開始ノ決定ト同時ニ管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一 債權届出ノ期間但シ其ノ期間ハ決定ノ日ヨリ二週間以上二月以下ナルコトヲ要ス  
二 債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ト債權届出期間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス  
三 和議開始ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 裁判所カ和議開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

一 和議開始決定ノ主文  
二 管財人ノ氏名及住所  
三 債權届出ノ期間及債權者集會ノ期日  
知レタル債權者、和議申立人、管財人及整理委員ニハ前項ニ掲グル事項、和議ノ條件及整理委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第二十九條 裁判所カ和議開始決定取消ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

第三十條 和議開始ノ申立ニ關スル書類並第二十一條ノ規定ニ依リ整理委員ノ調査書類及意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第三十一條 和議開始申立ノ時ヨリ決定ノ時迄ハ債務者ハ通常ノ範圍ニ屬セサル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 和議廢止ノ決定アリタル場合又ハ和議不認可若ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テ裁判所ハ破産ノ申立アルトキハ其ノ申立ニ因リ、申立ナキトキハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス

第十條 前條第一項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告アリタルトキハ破産法第一編ノ適用ニ付テハ和議開始若ハ和議取消ノ申立又ハ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ和議申立人ノ行爲ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做シ和議ノ爲ニ生シタル債權及和議手續ノ費用ハ之ヲ財團債權トス

第十一條 破産法第二條、第三條、第九條乃至第一百一條、第十三條乃至第一百八條及第二百五條ノ規定ハ和議ニ關シ之ヲ準用ス

第十二條 破産ノ原因タル事實アル場合ニ於テハ債務者ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス

第十三條 和議開始ノ申立ヲ爲スニハ辨濟ノ方法、擔保ヲ供セムトスルトキハ其ノ擔保其ノ他和議ノ條件ヲ裁判所ニ申

出ツルコトヲ要ス  
和議申立人ハ申立ト同時ニ財産ノ狀況ヲ示スヘキ明細書並債權者及債務者ノ一覽表ヲ提出スルコトヲ要ス申立ト同時ニ提出スルコト能ハサルトキハ爾後遲滞ナク之ヲ提出スルコトヲ要ス

第十四條 和議開始ノ申立ヲ爲スニハ和議手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス

第十五條 和議開始ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 破産ノ宣告アリタル後ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 和議開始ノ申立及破産ノ申立アリタルトキハ破産手續ハ之ヲ中止ス

第十八條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス

一 破産回避ノ目的ヲ以テ申立ヲ爲シタルトキ  
二 和議申立人ノ所在カ不明ナルトキ  
三 詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ行爲アリト認ムルトキ  
四 和議ノ條件カ法律ノ規定ニ反スルトキ  
五 和議ノ條件カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得

一 和議手續ノ費用ノ豫納ナキトキ  
二 債權者集會ニ於テ和議ヲ否決シタルコトアルトキ  
三 和議開始ノ申立又ハ和議ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ

第二十七條 裁判所ハ和議開始ノ決定ト同時ニ管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一 債權届出ノ期間但シ其ノ期間ハ決定ノ日ヨリ二週間以上二月以下ナルコトヲ要ス  
二 債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ト債權届出期間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス  
三 和議開始ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 裁判所カ和議開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

一 和議開始決定ノ主文  
二 管財人ノ氏名及住所  
三 債權届出ノ期間及債權者集會ノ期日  
知レタル債權者、和議申立人、管財人及整理委員ニハ前項ニ掲グル事項、和議ノ條件及整理委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第二十九條 裁判所カ和議開始決定取消ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

第三十條 和議開始ノ申立ニ關スル書類並第二十一條ノ規定ニ依リ整理委員ノ調査書類及意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第三十一條 和議開始申立ノ時ヨリ決定ノ時迄ハ債務者ハ通常ノ範圍ニ屬セサル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 和議廢止ノ決定アリタル場合又ハ和議不認可若ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テ裁判所ハ破産ノ申立アルトキハ其ノ申立ニ因リ、申立ナキトキハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス

第十條 前條第一項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告アリタルトキハ破産法第一編ノ適用ニ付テハ和議開始若ハ和議取消ノ申立又ハ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ和議申立人ノ行爲ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做シ和議ノ爲ニ生シタル債權及和議手續ノ費用ハ之ヲ財團債權トス

第十一條 破産法第二條、第三條、第九條乃至第一百一條、第十三條乃至第一百八條及第二百五條ノ規定ハ和議ニ關シ之ヲ準用ス

第十二條 破産ノ原因タル事實アル場合ニ於テハ債務者ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス

第十三條 和議開始ノ申立ヲ爲スニハ辨濟ノ方法、擔保ヲ供セムトスルトキハ其ノ擔保其ノ他和議ノ條件ヲ裁判所ニ申

出ツルコトヲ要ス  
和議申立人ハ申立ト同時ニ財産ノ狀況ヲ示スヘキ明細書並債權者及債務者ノ一覽表ヲ提出スルコトヲ要ス申立ト同時ニ提出スルコト能ハサルトキハ爾後遲滞ナク之ヲ提出スルコトヲ要ス

第十四條 和議開始ノ申立ヲ爲スニハ和議手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス

第十五條 和議開始ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 破産ノ宣告アリタル後ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 和議開始ノ申立及破産ノ申立アリタルトキハ破産手續ハ之ヲ中止ス

第十八條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス

一 破産回避ノ目的ヲ以テ申立ヲ爲シタルトキ  
二 和議申立人ノ所在カ不明ナルトキ  
三 詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ行爲アリト認ムルトキ  
四 和議ノ條件カ法律ノ規定ニ反スルトキ  
五 和議ノ條件カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得

一 和議手續ノ費用ノ豫納ナキトキ  
二 債權者集會ニ於テ和議ヲ否決シタルコトアルトキ  
三 和議開始ノ申立又ハ和議ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ

第二十七條 裁判所ハ和議開始ノ決定ト同時ニ管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一 債權届出ノ期間但シ其ノ期間ハ決定ノ日ヨリ二週間以上二月以下ナルコトヲ要ス  
二 債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ト債權届出期間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス  
三 和議開始ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 裁判所カ和議開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

一 和議開始決定ノ主文  
二 管財人ノ氏名及住所  
三 債權届出ノ期間及債權者集會ノ期日  
知レタル債權者、和議申立人、管財人及整理委員ニハ前項ニ掲グル事項、和議ノ條件及整理委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第二十九條 裁判所カ和議開始決定取消ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

第三十條 和議開始ノ申立ニ關スル書類並第二十一條ノ規定ニ依リ整理委員ノ調査書類及意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第三十一條 和議開始申立ノ時ヨリ決定ノ時迄ハ債務者ハ通常ノ範圍ニ屬セサル行爲ヲ爲スコトヲ得ス



第三十二條 和議ノ開始ハ債務者カ其ノ財産ヲ管理及處分スル權利ニ影響ヲ及ホサズ但シ通常ノ範圍ニ屬セザル行爲ハ債權者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
 通常ノ行爲ト雖債權者ノ同意アルトキハ債務者ハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
 重要ナル行爲ニ付債權者カ第一項ノ規定ニ依リ同意ヲ爲スニハ整理委員ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス  
 第三十三條 第三十一條又ハ前條第一項第二項ノ規定ニ反スル行爲ハ和議債權者ニ於テ之ヲ否認スルコトヲ得但シ相手方カ行爲ノ當時其ノ事實ヲ知リタルトキニ限ル  
 第三十四條 債權者ハ自ラ金錢ノ收支ヲ爲スヘキコトヲ債務者ニ請求スルコトヲ得  
 第三十五條 債權者ハ裁判所ノ許可ヲ得テ債務者及之ニ扶養セラルル者ニ給スヘキ扶助料ノ額ヲ定ムルコトヲ得  
 第三十六條 債權者ハ何時ニテモ債務者ニ對シテ其ノ財産ニ關スル報告ヲ求メ又ハ債務者ノ財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得  
 整理委員ハ何時ニテモ債權者ニ對シテ債務者ノ財産ニ關スル報告ヲ求ムルコトヲ得  
 第三十七條 破産法第五百三條ノ規定ハ和議ニ關シ管財人又ハ債權者集會ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス  
 第三十八條 管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ管財人又ハ其ノ相續人ハ還滯ナク裁判所ニ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス  
 第三十九條 第二十四條及破産法第五百十八條乃至第六十一條第六十三條乃至第六十六條第六十九條ノ規定ハ管財人ニ之ヲ準用ス

第四十條 和議手續中ハ和議債權ニ付債務者ノ財産ニ對シ強制執行、假差押又ハ假處分ヲ爲スコトヲ得ス  
 和議開始前和議債權ニ付債務者ノ財産ニ對シ爲シタル強制執行、假差押及假處分ハ和議手續中ノ中止ス  
 第三十三條 和議債權及其ノ届出  
 第四十一條 債權者ニ對シ和議開始前ノ原因ニ基キテ生シタル財産上ノ請求權ハ之ヲ和議債權トス  
 第四十二條 一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル債權ハ之ヲ和議債權トセス  
 第四十三條 破産ノ場合ニ於テ別除權ヲ行使スルコトヲ得ヘキ權利ヲ有スル者ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサル債權額ニ付和議債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得  
 第四十四條 左ニ掲クル請求權ハ之ヲ和議債權トセス  
 一 和議開始後ノ利息  
 二 和議開始後ノ不履行ニ因ル損害賠償及違約金  
 三 和議手續参加ノ費用  
 四 罰金、科料、刑事訴訟費用、追徴金及過料  
 前項ノ請求權ハ和議債權ニ後ル  
 第四十五條 破産法第十七條乃至第二十條、第二十二條乃至第二十七條及第二百二十八條乃至第三百三十條ノ規定ハ和議債權ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ和議開始ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス  
 第四章 債權者集會  
 第四十六條 債權者集會ノ期日ニハ届出ヲ爲シタル和議債權者、和議申立人及和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他債務者ト

共ニ債務ヲ負擔シ又ハ和議債權者ノ爲ニ擔保ヲ供スル者ヲ呼出スコトヲ要ス  
 前項ニ規定スル者ニハ和議ノ條件及整理委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス但シ第二十八條第一項第三項ノ規定ニ依リ既ニ送達ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
 第四十七條 管財人及整理委員ハ届出アリタル各債權ニ付債權者集會ニ於テ決議權ヲ行ハシムヘキカ否及如何ナル金額ニ付之ヲ行ハシムヘキカラ調査スルコトヲ要ス  
 第四十八條 管財人及整理委員ハ債權者集會ニ於テ和議ノ開始ニ至リタル事情、債務者及其ノ財産ニ關スル經過及現狀並前條ノ規定ニ依リ調査ノ結果ニ付報告ヲ爲シ且和議ノ條件ノ適否ニ關シ意見ヲ述フルコトヲ要ス  
 破産法第八十二條第二項乃至第四項ノ規定ハ届出アリタル債權ニ付第四十六條第一項ノ規定スル者、管財人又ハ整理委員ノ異議アル場合ニ之ヲ準用ス  
 第四十九條 破産法第七十八條、第八十一條、第二百三十八條但書、第三百一一條、第三百二條、第三百六條及第三百七條ノ規定ハ債權者集會ニ付之ヲ準用ス  
 破産法第三百四條及第三百五條ノ規定ハ和議ニ付之ヲ準用ス  
 第五章 和議ノ認否  
 第五十條 債權者集會ニ於テ和議ヲ可決シタルトキハ裁判所ハ其ノ期日又ハ直ニ言渡シタル期日ニ於テ和議ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス  
 第四十六條第一項ニ規定スル者、管財人及整理委員ハ和議

ノ認否ニ付意見ヲ述フルコトヲ得  
 破産法第二百三十八條但書ノ規定ハ和議認否ノ期日ヲ定ムル決定ニ付之ヲ準用ス  
 第五十一條 裁判所ハ左ノ場合ニ限り和議債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得  
 一 和議ノ手續又ハ決議カ法律ノ規定ニ反スル場合ニ於テ其ノ欠缺力追完スヘカラサルモノナルトキ  
 二 第十八條第二號又ハ第三號ニ規定スル事由アルトキ  
 三 和議ノ決議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキ  
 四 和議ノ決議カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ  
 第五十二條 和議認否ノ決定ハ之ヲ言渡シ且其ノ主文及理由ハ要領ヲ公告スルコトヲ要ス但シ送達ヲ爲スコトヲ要セス  
 第五十三條 和議認否ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
 破産法第三百十九條ノ規定ハ和議債權者ニ之ヲ準用ス  
 第五十四條 和議ハ認可ノ決定ノ確定ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス  
 第五十五條 和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所書記ハ和議ノ條件ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス  
 第五十六條 和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ債務者ハ和議ノ爲ニ生シタル債權、和議手續ノ費用及一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル債權ノ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス  
 前項ニ規定スル債權ニシテ異議アルモノニ付テハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス  
 第五十七條 破産法第三百二十五條乃至第三百二十七條及第



三百四十二條ノ規定ハ和議ノ效力ニ付テ之ヲ準用ス  
第五十八條 和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ第十七條ノ規定ニ依リ手續ヲ中止シタル破産ノ申立並第四十條第二項ノ規定ニ依リ中止シタル強制執行、假差押及假處分ハ其ノ效力ヲ失フ

第六章 和議ノ廢止  
第五十九條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ和議廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス  
一 和議ノ可決前ニ和議ノ提供者カ其ノ提供ヲ撤回シタルトキ  
二 債權者集會ノ第一期ヨリ二月内ニ和議ヲ可決セザルトキ

第六十條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ管財人若ハ整理委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ得  
此ノ場合ニ於テハ債權者ヲ審訊スルコトヲ要ス  
一 第二十條第一項第二項ノ規定ニ依リ裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ  
二 債務者カ第三十一條又ハ第三十二條第一項第二項ノ規定ニ違反シタルトキ  
三 債務者カ第三十四條ノ規定ニ依リ請求アリタルニ拘ラズ自ラ金錢ノ收支ヲ爲シタルトキ

第六十一條 裁判所カ和議廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス  
第七章 讓歩及和議ノ取消  
第六十二條 破産法第三百二十九條乃至第三百三十一條ノ規定ハ和議ヲ以テ定メタル讓歩ノ取消ニ之ヲ準用ス

第六十三條 債務者ニ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ行爲アルトキハ裁判所ハ和議債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得  
第六十四條 破産法第三百三十二條第一項及第二項ノ規定ハ和議ノ取消ニ之ヲ準用ス  
和議取消ノ申立ニ必要ナル債權額及總債權ノ計算ニ付テハ第四十八條ノ規定ニ依リテ定リタル債權額ニ依ル  
第六十五條 和議ノ取消ハ和議債權者カ和議ニ因リテ得タル權利ニ影響ヲ及ボサス  
第六十六條 裁判所カ和議取消申立棄却又ハ和議取消ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第八章 罰則  
第六十八條 整理委員又ハ管財人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス和議債權者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者債權者集會ノ決議ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキ亦同シ  
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス  
第六十九條 整理委員、管財人又ハ和議債權者、其ノ代理人、理事若ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル

ル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得  
第七十條 第二十三條又ハ第三十七條ノ規定ニ依リ説明ノ義務アル者故ナク説明ヲ爲サス又ハ虚偽ノ説明ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス和議申立人又ハ債務者第二十一條又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ調査若ハ報告ヲ拒ミ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ亦同シ  
前項ノ罪ヲ犯シタル者裁判所ニ其ノ事實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第四百九十八號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行)  
和議手續参加ハ時効ノ中断ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

○ 和議法 附則

和議法 附則



○小作調停法 (大正十三年七月二十二日)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル小作調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小作調停法

第一條 小作料其ノ他小作關係ニ付爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ合意ヲ以テ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル區域裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二條 當事者不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第三條 調停ノ申立ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長又ハ郡長ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條 前條ノ規定ニ依ル調停ノ申立アリタルトキハ市町村長又ハ郡長ハ遲滞ナク申立ニ關スル書類ヲ裁判所ニ送付シ且町村長ニ在リテハ郡長ニ、郡長ニ在リテハ町村長ニ申立アリタル旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

爭議ノ目的タル土地力數郡市町村ニ互ル場合ニ於テハ調停ノ申立ヲ受ケタル市町村長又ハ郡長ハ遲滞ナク關係市町村長及郡長ニ前項ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第五條 裁判所直接ニ調停ノ申立ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス但シ第八條第一項ノ規定ニ依リ事件ヲ移送スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スヘシ

第七條 調停ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ市町村長、郡長又ハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第八條 爭議ノ目的タル土地力數箇ノ裁判所ノ管轄區域内ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケタル地方裁判所又ハ區域裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所又ハ管轄區域裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第一項ノ場合ニ於テ事件ノ移送ヲ受ケタル裁判所ハ遲滞ナク爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第九條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス

第十條 裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス但シ爭議ノ實情ニ鑑ミ之ヲ開カスシテ調停ヲ爲スコトヲ得

當事者ノ申立アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス裁判所ハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第十一條 裁判所事情ニ依リ適當ナル者アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス之ヲシテ勸解ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 當事者多數ナル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ代表シテ調停ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲サシムル爲總代ヲ選任スルコトヲ得

裁判所前項ノ規定ニ依ル總代ナキ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ總代ノ選任ヲ命スルコトヲ得

總代ハ當事者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

第十三條 總代ノ選任ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス

總代ノ解任ハ之ヲ裁判所ニ届出ツルニ非サレハ其ノ效ナシ

第十四條 裁判所ハ期日ヲ定メ當事者又ハ總代ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ノ呼出ヲ受ケタル當事者又ハ總代ハ正當ノ事由ナクシテ出頭ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ調停ニ參加スルコトヲ得

裁判所ハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 當事者、總代及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシメ又ハ輔佐人ヲ同伴スルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十七條 爭議ノ目的タル土地ノ所在地又ハ當事者ノ住所地ノ市町村長又ハ郡長ハ裁判所ニ對シ事件ノ經過ニ付陳述ヲ爲スコトヲ得

第十八條 裁判所必要アリト認ムルトキハ小作官、前條ノ市町村長又ハ郡長其ノ他適當ト認ムル者ニ對シ意見ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 小作官ハ期日ニ出席シテ又ハ期日外ニ於テ裁判所ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十條 裁判所必要アリト認ムルトキハ事實ノ調査ヲ小作

官ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條 裁判所ニ於ケル調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聴ヲ許スコトヲ得

第二十二條 裁判所ハ費用ヲ要スル行爲ニ付當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第二十三條 裁判所ニ對スル申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十四條 裁判所ノ調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十五條 裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル措置ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 裁判所ノ調停條項中ニ費用ノ負擔ニ關スル定メ爲ササルトキハ各當事者ハ其ノ支出シタル費用ヲ自ラ負擔ス

第二十七條 調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十八條 調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十九條 調停主任ハ判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方裁判所長之ヲ指定ス

調停委員ハ調停ニ適當ナル者ニ就キ地方裁判所長ノ選任シタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス但シ當事者カ合意ヲ以テ選定シタル者アルトキ又ハ地方裁判所長ノ選任シタル者ニ就キ當事者雙方カ各別ニ選定シタル者アルトキハ其ノ者ノ中ヨリ先ツ之ヲ指定スルコトヲ要ス



前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十條 調停主任ハ爭議ノ實情ニ鑑ミ適當ト認ムル場所ニ於テ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第三十一條 調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任之ヲ指揮ス

第三十二條 調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半数ノ意見ニ依ル可同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル

第三十三條 調停委員會ノ評議ハ之ヲ秘密トス

第三十四條 第十一條乃至第二十六條ノ規定ハ調停委員會ノ調停手續ニ之ヲ準用ス

第三十五條 調停委員會ハ當事者、總代又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且必要ト認ムルトキハ證據調ヲ爲スコトヲ得

調停委員會ハ調停主任ヲシテ證據調ヲ爲サシメ又ハ之ヲ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

證據調ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス

證人及鑑定人ノ受クヘキ旅費、日當及止宿料ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

第三十六條 期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ適當ト認ムル調停條項ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ調停條項ヲ定メタル場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ調書ノ正本ヲ當事者、總代アルトキハ總代ニ送付シ且當事者又ハ總代カ其ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シタルモノト看做ス旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ

調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シタルモノト看做ス

調停委員會ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得期間ノ伸長ハ之ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ調停條項ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

第三十七條 調停委員會第二條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲ササルコトヲ得

第三十八條 調停成リタルトキ又ハ第三十六條第三項ノ規定ニ依リ調停ニ同意シタルモノト看做サレタルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

調停不認可ノ決定ニ對シテハ當事者又ハ總代ハ民事訴訟法ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 裁判所ハ調停力著シク公正ナラスト認ムル場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス

第四十條 調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ調停ハ認可決定アリタルトキニ限り裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第四十一條 裁判所調停認可ノ決定ヲ總代ニ告知シタル場合ニ於テハ調停條項ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ揭示スルコトヲ要ス

第四十二條 調停委員會必要アリト認ムルトキハ調停ノ經過ヲ公表スルコトヲ得

第四十三條 調停事件終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ結果ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス

第四十四條 當事者又ハ利害關係人ハ手数料ヲ納付シテ記録ノ閲覧若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ緊要中記録ノ閲覧又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス

第四十五條 調停委員及第十一條又ハ第三十四條ノ規定ニ依リ勸解ヲ爲シタル者ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス

第四十六條 第四十四條ノ手数料並前條ノ旅費、日當及止宿料ノ額ハ勸令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 本法中郡トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳管轄區域、郡長トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司トス

本法中町村、町村長又ハ町村役場トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村、町村長又ハ町村役場ニ準スルモノトス

第四十八條 第三十四條ノ規定ニ依ル呼出ヲ受ケタル者正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ緊要スル裁判所ハ調停委員會ノ意見ヲ聽キ五拾圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付テ之ヲ準用ス

第四十九條 調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク評議ノ顯末又ハ調停主任、調停委員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄

シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則  
本法施行ノ期日ハ勸令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法ハ勸令ヲ以テ指定スル地區ニ之ヲ施行セス

○小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件 (大正十三年九月二十六日勸令第二百二十八號)

改正 大正一五年第六五號、昭和四年第一四一號、昭和一三年第五二九號

除小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小作調停法ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○小作調停ノ手数料等ニ關スル件 (大正十三年十一月三日勸令第二百五十三號)

除小作調停ノ手数料等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大正十一年勸令第三百三十九號第二條乃至第四條ノ規定ハ小

小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件

小作調停ノ手数料等ニ關スル件



作調停法第四十四條ノ手数料並第四十五條ノ旅費、日當及止宿料ニ付之ヲ準用ス

附則 本令ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○借地借家調停法 (大正十一年四月十二日法律第四十二號)

改正 大正一三年第一七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル借地借家調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

借地借家調停法

第一條 土地又ハ建物ノ貸借、地代、家賃其ノ他借地借家關係ニ付爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地又ハ建物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
當事者ハ合意ヲ以テ前項ノ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
第一項ニ於テ借地借家ト稱スルハ借地法及借家法ニ於ケル借地借家ヲ謂フ  
第二條 調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スコトヲ要ス  
第三條 當事者義務ノ回避其ノ他不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第四條 爭議ノ目的タル土地又ハ建物カ數個ノ裁判所ノ管轄區域内ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケタル地方裁判所又ハ區裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所又ハ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ  
前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五條 借地借家關係ノ爭議ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ受訴裁判所ハ職權ヲ以テ事件ヲ調停ニ付スルコトヲ得

第六條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ繫屬スルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ事件カ調停ニ付セラレタルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス

第七條 裁判所ハ期日ヲ定メ調停申立人及相手方ヲ呼出スヘシ此ノ場合ニ於テハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ参加ヲ求ムルコトヲ得

第八條 當事者及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得

第九條 裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十條 調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聴ヲ許スコトヲ得

第十一條 費用ヲ要スル行為ニ付テハ當事者ノ一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第十二條 申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十三條 口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第十四條 七條第一項但書第二項、第八條但書及第十三條ニ規定スル裁判所ノ權限ハ調停委員會ニ屬ス

第十五條 且必要ト認ムルトキハ證據調ヲ爲スコトヲ得

第十六條 調停委員會ハ調停主任ヲシテ證據調ヲ爲サシメ又ハ之ヲ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第十七條 證據調ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス

第十八條 證人及鑑定人ノ受タヘキ旅費、日當及止宿料ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ準用ス

第十九條 期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ爭議ノ目的タル事項及手續ノ費用ニ付適當ト認ムル調停費項ヲ定メ其ノ調書ノ正本ヲ當事者ニ送付スルコトヲ要ス

第二十條 當事者カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ服シタルモノト看做ス

第二十一條 調停委員會ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第二十二條 當事者カ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スルコトヲ要ス

第二十三條 調停委員會第三條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲ササルコトヲ得

第二十四條 調停成リタルトキ又ハ第二十四條第二項ノ規定ニ依リ當事者カ調停ニ服シタルモノト看做サレタルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條 調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第二十六條 調停不認可ノ決定ニ對シテハ民事訴訟法ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第十一條 調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス  
第十二條 調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス  
第十三條 裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル處分ヲ命スルコトヲ得  
第十四條 裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ得  
第十五條 當事者雙方ノ申立アルトキハ裁判所ハ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス  
第十六條 調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス  
第十七條 調停主任ハ判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方裁判所長之ヲ指定ス  
第十八條 調停委員ハ特別ノ知識經驗アル者ニ就キ毎年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス  
第十九條 調停委員會ハ當事者ノ意見ヲ聽キ適當ト認ムル者ヲシテ調停ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得  
第二十條 調停委員及前條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス  
第二十一條 調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任之ヲ指揮ス  
第二十二條 調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半数ノ意見ニ依リ可同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル  
第二十三條 調停委員會ノ評議ハ之ヲ秘密トス  
第二十四條 調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ第六條、第



第二十七條 裁判所ハ調停カ著ク公正ナラスト認ムル場合ニ

非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ調停ハ認可

決定アリタルトキニ限リ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十九條 調停ノ申立ヲ爲スニハ手数料ヲ納付スルコトヲ

要ス

第三十條 當事者又ハ利害關係人ハ手数料ヲ納付シテ記録ノ

閲覧若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル

證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ

事件ノ緊屬中記録ノ閲覧又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手数

料ヲ納付スルコトヲ要セス

第三十一條 第十八條ノ旅費、日當及止宿料並前二條ノ手数

料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 調停委員會ノ呼出ヲ受ケタル當事者カ正當ノ事

由ヲクシテ出頭セザルトキハ調停事件ノ緊屬スル裁判所ハ

調停委員會ノ意見ヲ聽キ五十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ

得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過

料ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ地域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○借地借家調停法ノ施行期日及施行

地區ニ關スル件 (大正十一年七月十二日)

勅令第三百三十八號

借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ

茲ニ之ヲ公布セシム

左ノ地區ニハ大正十一年十月一日ヨリ借地借家調停法ヲ施行

ス

東京府

京都府

大阪府

神奈川縣

兵庫縣

○借地借家調停法ノ施行期日及施行

地區ニ關スル件 (大正十四年四月十一日)

勅令第二百二十六號

借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ

茲ニ之ヲ公布セシム

左ノ地區ニハ大正十四年四月十五日ヨリ借地借家調停法ヲ施

行ス

愛知縣

○借地借家調停法ノ施行期日及施行地

區ニ關スル件 (昭和十四年十二月二十六日)

勅令第八百六十五號

借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ

茲ニ之ヲ公布セシム

左ノ地區ニハ昭和十四年十二月二十八日ヨリ借地借家調停法

ヲ施行ス

廣島縣

山口縣

下關市

福岡縣

○借地借家調停法ノ施行期日及施行地

區ニ關スル件 (昭和十五年九月二十五日)

勅令第六百二十二號

借地借家調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ

茲ニ之ヲ公布セシム

左ノ地區ニハ昭和十五年九月二十六日ヨリ借地借家調停法ヲ

施行ス

埼玉縣

千葉縣

千葉市

千葉郡ノ内

幕張町、津田沼町

市川市

船橋市

東葛飾郡ノ内

松戸町

茨城縣

水戸市

日立市

栃木縣

宇都宮市

足利市

群馬縣

群馬縣

山梨縣

甲府市

長野縣

長野市

松本市

新潟縣

新潟市

中浦原郡ノ内

石山村、烏屋野村

長岡市

古志郡ノ内

上祖村

和歌山縣

和歌山市



德島縣

德島市

香川縣

高松市

香川郡ノ内

香西町、弦打村

三重縣

四日市市

桑名郡ノ内

桑名市

城南村

三重郡ノ内

富洲原町、富田町、羽津村、川越村、朝日村

岐阜縣

岐阜市

稲葉郡ノ内

厚見村

不破郡ノ内

不破市

安八郡ノ内

中川村、和合村、三城村、川並村、洲木村、淺草村

福井縣

福井市

石川縣

金澤市

宮山縣

富山市

上新川郡ノ内

堀川町

高岡市

射水郡ノ内

伏木町

山口縣ノ内未ダ之ヲ施行セザル地區

岡山縣

岡山市

倉敷市

愛媛縣

松山市

温泉郡ノ内

道後湯之町

新居濱市

新居郡ノ内

泉川町、角野町

長崎縣

大分縣

大分市

別府市

熊本縣

熊本市

鹿兒島縣

鹿兒島市

鹿兒島郡ノ内

川尻町、力合村、日吉村

玉名郡ノ内

荒尾町

鹿兒島縣

鹿兒島市

宮城縣

福島縣

福島市

郡山市

若松市

岩手縣

盛岡市

岩手郡ノ内

淺岸村、中野村、本宮村

釜石市

上閉伊郡ノ内

甲子村

秋田縣

秋田市

南秋田郡ノ内

寺内町、土崎港町

河邊郡ノ内

新屋町

青森縣

青森市

弘前市

中津輕郡ノ内

○借地借家調停ノ手数料等ニ關スル件

(大正十一年七月十二日勅令第三百三十九號)

借地借家調停ノ手数料等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 借地借家調停法第二十九條ノ手数料ハ左ノ區別ニ從

調停ヲ求ムル事項ノ價額五圓迄 十五錢



同 十圓迄 二十五錢  
 同 二十圓迄 五十錢  
 同 五十圓迄 一圓二十錢  
 同 七十五圓迄 一圓七十錢  
 同 百圓迄 二圓五十錢  
 同 二百五十圓迄 五圓  
 同 五百圓迄 八圓  
 同 七百五十圓迄 十圓  
 同 千圓迄 十二圓  
 同 二千五百圓迄 十七圓  
 同 五千圓迄 二十圓  
 同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ

第二條 借地借家調停法第三十條ノ手数料ハ各一件ニ付二十錢トス

第三條 調停委員及借地借家調停法第十七條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ノ日當ハ一日六圓以内、止宿料ハ一日八圓以内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第四條 調停委員及借地借家調停法第十七條ノ規定ニ依リ調停ノ補助ヲ爲シタル者ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通スル水路ニ在リテハ二等旅客運賃、運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃ニ依リ汽船ヲ通セサル水路ニ在リテハ一海里毎ニ二十五錢、其ノ他ニ在リテハ一里毎ニ九十錢トス但シ一海里未滿又ハ一里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

附則  
 本令ハ大正十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○借地借家臨時處理法 (大正十三年七月二十二日) (法律 第十六號)

改正 昭和四年第七號、昭和十四年第一二號  
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル借地借家臨時處理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

借地借家臨時處理法

第一條 本法ニ於テ借地借家ト稱スルハ借地法及借家法ニ於ケル借地借家ヲ謂フ

第二條 地代、家賃、敷金其ノ他借地借家ノ條件カ著シク不當ナルトキハ當事者ノ申立ニ因リ裁判所ハ鑑定委員會ノ意見ヲ聽キ借地借家關係ヲ衡平ナラシムル爲其ノ條件ノ變更ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ裁判所ハ敷金其ノ他ノ財産上ノ給付ノ返還ヲ命シ又ハ其ノ給付ヲ地代若ハ家賃ノ前拂ト看做シ其ノ他相當ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第三條 大正十二年九月ノ震災ニ因リテ滅失シタル建物ノ借主ハ其ノ建物ノ敷地又ハ其ノ換地ノ上ニ新ニ築造セラレタル建物ニ付其ノ完成前賃借ノ申出ヲ爲シタルトキハ他ノ者ニ優先シテ之ヲ賃借スルコトヲ得滅失シタル建物ノ敷地又ハ其ノ換地ノ上ニ築造セラレタル假設建築物ノ借主亦同シ

前項ノ申出ヲ受ケタル者申出ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ

拒絕ノ意思ヲ表示セサルトキハ申出ヲ承諾シタルモノト看做ス

第一項ノ申出ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒絕スルコトヲ得ス

第四條 前條ノ場合ニ於テ借家ニ付當事者間ニ協議調ハサルトキハ申立ニ因リ裁判所ハ鑑定委員會ノ意見ヲ聽キ從前ノ賃借ノ條件、建物ノ狀況其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ借家關係ヲ定ムルコトヲ得

第五條 新ニ築造セラレタル建物ニ付第三條第一項ノ規定ニ依リ賃借ノ申出ヲ爲シタル者數人アル場合ニ於テ賃借スベキ建物ノ割當ニ付當事者間ニ協議調ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ從前ノ建物又ハ假設建築物ノ狀況、借主ノ職業其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ其ノ割當ヲ爲ス

前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ裁判所ハ抽籤ノ方法ヲ用キテ割當ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ當事者間ノ衡平ヲ維持スル爲必要アリト認ムルトキハ割當ヲ受ケサル借主又ハ著シク不利益ナル割當ヲ受ケタル借主ノ爲割當ニ因リ著シク利益ヲ受ケタル他ノ借主ニ對シ相當ナル出捐ヲ命スルコトヲ得

第六條 大正十二年九月ノ震災ニ因リテ滅失シタル建物ニ居住シタル者カ其ノ建物ノ敷地ノ上ニ假設建築物ヲ築造シタル場合ニ於テ敷地ノ借主カ之ニ同意シタルトキハ其ノ同意本ニ付地主ノ承諾ヲ得サリシ場合ト雖地主ハ之ヲ理由トシテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ裁判所ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 借地ノ上ニ存スル借地人ノ建物カ大正十二年九月ノ

震災ニ因リ滅失シタル場合ニ於テハ其ノ借地權ハ借地權ノ登記及其ノ土地ノ上ニ存スル建物ノ登記ナキモ之ヲ以テ大正十三年七月一日以後其ノ土地ニ付權利ヲ取得シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得

第八條 第二條及第四條乃至第六條ノ規定ニ因リ裁判所ハ借地又ハ借家ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

第九條 鑑定委員會ハ五人以上ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十條 鑑定委員ハ特別ノ知識經驗アル者其ノ他適當ナル者ニ就キ毎年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付裁判所之ヲ指定ス

第十一條 鑑定委員會ノ決議ハ委員ノ過半數ノ意見ニ依ル

第十二條 鑑定委員會ノ評議ハ秘密トス

第十三條 鑑定委員ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス其ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 借地借家調停法第四條ノ二及第五條ノ規定ハ第二條、第四條及第五條ノ規定ニ依ル申立並第六條ノ規定ニ依ル許可ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ調停ニ付スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十五條 第二條及第四條乃至第六條ノ規定ニ依リ裁判所ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ之ヲ二週間トス

前項ノ即時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第十六條 本法ニ依リ裁判所ニ於テ財産上ノ給付ヲ命スルモノハ執行力ヲ有スル債務名義タルノ效力ヲ有ス



第十七條 本法ニ依ル裁判ノ費用ニ付テハ民事訴訟費用法第十八條及民事訴訟用印紙法第十六條ノ規定ニ依ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法ハ昭和二十三年四月三十日迄其ノ效力ヲ有ス  
本法失効ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○借地借家臨時處理法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件

(大正十三年八月十二日勅令第百七十四號)

借地借家臨時處理法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
借地借家臨時處理法ハ大正十三年八月十五日ヨリ東京府及神奈川縣ノ内借地法及借家法ノ施行地區ニ之ヲ施行ス  
前項ノ地區外ニ跨リテ築造セラレタル建物アル場合ニ於テハ借地借家臨時處理法ハ其ノ建物ノ存スル場所ニ付亦之ヲ適用ス

○人事調停法 (昭和十四年三月十七日法律第十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル人事調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
人事調停法

人事調停法

第一條 家族親族間ノ紛争其ノ他一般ニ家庭ニ關スル事件ニ付テハ當事者ハ本法ニ依リ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
第二條 調停ハ道義ニ本ヅキ温情ヲ以テ事件ヲ解決スルコトヲ以テ其ノ本旨トス  
第三條 調停ノ申立ハ相手方ノ住所地方管轄スル區裁判所又ハ當事者ノ合意ニ依リテ定ムル區裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 裁判所其ノ管轄ニ屬セザル事件ニ付申立ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ要ス  
但シ事件ノ處理上適當ト認ムルトキハ之ヲ他ノ區裁判所ニ移送シ又ハ自ラ處理スルコトヲ妨ゲズ  
裁判所其ノ管轄ニ屬スル事件ニ付申立ヲ受ケタルトキト雖モ事件ノ處理上適當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ之ヲ他ノ區裁判所ニ移送スルコトヲ得

第五條 調停ノ申立ガ淳風ニ副ハズ又ハ權利ノ濫用其ノ他不當ノ目的ニ出ヅルモノト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得  
第六條 當事者及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得  
辯護士ニ非ザル者前項ノ代理人ト爲ルニハ裁判所ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス

第七條 裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得  
第七條 調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス但シ本人ノ處分ヲ許サザル事項ニ關スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

本令ハ人事調停法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○商事調停法 (大正十五年三月三十日法律第四十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商事調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
商事調停法

第八條 借地借家調停法第二條、第四條ノ二乃至第六條、第八條乃至第十一條、第十三條乃至第十五條、第十六條第一項、第十八條乃至第二十三條及第二十六條乃至第三十二條ノ規定ハ本法ノ調停ニ付之ヲ準用ス

第九條 調停委員ハ德望アル者其ノ他適當ト認メラルル者ニ就キ毎年豫メ地方裁判所長ノ選任シタル者又ハ當事者ノ合意ニ依リ選定セラレタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス

第十條 調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ第六條第二項及第三項ニ規定スル裁判所ノ權限ハ調停委員會ニ屬ス

第十一條 調停委員會第五條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲サザルコトヲ得

第十二條 調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク評議ノ願末又ハ調停主任、調停委員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク其ノ職務上取扱ヒタルコトニ付知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十四年勅令第三百六十一號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行)

○人事調停ノ手数料等ニ關スル件 (昭和十四年六月七日勅令第三百六十三號)

人事調停ノ手数料等ニ關スル件 商事調停法

第一條 人事調停ノ申立ノ手数料ハ一件ニ付五十錢トス

第二條 大正十一年勅令第三百三十九號第二條乃至第四條ノ規定ハ記録ノ閲覧若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ求ムル手数料並ニ調停委員ノ旅費、日當及止宿料ニ付之ヲ準用ス

附則  
本令ハ人事調停法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○商事調停法 (大正十五年三月三十日法律第四十二號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商事調停法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
商事調停法

第一條 商事ニ關シ争議ヲ生シタルトキハ當事者ハ相手方ノ住所、居所、營業所若ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ當事者ノ合意ニ依リテ定リタル地方裁判所若ハ區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二條 調停ノ申立ヲ受ケタル裁判所調停ヲ爲スニ付相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ他ノ地方裁判所又ハ區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所力調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
第二條 商事調停ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除



クノ外借地借家調停法ヲ準用ス  
 第三條 裁判所調停ヲ爲スニ付必要アリト認ムルトキハ計算  
 人ヲ選定シ之ヲシテ計算ヲ爲サシムルコトヲ得  
 調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ前項ニ規定スル裁判所  
 ノ權限ハ調停委員會ニ屬ス  
 計算人ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス其ノ額ハ勅令ヲ以テ  
 之ヲ定ム

第四條 調停委員會ハ當事者ノ合意アル場合ニ於テハ第一條  
 ノ爭議ニ付民事訴訟法ニ依ル仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テハ當事者ノ指定シタル調停委員會ハ屬ス  
 ル裁判所ハ申立ニ因リ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス  
 第五條 借地借家調停法第十八條及第二十九條乃至第三十一  
 條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル仲裁ニ關シ之ヲ準用ス

第十二條 附則  
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 當事者ノ一方ニシテ本法施行地區内ニ住所、居所、營業所又  
 ハ事務所ヲ有スル者ニ對シ調停ノ申立ヲ爲シ得ヘキ事件ニ付  
 テハ其ノ相手方ノ住所、居所、營業所及事務所カ本法施行地  
 區外ニ在ル場合ト雖之ニ對シ其ノ住所、居所、營業所又ハ事  
 務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ  
 得

第八條 附則  
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 當事者ノ一方ニシテ本法施行地區内ニ住所、居所、營業所又  
 ハ事務所ヲ有スル者ニ對シ調停ノ申立ヲ爲シ得ヘキ事件ニ付  
 テハ其ノ相手方ノ住所、居所、營業所及事務所カ本法施行地  
 區外ニ在ル場合ト雖之ニ對シ其ノ住所、居所、營業所又ハ事  
 務所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ  
 得

○商事調停法ノ施行期日及施行地區ニ關  
 スル件 (大正十五年十月十八日)  
 (勅令第三百二十二號)

朕商事調停法ノ施行期日及施行地區ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ  
 之ヲ公布セシム  
 左ノ地區ニハ大正十五年十一月一日ヨリ商事調停法ヲ施行ス  
 東京府  
 京都府  
 大阪府  
 神奈川縣  
 兵庫縣  
 愛知縣

○商事調停ノ手数料等ニ關スル件  
 (大正十五年十月十八日)  
 (勅令第三百二十三號)

朕商事調停ノ手数料等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ  
 ム  
 第一條 商事調停法ニ依ル調停ノ申立及仲裁判斷ノ申立ノ手  
 續料ハ左ノ區別ニ從フ  
 一 調停又ハ仲裁判斷ヲ求  
 二十錢  
 二 申立ノ事件ノ價額五圓迄  
 三十錢  
 三 同 十圓迄

○金銭債務臨時調停法 (昭和七年九月七日)  
 (法律第二十六號)

改正 昭和九年第四一號  
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル金銭債務臨時調停法ヲ裁可シ茲ニ  
 之ヲ公布セシム  
 金銭債務臨時調停法  
 第一條 負債ノ整理ニ依リ設置ナル債務者ヲ更生セシムル爲  
 債務者債務者ノ互讓ヲ必要トスルトキハ當事者ハ本法ニ依  
 リ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
 第二條 調停ノ申立ハ私法上ノ金銭債務ニシテ金額千圓ヲ超  
 過セザルモノニ付之ヲ爲スコトヲ得但シ小作料其ノ他小作  
 關係ヨリ生ジタルモノ及地代、家賃其ノ他借地借家關係ヨ  
 リ生ジタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
 前項ノ金額ニハ附帶ノ利息、違約金、費用又ハ手数料ノ額  
 ナ算入セズ既ニ元本ニ組入レタル此等ノモノニ付亦同ジ  
 第一項ノ金額ヲ超過スル債務ニ付調停ノ申立アリタル場合  
 ト雖モ裁判所調停ヲ爲スコトヲ得且相手方ニ異議ナキ  
 トキハ調停ヲ爲スコトヲ得相手方期日ニ出頭シテ事件ノ内  
 容ニ付陳述ヲ始メタルトキハ異議ナキモノト看做ス  
 第三條 調停ノ申立ハ相手方ノ住所、居所、營業所若ハ事務  
 所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ當事者ノ合意ニ依リテ  
 定ムル區裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 調停ノ申立ヲ受ケタル裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以  
 テ事件ヲ他ノ區裁判所ニ移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判  
 所ガ調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同ジ

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| 同 二十圓迄                | 六十錢   |
| 同 五十圓迄                | 一圓五十錢 |
| 同 七十五圓迄               | 二圓    |
| 同 百圓迄                 | 三圓    |
| 同 二百五十圓迄              | 六圓    |
| 同 五百圓迄                | 十圓    |
| 同 七百五十圓迄              | 十三圓   |
| 同 千圓迄                 | 十六圓   |
| 同 二千五百圓迄              | 二十三圓  |
| 同 五千圓迄                | 二十八圓  |
| 同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ |       |
| 調停又ハ仲裁判斷ヲ求ムル          |       |
| 事項ノ價額ヲ算定スルコト          | 十圓    |
| 能ハサルトキ                |       |

第二條 大正十一年勅令第三百三十九號第二條乃至第四條ノ  
 規定ハ記録ノ閲覧若ハ謄寫又ハ其ノ正本、原本、抄本若ハ  
 事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ求ムル手数料並調停委員、調  
 停ノ補助ヲ爲シタル者及計算人ノ旅費、日當及止宿料ニ付  
 之ヲ準用ス  
 計算人ニハ計算ニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ  
 要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得  
 附則  
 本令ハ大正十五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス



前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ  
 第四條 本法ノ調停ニ關シテハ借地借家調停法第二條、第四條ノ二、第六條乃至第二十三條及第二十六條乃至第三十二條ノ規定ヲ準用ス  
 第五條 事件ガ性質上調停ヲ爲スニ適セズ又ハ當事者不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ調停ノ申立ヲ却下ス第七條第二項ニ該當スルトキ其ノ他調停ヲ爲スニ適當ナラザル事情存スルトキ亦同ジ  
 第六條 調停委員會前項ノ事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲サズ  
 第七條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟ガ繫屬スルトキ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ事件ガ調停ニ付セラレタルトキハ受訴裁判所ハ決定ヲ以テ調停ノ終了又ハ第七條ノ規定ニ依ル裁判確定ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得  
 第八條 調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ供セシメズシテ強制執行手續又ハ賣賣法ニ依ル競賣手續ヲ一時停止スルコトヲ得  
 第九條 民事訴訟法第一百二十二條、第一百十三條、第一百十五條及第一百六條ノ規定ハ前項ノ擔保ニ之ヲ準用ス  
 第十條 第一項及第二項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ  
 第十一條 調停委員會ニ於テ調停成ラザル場合ニ裁判所相當ト認ムルトキハ職權ヲ以テ調停委員ノ意見ヲ聽キ當事者雙方ノ利益ヲ衡平ニ考慮シ其ノ資力、業務ノ性質、既ニ債務者ノ支拂ヒタル利息手数料内入金等ノ額共ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ調停ニ代ヘ利息、期限其ノ他債務關係ノ變更ヲ命ズ

ズル裁判ヲ爲スコトヲ得此ノ裁判ニ於テハ債務ノ履行其ノ他財産上ノ給付ヲ命ズルコトヲ得  
 第十二條 銀行其ノ他官廳ノ監督ヲ受ケテ金融業務ヲ取扱フ者ノ債權ニ付テハ其ノ業務ノ機構ヲ害スル虞アルトキハ前項ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ズ  
 第十三條 前條ノ規定ニ依ル裁判ハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス  
 第十四條 第七條ノ規定ニ依ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ之ヲ二週間トス  
 第十五條 前項ノ即時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス  
 第十六條 第十條ノ第七條ノ規定ニ依ル裁判確定シタルトキハ其ノ裁判ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス  
 第十七條 第十一條ノ調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク評議ノ期末又ハ調停主任、調停委員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ調査シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
 附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和七年勅令第二百四十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）  
 本法ハ當分ノ内其ノ效力ヲ有ス

○金銭債務臨時調停ノ手数料等ニ關スル件  
 （昭和七年九月二十一日）  
 件（勅令第二百五十一號）

辰金銭債務臨時調停ノ手数料等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 第一條 金銭債務臨時調停ノ申立ノ手数料ハ左ノ區別ニ從フ  
 調停ヲ求ムル債務ノ金額五十圓迄 二十錢  
 同 百圓迄 三十錢  
 同 二百五十圓迄 五十錢  
 同 五百圓迄 一圓  
 同 千圓迄 二圓  
 同 千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ一圓ヲ加フ  
 第二條 大正十一年勅令第三百三十九號第二條乃至第四條ノ規定ハ記録ノ閲覧若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ求ムル手数料並ニ調停委員及調停ノ補助ヲ爲シタル者ノ旅費、日當及止宿料ニ付之ヲ準用ス  
 附則  
 本令ハ金銭債務臨時調停法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス



刑

法



法 刑

- 刑 法 ..... 一
- 刑法施行法 ..... 元
- 舊 刑 法 ..... 三
- 刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件 ..... 三
- 刑法施行後施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ罪名ニ關スル件 ..... 三
- 命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件 ..... 三
- 盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律 ..... 三
- 治安維持法 ..... 三
- 爆發物取締罰則 ..... 三
- 銃砲火藥類取締法 ..... 三
- 暴力行爲等處罰ニ關スル法律 ..... 三
- 決闘罪ニ關スル件 ..... 三
- 未成年者喫煙禁止法 ..... 三
- 未成年者飲酒禁止法 ..... 三
- 紙幣類似證券取締法 ..... 三
- 通貨及證券模造取締法 ..... 三
- 外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證 ..... 三

- 券偽造變造及模造ニ關スル法律 ..... 四
- 印紙犯罪處罰法 ..... 四
- 印紙模造取締規則 ..... 四
- 懸賞又ハ賞籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行爲取締方 ..... 四
- 法人ノ役員處罰ニ關スル法律 ..... 四
- 法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律 ..... 四
- 警察犯處罰令 ..... 四
- 治安警察法 ..... 四
- 行政執行法 ..... 四
- 行政執行法施行令 ..... 四
- 國防保安法 ..... 四
- 國防保安法施行令 ..... 四
- 軍機保護法 ..... 四
- 軍用資源祕密保護法 ..... 四
- 國境取締法 ..... 四
- 防禦海面令 ..... 四
- 要塞地帶法 ..... 四
- 不禮文書臨時取締法 ..... 四

刑法



# 刑法目次

## ○刑法(明治四〇年法律第四五號)

|             |                  |   |
|-------------|------------------|---|
| 第一編 總則      | 第一章 法例           | 一 |
|             | 第二章 刑            | 二 |
|             | 第三章 期間計算         | 四 |
|             | 第四章 刑ノ執行猶豫       | 四 |
|             | 第五章 假出獄          | 四 |
|             | 第六章 時效           | 五 |
|             | 第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免 | 五 |
|             | 第八章 未遂罪          | 六 |
|             | 第九章 併合罪          | 六 |
|             | 第十章 果犯           | 七 |
|             | 第十一章 共犯          | 八 |
|             | 第十二章 酌量減輕        | 八 |
|             | 第十三章 加減例         | 八 |
| 第二編 罪       |                  |   |
| 第一章 皇室ニ對スル罪 |                  | 九 |
| 第二章 内亂ニ關スル罪 |                  | 九 |

|                   |    |
|-------------------|----|
| 第三章 外患ニ關スル罪       | 一〇 |
| 第四章 國交ニ關スル罪       | 一〇 |
| 第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪   | 一一 |
| 第六章 逃走ノ罪          | 一一 |
| 第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪  | 一二 |
| 第七章ノ二 安寧秩序ニ對スル罪   | 一二 |
| 第八章 騷擾ノ罪          | 一二 |
| 第九章 放火及ヒ失火ノ罪      | 一三 |
| 第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪   | 一四 |
| 第十一章 往來ヲ妨害スル罪     | 一五 |
| 第十二章 住居ヲ侵スル罪      | 一五 |
| 第十三章 祕密ヲ侵スル罪      | 一六 |
| 第十四章 阿片煙ニ關スル罪     | 一六 |
| 第十五章 飲料水ニ關スル罪     | 一六 |
| 第十六章 通貨偽造ノ罪       | 一七 |
| 第十七章 文書偽造ノ罪       | 一七 |
| 第十八章 有價證券偽造ノ罪     | 一七 |
| 第十九章 印章偽造ノ罪       | 一九 |
| 第二十章 偽證ノ罪         | 一九 |
| 第二十一章 誣告ノ罪        | 二〇 |
| 第二十二章 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪 | 二〇 |
| 第二十三章 賭博及ヒ官籤ニ關スル罪 | 二〇 |



第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪……………三二

第二十五章 瀆職ノ罪……………三二

第二十六章 殺人ノ罪……………三三

第二十七章 傷害ノ罪……………三三

第二十八章 過失傷害ノ罪……………三三

第二十九章 墮胎ノ罪……………三三

第三十章 遺棄ノ罪……………三四

第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪……………三四

第三十二章 脅迫ノ罪……………三四

第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪……………三五

第三十四章 名譽ニ對スル罪……………三五

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪……………三五

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪……………三五

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪……………三六

第三十八章 横領ノ罪……………三六

第三十九章 贓物ニ關スル罪……………三七

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪……………三七

○刑法施行法(明治四一年法律第二九號)……………三八

○舊刑法(明治一三年太政官布告第三六號)……………三三

第一編 總 則……………三三

第二章 刑 例……………三三

第三節 附加刑處分……………三三

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪……………三三

第四章 信用ヲ害スル罪……………三三

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪……………三三

第五章 健康ヲ害スル罪……………三三

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪……………三三

○刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件(明治四一年勅令第二一七號)……………三三

○刑法施行後施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件(明治四二年勅令第一二〇號)……………三三

○命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件(明治二三年法律第八四號)……………三四

○盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律(昭和五年法律第九號)……………三五

○治安維持法(昭和一六年法律第五四號)……………三六

第一章 罪……………三六

第二章 刑事手續……………三七

第三章 豫防拘禁……………三九

○爆發物取締罰則(明治一七年太政官布告第三二號)……………四二

○銃砲火藥類取締法(明治四三年法律第五三號)……………四三

○暴力行為等處罰ニ關スル法律(大正一五年法律第六〇號)……………四五

○決闘罪ニ關スル件(明治二二年法律第三四號)……………四六

○未成年者喫煙禁止法(明治三三年法律第三三號)……………四七

○未成年者飲酒禁止法(大正一一年法律第二〇號)……………四七

○紙幣類似證券取締法(明治三九年法律第五一號)……………四八

○通貨及證券模造取締法(明治二八年法律第二八號)……………四八

○外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル法律(明治三八年法律第六六號)……………四八

○印紙犯罪處罰法(明治四二年法律第三九號)……………四九

○印紙模造取締規則(大正五年大藏省令第一八號)……………五〇

○懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行為取締方(明治四二年內務省令第二〇號)……………五〇

○法人ノ役員處罰ニ關スル法律(大正四年法律第一八號)……………五一

○法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律(明治三三年法律第五二號)……………五一

○警察犯處罰令(明治四一年內務省令第一六號)……………五二

○治安警察法(明治三三年法律第三六號)……………五三

○行政執行法(明治三三年法律第八四號)……………五三

○行政執行法施行令(明治三三年勅令第二五三號)……………五八

○國防保安法(昭和一六年法律第四九號)……………五九

第一章 罪……………五九

第二章 刑事手續……………六〇

○國防保安法施行令(昭和一六年勅令第五四二號)……………六四

○軍機保護法(昭和一二年法律第七二號)……………六五

○軍用資源秘密保護法(昭和一四年法律第二五號)……………六七

○國境取締法(昭和一四年法律第五二號)……………七一

○防禦海面令(明治三七年勅令第一一號)……………七一

○要塞地帶法(明法三二年法律第一〇五號)……………七二

第一章 總 則……………七二

第二章 禁止及制限……………七三

第三章 罰 則……………七四

第四章 雜 則……………七五

附 則……………七五

○不穩文書臨時取締法(昭和一一年法律第四五號)……………七五



- 刑罰法 (明治四十年四月二十四日)
- 刑法 (法律第四十五號)
- 改正 大正一〇年第七七號、昭和一六年第六一號
- 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 刑法別冊ノ通之ヲ定ム
- 此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (明治四十一年勅令第六十三號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)
- 明治十三年第三十六號布告刑法ハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 第一章 總則
- 第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
- 帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ
- 第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
- 一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪

- 二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪
- 三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪
- 四 第四百四十八條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 五 第五百四十四條、第五百五十五條、第五百五十七條及ヒ第五百五十八條ノ罪
- 六 第六百六十二條及ヒ第六百六十三條ノ罪
- 七 第六百六十四條乃至第六百六十六條ノ罪及ヒ第六百六十四條第二項、第六百六十五條第二項、第六百六十六條第二項ノ未遂罪
- 第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス
- 一 第八條、第九條第一項ノ罪、第九條、第九十八條、第九十九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪
- 二 第九十九條ノ罪
- 三 第一百五十九條乃至第六十一條ノ罪
- 四 第六百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪
- 五 第七百七十六條乃至第七百七十九條、第八百八十一條及ヒ第八百八十四條ノ罪
- 六 第九百九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 七 第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪

### ○ 刑 法

(明治四十年四月二十四日) (法律第四十五號)

改正 大正一〇年第七七號、昭和一六年第六一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑法別冊ノ通之ヲ定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (明治四十一年勅令第六十三號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

明治十三年第三十六號布告刑法ハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

#### 第一章 總 則

第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

- 一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪

二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪

三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪

四 第四百四十八條ノ罪及ヒ其未遂罪

五 第五百四十四條、第五百五十五條、第五百五十七條及ヒ第五百五十八條ノ罪

六 第六百六十二條及ヒ第六百六十三條ノ罪

七 第六百六十四條乃至第六百六十六條ノ罪及ヒ第六百六十四條第二項、第六百六十五條第二項、第六百六十六條第二項ノ未遂罪

第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

一 第八條、第九條第一項ノ罪、第九條、第九十八條、第九十九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪

二 第九十九條ノ罪

三 第一百五十九條乃至第六十一條ノ罪

四 第六百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪

五 第七百七十六條乃至第七百七十九條、第八百八十一條及ヒ第八百八十四條ノ罪

六 第九百九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪

七 第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪



八 第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪

九 第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人

ノ死傷ニ致シタル罪

十 第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪

十一 第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪

十二 第二百三十條ノ罪

十三 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百

三十八條乃至第二百四十一條及ヒ第二百四十三

條ノ罪

十四 第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪

十五 第二百五十三條ノ罪

十六 第二百五十六條第二項ノ罪

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外

國人ニ付キ亦同シ

第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シ

タル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

一 第一百一條ノ罪及ヒ其未遂罪

二 第一百五十六條ノ罪

三 第九十三條、第九十五條第二項、第九十九

十七條乃至第九十七條ノ三ノ罪及ヒ第九十九

五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル

第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一

行為ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外

國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受

ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ

其輕キモノヲ適用ス

第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令

ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモ

ノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ

此限ニ在ラス

第二章 刑

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主

刑トシ沒收ヲ附加刑トス

第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁

錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長

期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ

重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以

テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長

キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス

寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監

獄ニ拘留ス

第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以

上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘留シ定役ニ服ス

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以

上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘留ス

第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テ

ハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ

一月以下ヲ降スコトヲ得

第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合

ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘

置ス

第十七條 科料八十錢以上二十圓未滿トス

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上

二年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以

下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

罰金ヲ併科シタル場合又ハ罰金ト科料ト併科シタ

ル場合ニ於ケル留置ノ期間ハ三年ヲ超ユルコトヲ得

ス科料ヲ併科シタル場合ニ於ケル留置ノ期間ハ六十

日ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金

又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置

ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判

確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執

行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルト

キハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ

其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合

ヲ以テ殘日數ニ充ツ

留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ

得ス

第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

一 犯罪行為ヲ組成シタル物

二 犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル物

三 犯罪行為ヨリ生シ若クハ之ニ因リ得タル物又

ハ犯罪行為ノ報酬トシテ得タル物

四 前號ニ記載シタル物ノ對價トシテ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル但犯



罪ノ後犯人以外ノ者情ヲ知りテ其物ヲ取得シタルトキハ犯人以外ノ者ニ屬スル場合ト雖モ之ヲ沒收スルコトヲ得

第十九條ノ二 前條第一項第三號及ヒ第四號ニ記載シタル物ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴スルコトヲ得

第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス

第二十一條 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス 拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時効期間ノ初日亦同シ 放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ

一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假

ニ出獄ヲ許スコトヲ得

第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲スコキトキ

四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス

一 死刑ハ三十年

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三十四年以上ハ十年、三年未滿ハ五年

四 罰金ハ三年

五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第三十三條 時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

第三十四條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス



**第三十七條** 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得テ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セズ但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

**第三十八條** 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

**第三十九條** 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

**第四十條** 瘡痍者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

**第四十一條** 十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

**第四十二條** 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

**第三十八條** 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

**第三十九條** 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

**第四十條** 瘡痍者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

**第四十一條** 十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

**第四十二條** 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

**第八章 未遂罪**

**第四十三條** 犯罪ノ實行ニ着手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

**第四十四條** 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

**第九章 併合罪**

**第四十五條** 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止テ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

**第四十六條** 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

**第四十七條** 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

**第八章 未遂罪**

**第四十三條** 犯罪ノ實行ニ着手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

**第四十四條** 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

**第九章 併合罪**

**第四十五條** 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止テ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

**第四十六條** 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

**第四十七條** 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

**第四十八條** 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

**第四十九條** 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

**第五十條** 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

**第五十一條** 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

**第五十二條** 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

**第五十三條** 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但

**第四十八條** 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

**第四十九條** 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

**第五十條** 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

**第五十一條** 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

**第五十二條** 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

**第五十三條** 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但

**第四十六條** 場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

**第五十四條** 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

**第四十九條** 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

**第五十五條** 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

**第十章 累犯**

**第五十六條** 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

**第四十六條** 場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

**第五十四條** 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

**第四十九條** 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

**第五十五條** 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

**第十章 累犯**

**第五十六條** 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス



第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタル後トキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

第六十二條 正犯ヲ補助シタル者ハ從犯トス

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ヲ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯ト

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス

六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

減ス

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

第七十一條 酌量減輕ヲ爲スコキトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

一 再犯加重

二 法律上ノ減輕

三 併合罪ノ加重

四 酌量減輕

第二章 罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條

天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行為アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行為アリタル者亦同シ

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行為アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

第二章 内亂ニ關スル罪

第七十七條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シ其他暴動ニ干與シタル者ハ三年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス



第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

第七十九條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第三章 外患ニ關スル罪

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直

接ニ戰國ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第四章 國交ニ關スル罪

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰國ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第九十四條 外國交戦ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲サザラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條ノ二 強制執行ヲ免ルル目的ヲ以テ財産ヲ隠匿、損壞若クハ假裝讓渡シ又ハ假裝ノ債務ヲ負擔シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條ノ三 偽計若クハ威力ヲ用ヒ公ノ競賣又ハ入札ノ公正ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

公正ナル價格ヲ害シ又ハ不正ノ利益ヲ得ル目的ヲ以テ談合シタル者亦同シ

第六章 逃走ノ罪

第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫



ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシムルキ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第一百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百三條 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第七條 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

第七條ノ二 安寧秩序ニ對スル罪

第一百五條ノ二 人心ヲ惑亂スルコトヲ目的トシテ虚偽ノ事實ヲ流布シタル者ハ五年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

銀行預金ノ取付其他經濟上ノ混亂ヲ誘發スルコトヲ目的トシテ虚偽ノ事實ヲ流布シタル者ハ七年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五條ノ三 戰時、天災其他ノ事變ニ際シ人心ノ惑亂又ハ經濟上ノ混亂ヲ誘發スヘキ虚偽ノ事實ヲ流布シタル者ハ三年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五條ノ四 戰時、天災其他ノ事變ニ際シ暴利ヲ得ルコトヲ目的トシテ金融界ノ擾亂、重要物資ノ生産又ハ配給ノ阻害其他ノ方法ニ依リ國民經濟ノ運行ヲ著シク阻害スル虞アル行爲ヲ爲シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ十萬圓以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第一百六條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 放火及ヒ失火ノ罪

第一百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第一百九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

第七條ノ二 安寧秩序ニ對スル罪

第一百五條ノ二 人心ヲ惑亂スルコトヲ目的トシテ虚偽ノ事實ヲ流布シタル者ハ五年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

銀行預金ノ取付其他經濟上ノ混亂ヲ誘發スルコトヲ目的トシテ虚偽ノ事實ヲ流布シタル者ハ七年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五條ノ三 戰時、天災其他ノ事變ニ際シ人心ノ惑亂又ハ經濟上ノ混亂ヲ誘發スヘキ虚偽ノ事實ヲ流布シタル者ハ三年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五條ノ四 戰時、天災其他ノ事變ニ際シ暴利ヲ得ルコトヲ目的トシテ金融界ノ擾亂、重要物資ノ生産又ハ配給ノ阻害其他ノ方法ニ依リ國民經濟ノ運行ヲ著シク阻害スル虞アル行爲ヲ爲シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ十萬圓以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第一百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百十一條 第九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第八條又ハ第九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第一百十二條 第八條及ヒ第九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百十三條 第八條又ハ第九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第一百十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百十五條 第九條第一項及ヒ第十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物



權ヲ負擔シ又ハ貨貨シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ  
燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同  
シ

**第一百十六條** 火ヲ失シテ第八條ニ記載シタル物又ハ  
他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ  
タル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル  
物又ハ第一百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シテ公共ノ  
危險ヲ生セシメタル者亦同シ

**第十七條** 火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシ  
メテ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル  
第九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例  
ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又  
ハ第一百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シテ公共ノ危險  
ヲ生セシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

**第一百十七條ノ二** 第一百十六條又ハ前條第一項ノ行爲カ  
業務上必要ナル注意ヲ怠リタルニ因ルトキ又ハ重大  
ナル過失ニ出テタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ三千  
圓以下ノ罰金ニ處ス

**第一百十八條** 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セ

シメ又ハ之ヲ遮斷シテ人ノ生命、身體又ハ財産ニ  
危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以  
下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之  
ヲ遮斷シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比  
較シ重キニ從テ處斷ス

**第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪**

**第一百十九條** 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ  
人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シ  
タル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

**第二十條** 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物  
ヲ浸害シテ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以  
上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、  
物權ヲ負擔シ又ハ貨貨シ若クハ保險ニ付シタル場合  
ニ限り前項ノ例ニ依ル

**第二十一條** 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ  
若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年  
以上十年以下ノ懲役ニ處ス

**第二十二條** 過失ニ因リ溢水セシメテ第一百十九條ニ  
記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第一百二十條ニ記載

シタル物ヲ浸害シテ公共ノ危險ヲ生セシメタル者  
ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第二十三條** 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利  
ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲  
シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以  
下ノ罰金ニ處ス

**第十一章 往來ヲ妨害スル罪**

**第二十四條** 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シ  
テ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又  
ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ  
罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

**第二十五條** 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方  
法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル  
者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ  
往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

**第二十六條** 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ  
破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又

ハ無期懲役ニ處ス

**第二十七條** 第一百二十五條ノ罪ヲ犯シテ汽車又ハ  
電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ  
致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

**第二十八條** 第一百二十四條第一項、第二十五條及  
七、第二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

**第二十九條** 過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來  
ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壞  
又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以  
下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年  
以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

**第十二章 住居ヲ侵スル罪**

**第三十條** 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、  
建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所  
ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下  
ノ罰金ニ處ス

**第三十一條** 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ  
侵入シタル者ハ三年以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

**第三十二條** 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス



第十三章 秘密ヲ侵ス罪  
第三百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルロトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禮記ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルロトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四章 阿片煙ニ關スル罪  
第三百三十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十八條 税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第四百十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章 通貨偽造ノ罪  
第四百十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第四百十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第五百十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

以下ノ懲役ニ處ス  
第三百三十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五章 飲料水ニ關スル罪  
第四百十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水

第五百十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五百十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

第五百十三條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第十七章 文書偽造ノ罪  
第五百十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

第五百十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ



一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第一百五十七條 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又

ハ虛偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ捺捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ  
前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ  
第一百六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

第一百六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第一百六十八條 第一百六十四條第二項、第一百六十五條第二項、第一百六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十章 偽證ノ罪  
第一百六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第一百七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八章 有價證券偽造ノ罪

第一百六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

第一百六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九章 印章偽造ノ罪

第一百六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス  
御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

第一百六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ



同シ

第二十一章 誣告ノ罪

第七十二條 人ヲシテ刑事事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ

第七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十二章 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

第七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

第七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲

役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同

第七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

第七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第八十一條 第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第八十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラ

第八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役

第九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第九十一條 第八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五章 瀆職ノ罪

第九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者



被拘禁者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス不請託ヲ受ケタル場合ニ於テハ五年以下ノ懲役ニ處ス

公務員又ハ仲裁人タラントスル者其擔當スヘキ職務ニ關シ請託ヲ受ケテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ公務員又ハ仲裁人ト爲リタル場合ニ於テハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第九十七條ノ二 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ請託ヲ受ケテ第三者ニ賄賂ヲ供與セシメ又ハ其供與ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第九十七條ノ三 公務員又ハ仲裁人前二條ノ罪ヲ犯シ因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス  
公務員又ハ仲裁人其職務上不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササリシコトニ關シ賄賂ヲ收受、要求若クハ約束シ又ハ第三者ニ之ヲ供與セシメ其供與ヲ

要求若クハ約束シタルトキ亦同シ

公務員又ハ仲裁人タリシ者其在職中請託ヲ受ケテ職務上不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササリシコトニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第九十七條ノ四 犯人又ハ情ヲ知リタル第三者ノ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

第九十八條 第九十七條乃至第九十七條ノ三ニ規定スル賄賂ヲ供與シ又ハ其申込若クハ約束ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六章 殺人ノ罪  
第九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十八章 過失傷害ノ罪  
第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九章 墮胎ノ罪  
第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三條 第九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罪ス

第二十七章 傷害ノ罪  
第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ら人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル



前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十章 遺棄ノ罪

第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十八條 老幼、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十二章 脅迫ノ罪

第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シテ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

對シテ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シテ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

第二百二十三條 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シテ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シテ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十五條 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

第二百二十七條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隠避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル者ハ第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ効ナシ

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セズ

第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隠避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル者ハ第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ効ナシ

第三十四章 名譽ニ對スル罪

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セズ

第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

對シテ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シテ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

第二百二十三條 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シテ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シテ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス

第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

竊盜及ヒ強盜ノ罪

竊盜及ヒ強盜ノ罪

竊盜及ヒ強盜ノ罪

竊盜及ヒ強盜ノ罪

竊盜及ヒ強盜ノ罪



第二百四十條 強盗人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十一條 強盗婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百四十四條 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス  
親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

第三十八章 横領ノ罪

第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十四條 遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

第三十九章 贓物ニ關スル罪

第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス  
贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス  
親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十九條 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス  
附 則 (昭和十六年法律第六十一號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十六年勅令第二百二十三號ヲ以テ同年三月二十日ヨリ施行)



○刑法施行法

(明治四十一年三月二十八日)

改正

明治四十二年第四號、同年第三九號、明治四三年第五三號、大正五年第一五號、同年第一七號、大正一〇年第六八號、大正一一年第七一號、同年第七五號、昭和二年第四七號、昭和二年第七二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑法施行法

第一條 本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

|      |                  |
|------|------------------|
| 死刑   | 死刑               |
| 無期懲役 | 無期徒刑             |
| 無期禁錮 | 無期徒刑             |
| 有期懲役 | 無期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮 |
| 有期禁錮 | 有期流刑、重禁錮、輕禁錮、輕禁錮 |
| 罰金   | 罰金               |
| 拘留   | 拘留               |
| 科料   | 科料               |

第三條 法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

第四條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

第五條 刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ對稱公權、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セズ

第六條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付テハ刑法施行前又ハ後ニ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付テハ左ノ例ニ依リ

|  |   |
|--|---|
| 一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ他ノ法律ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付テ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス | 一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ他ノ法律ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付テ併合罪ニ關スル規定ニ依ル |
| 二 確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ他ノ法律ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付テ併合罪ニ關スル規定ニ依ル  | 二 確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ他ノ法律ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付テ併合罪ニ關スル規定ニ依ル |

第七條 左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付テ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ他ノ法律ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

二 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減輕刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第八條 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ他ノ法律ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第十條 刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付テ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付テ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ確定裁判アリタル罪ト其罪トニ付テ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付テ確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付テ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト餘罪トニ付テ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十二條 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行、假出獄及ヒ時効ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞務場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲ス可シ

第十四條 刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖モ刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ



第十五條 刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ圖閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

刑務執行前罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ準用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

第十七條 關席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十八條 剽奪公權、停止公權、監視及附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ徵收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セス

附加ノ罰金ヲ納完セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ

第十九條 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剽奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セス但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

第二十二條 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス

爆發物取締罰則第十條ハ之ヲ廢止ス

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

第二十四條 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ内刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

一 第二編第四章第九節

二 〔第二編第五章第三節〕

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

第二十六條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

一 (削除)

二 (削除)

三 明治三十八年法律第六十六號ニ掲ケタル罪

四 通貨及證券模造取締法ニ掲ケタル罪

五 船舶法ニ掲ケタル罪

六 船員法ニ掲ケタル罪

七 船舶職員法ニ掲ケタル罪

八 船舶検査法ニ掲ケタル罪

九 戶籍法ニ掲ケタル罪

第二十七條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

一 著作權法ニ掲ケタル罪

二 (削除)

三 移民保護法ニ掲ケタル罪

第二十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルルコトナシ

第二十九條 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

第三十條 前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ト看做ス

第三十一條 拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス

第三十二條 他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑、無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三條 死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十四條 前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剽奪セラレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セス

第三十五條 六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

第三十六條 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス

第三十七條 他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサリシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條 乃至第五十二條 (廢止)

第五十三條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ



前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スコシ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

第五十五條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲スコシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スコシ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ仍ホ猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

第五十九條 明治三十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス

第六十條 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲スコシ

附則 本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス 刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

○舊刑法

(明治十三年七月十七日 太政官布告第三十六號)

第一編 總則

第二章 刑例

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

一 國民ノ特權

二 官吏ト爲ルノ權

三 勳章年金位記號恩給ヲ有スルノ權

四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

五 兵籍ニ入ルノ權

六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス

七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス

八 分數者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權

九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任

ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フヲ停止ス

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第四章 信用ヲ害スル罪

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ(輕禁錮)ニ處シ(二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加)ス

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ(輕禁錮)ニ處シ(三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加)ス

第二百三十五條 投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時ハ六月以上三年以下ノ(輕禁錮)ニ處シ(四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加)ス

第二百三十六條 調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐僞ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ(輕禁錮)ニ處シ(五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加)ス

第五章 健康ヲ害スル罪

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 (傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス)

第二百四十七條 (船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯ストヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ)

第二百四十八條 (傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ

處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス)

第二百四十九條 (獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス)

○刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件

(明治四十一年九月二十四日 勅令第二百十七號)

朕刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朕刑法施行中他ノ法律ニ關スル規定ハ刑法施行前ニ公布シタル命令ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第五百五十五號ハ之ヲ廢止ス

○刑法施行後施行ノ命令ニ掲ケタル刑

法ノ刑名ニ關スル件 (明治四十二年五月一日 勅令第二百二十號)

朕刑法施行後施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

朕刑法施行後施行ノ命令ニ於テ人ノ資格其ノ他ノ事項ニ關シ掲

刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件

刑法施行後施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件



ケタル刑法ノ刑名ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外左ノ例ニ從ヒ對照シタル舊刑法、舊陸軍刑法及舊海軍刑法ノ刑名ヲ包含ス

- 刑法ノ刑 舊刑法、舊陸軍刑法及舊海軍刑法ノ刑
- 死刑 死刑
- 懲役 無期徒刑、有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮、禁錮
- 罰金 無期徒刑、有期徒刑、重禁錮、輕禁錮
- 拘留 拘留
- 科料 科料

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
勳章勲章令附則第三項ハ之ヲ廢止ス

○命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件

(明治二十三年九月十八日) 法律第八十四號

朕命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
命令ノ條項ニ違犯スル者ハ各其ノ命令ニ規定スル所ニ從ヒ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

○陛下勳章令前ニ公布シタル命令ニ關スル

陛下勳章令前ニ公布シタル命令ニ關スル  
陛下勳章令前ニ公布シタル命令ニ關スル  
陛下勳章令前ニ公布シタル命令ニ關スル

○盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律

(昭和五年五月二十二日) 法律第九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 左ノ各號ノ場合ニ於テ自己又ハ他人ノ生命、身體又ハ貞操ニ對スル現在ノ危險ヲ排除スル爲メ犯人ヲ殺傷シタルトキハ刑法第三十六條第一項ノ防衛行爲アリタルモノトス
  - 一 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還セントスルトキ
  - 二 兇器ヲ携帯シテ又ハ門戶鑰匙等ヲ險越損壞シ若ハ鎖鑰ヲ開キテ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ニ侵入スル者ヲ防止セントスルトキ
  - 三 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ニ侵入シタル者又ハ要求ヲ受ケテ此等ノ場所ヨリ退去セザル者ヲ排斥セントスルトキ
- 前項各號ノ場合ニ於テ自己又ハ他人ノ生命、身體又ハ貞操ニ對スル現在ノ危險アルニ非ズト雖モ行爲者恐怖、驚愕、興奮又ハ狼狽ニ因リ現場ニ於テ犯人ヲ殺傷スルニ至リタルトキハ之ヲ罰セズ
- 第二條 常習トシテ左ノ各號ノ方法ニ依リ刑法第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條若ハ第二百三十九條ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ニ對シ竊盜ヲ以テ論ズベキトキハ三年以上、強盜ヲ以テ論ズベキトキハ七年以上ノ有期徒刑ニ處ス

- 一 兇器ヲ携帯シテ犯シタルトキ
  - 二 二人以上現場ニ於テ共同シテ犯シタルトキ
  - 三 門戶鑰匙等ヲ險越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ侵入シテ犯シタルトキ
  - 四 夜間人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ侵入シテ犯シタルトキ
- 第三條 常習トシテ前條ニ掲ゲタル刑法各條ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ニシテ其ノ行爲前十年内ニ此等ノ罪又ハ此等ノ罪ト他ノ罪トノ併合罪ニ付三回以上六月ノ懲役以上ノ刑ヲ執行ヲ受ケ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タルモノニ對シ刑ヲ科スベキトキハ前條ノ例ニ依ル
- 第四條 常習トシテ刑法第二百四十條前段ノ罪若ハ第二百四十一條前段ノ罪又ハ其ノ未遂罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ十年以上ノ懲役ニ處ス



○治安維持法 (昭和十六年三月十日) (法律第五十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル治安維持法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

治安維持法

第一章 罪

第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ懲役ニ處シテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第二條 前條ノ結社ヲ支援スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處シテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第三條 第一條ノ結社ヲ組織ヲ準備スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處シテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第四條 前三條ノ目的ヲ以テ集團ヲ結成シタル者又ハ集團ヲ指導シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處シテ前三條ノ目的ヲ以テ集團ニ參加シタル者又ハ集團ニ關シ前三條ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第五條 第一條乃至第三條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協賛若ハ煽動ヲ爲シ又ハ其ノ目的タル事項ヲ宣傳シ其ノ他其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第六條 第一條乃至第三條ノ目的ヲ以テ騷擾、暴行其ノ他生命、身體又ハ財産ニ害ヲ加フベキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第七條 國體ヲ否定シ又ハ神宮若ハ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スベキ事項ヲ流布スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ無期又ハ四年以上ノ懲役ニ處シテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八條 前條ノ目的ヲ以テ集團ヲ結成シタル者又ハ集團ヲ指導シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處シテ前條ノ目的ヲ以テ集團ニ參加シタル者又ハ集團ニ關シ前條ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九條 前八條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス情ヲ知リテ供與ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者亦同シ

第十條 私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者若ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十一條 前條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ

協議ヲ爲シ又ハ其ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十二條 第十條ノ目的ヲ以テ騷擾、暴行其ノ他生命、身體又ハ財産ニ害ヲ加フベキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十三條 前三條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス情ヲ知リテ供與ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者亦同シ

第十四條 第一條乃至第四條、第七條、第八條及第十條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五條 本章ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第十六條 本章ノ規定ハ何人ヲ問ハズ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

第二章 刑事手續

第十七條 本章ノ規定ハ第一章ニ掲グル罪ニ關スル事件ニ付之ヲ適用ス

第十八條 檢事ハ被疑者ヲ召喚シ又ハ其ノ召喚ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第十九條 檢事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル召喚狀ニハ命令ヲ爲シタル檢事ノ職、氏名及其ノ命令ニ因リ之ヲ發スル旨ヲモ記載スベシ

第二十條 召喚狀ノ送達ニ關スル裁判所書記及執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察官吏之ヲ行フコトヲ得

第二十一條 被疑者正當ノ事由ナクシテ前條ノ規定ニ依ル召喚

ニ應ゼズ又ハ刑事訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ檢事ハ被疑者ヲ勾引シ又ハ其ノ勾引ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第二十二條 前條第二項ノ規定ハ檢事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル召喚狀ニ付之ヲ適用ス

第二十三條 勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アルトキハ地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事ハ檢事長ノ許可ヲ受ケ一月毎ニ勾留ノ期間ヲ更新スルコトヲ得但シ通ジテ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十四條 勾留ノ事由消滅シ其ノ他勾留ヲ繼續スルノ必要ナシト思料スルトキハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ釋放セシムベシ

第二十五條 檢事ハ被疑者ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

刑事訴訟法第九十九條第一項ニ規定スル事由アル場合ニ於



テハ檢事ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スコトヲ得

第二十六條 檢事ハ被疑者ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

檢事ハ公訴提起前ニ限リ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ司法警察官ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

司法警察官檢事ノ命令ニ因リ被疑者又ハ證人ヲ訊問シタルトキハ命令ヲ爲シタル檢事ノ職、氏名及其ノ命令ニ因リ訊問シタル旨ヲ訊問調書ニ記載スベシ

第十八條 第二項及第三項ノ規定ハ證人訊問ニ付テハ準用ス

第二十七條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲シ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

前條第三項ノ規定ハ押收、搜索又ハ檢證ノ調書及鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問調書ニ付テハ準用ス

第十八條 第二項及第三項ノ規定ハ鑑定、通譯及翻譯ニ付テハ準用ス

第二十八條 刑事訴訟法中被告人ノ召喚、勾引及勾留、被告人及證人ノ訊問、押收、搜索、檢證、鑑定、通譯並ニ翻譯ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被疑事件ニ付テハ準用ス但シ保釋及責付ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 辯護人ハ司法大臣ノ豫メ指定シタル辯護士ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ但シ刑事訴訟法第四十條第二項ノ規定

ノ適用ヲ妨ゲズ

第三十條 辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付二人ヲ超ユルコトヲ得ズ

辯護人ノ選任ハ最初ニ定メタル公判期日ニ係ル召喚狀ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條 辯護人ハ訴訟ニ關スル書類ノ謄寫ヲ爲サントスルトキハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

辯護人ノ訴訟ニ關スル書類ノ閱覽ハ裁判長又ハ豫審判事ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ爲スベシ

第三十二條 被告事件公判ニ付セラレタル場合ニ於テ檢事必要アリト認ムルトキハ管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第一回公判期日ノ指定アリタル後ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ請求ハ事件ノ繫屬スル裁判所及移轉先裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ニ之ヲ爲スベシ

第一項ノ請求アリタルトキハ決定アル迄訴訟手續ヲ停止スベシ

第三十三條 第一章ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ規定スル第一審ノ判決ニ對シテハ直接上告ヲ爲スコトヲ得

上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

上告裁判所ハ第二審ノ判決ニ對スル上告事件ニ關スル手續ニ依リ裁判ヲ爲スベシ

第三十四條 第一章ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審ノ判決ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ上告裁判所同章ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノニ非ザルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由アルモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ヲ管轄控訴裁判所ニ移送スベシ

第三十五條 上告裁判所ハ公判期日ノ通知ニ付テハ刑事訴訟法第四百二十二條第一項ノ期間ニ依ラザルコトヲ得

第三十六條 刑事手續ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一般ノ規定ノ適用アルモノトス

第三十七條 本章ノ規定ハ第二十二條、第二十三條、第二十九條、第三十條第一項、第三十二條、第三十三條及第三十四條ノ規定ヲ除クノ外軍法會議ノ刑事手續ニ付テハ準用ス

此ノ場合ニ於テ刑事訴訟法第八十七條第一項トアルハ陸軍軍法會議法第四百三十三條又ハ海軍軍法會議法第四百三十三條、刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ陸軍軍法會議法第四百四十四條第一項又ハ海軍軍法會議法第四百四十六條第一項トシ第二十五條第二項中刑事訴訟法第四百十九條第一項ニ規定スル事由アル場合ニ於テハトアルハ何時ニテモトス

第三十八條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事長トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

ノ適用ヲ妨ゲズ

第三十條 辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付二人ヲ超ユルコトヲ得ズ

辯護人ノ選任ハ最初ニ定メタル公判期日ニ係ル召喚狀ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條 辯護人ハ訴訟ニ關スル書類ノ謄寫ヲ爲サントスルトキハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

辯護人ノ訴訟ニ關スル書類ノ閱覽ハ裁判長又ハ豫審判事ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ爲スベシ

第三十二條 被告事件公判ニ付セラレタル場合ニ於テ檢事必要アリト認ムルトキハ管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第一回公判期日ノ指定アリタル後ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ請求ハ事件ノ繫屬スル裁判所及移轉先裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ニ之ヲ爲スベシ

第一項ノ請求アリタルトキハ決定アル迄訴訟手續ヲ停止スベシ

第三十三條 第一章ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ規定スル第一審ノ判決ニ對シテハ直接上告ヲ爲スコトヲ得

上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

上告裁判所ハ第二審ノ判決ニ對スル上告事件ニ關スル手續ニ依リ裁判ヲ爲スベシ

第三十九條 第一章ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審ノ判決ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ上告裁判所同章ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタルモノト疑フニ足ルベキ顯著ナル事由アルモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ヲ管轄控訴裁判所ニ移送スベシ

第四十條 上告裁判所ハ公判期日ノ通知ニ付テハ刑事訴訟法第四百二十二條第一項ノ期間ニ依ラザルコトヲ得

第四十一條 刑事手續ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一般ノ規定ノ適用アルモノトス

第四十二條 本章ノ規定ハ第二十二條、第二十三條、第二十九條、第三十條第一項、第三十二條、第三十三條及第三十四條ノ規定ヲ除クノ外軍法會議ノ刑事手續ニ付テハ準用ス

此ノ場合ニ於テ刑事訴訟法第八十七條第一項トアルハ陸軍軍法會議法第四百三十三條又ハ海軍軍法會議法第四百三十三條、刑事訴訟法第四百四十四條第一項又ハ海軍軍法會議法第四百四十六條第一項トシ第二十五條第二項中刑事訴訟法第四百十九條第一項ニ規定スル事由アル場合ニ於テハトアルハ何時ニテモトス

第四十三條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事長トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

第四十四條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事長トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

第四十五條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事長トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

第四十六條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事長トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

第四十七條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事長トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

第四十八條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事長トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

第四十九條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事長トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

第五十條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事長トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

第五十一條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事長トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

第五十二條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事長トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

第五十三條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事長トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

第五十四條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事長トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス



ヲ得但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ監獄ニ假  
ニ收容スルコトヲ妨グズ  
前項ノ假收容ハ本人ノ陳述ヲ聽キタル後ニ非ザレバ之ヲ爲  
スコトヲ得ズ但シ本人陳述ヲ肯ゼズ又ハ逃亡シタル場合ハ  
此ノ限ニ在ラズ

第四十三條 前條ノ假收容ノ期間ハ十日トス其ノ期間内ニ豫  
防拘禁ノ請求ヲ爲サザルトキハ速ニ本人ヲ釋放スベシ

第四十四條 豫防拘禁ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ本人ノ  
陳述ヲ聽キ決定ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ本人  
ニ出頭ヲ命ズルコトヲ得

本人陳述ヲ肯ゼズ又ハ逃亡シタルトキハ陳述ヲ聽カズシテ  
決定ヲ爲スコトヲ得

刑ノ執行終了後豫防拘禁ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ刑  
ノ執行終了後ト雖モ豫防拘禁ニ付スル旨ノ決定ヲ爲スコト  
ヲ得

第四十五條 裁判所ハ事實ノ取調ヲ爲スニ付必要アル場合ニ  
於テハ參事人ニ出頭ヲ命ジ事實ノ陳述又ハ鑑定ヲ爲サシム  
ルコトヲ得

裁判所ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコ  
トヲ得

第四十六條 檢事ハ裁判所ガ本人ヲシテ陳述ヲ爲サシメ又ハ  
參事人ヲシテ事實ノ陳述若ハ鑑定ヲ爲サシムル場合ニ立會  
ヒ意見ヲ開陳スルコトヲ得

第四十七條 本人ノ屬スル家ノ戶主、配偶者又ハ四親等内ノ  
血族若ハ三親等内ノ姻族ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ輔佐人ト爲  
ルコトヲ得

輔佐人ハ裁判所ガ本人ヲシテ陳述ヲ爲サシメ若ハ參事人ヲ  
シテ事實ノ陳述若ハ鑑定ヲ爲サシムル場合ニ立會ヒ意見ヲ  
開陳シ又ハ參事ト爲ルベキ資料ヲ提出スルコトヲ得

第四十八條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ本人ヲ勾引スルコト  
ヲ得  
一 本人定リタル住居ヲ有セザルトキ  
二 本人逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキ  
三 本人正當ノ理由ナクシテ第四十四條第一項ノ出頭命令  
ニ應ゼザルトキ

第四十九條 前條第一號又ハ第二號ニ規定スル事由アルトキ  
ハ裁判所ハ本人ヲ豫防拘禁所ニ假ニ收容スルコトヲ得但シ  
已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ監獄ニ假ニ收容ス  
ルコトヲ妨グズ

本人監獄ニ在ルトキハ前項ノ事由ナシト雖モ之ヲ假ニ收容  
スルコトヲ得

第四十二條第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第五十條 別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外刑事訴訟法中勾引  
ニ關スル規定ハ第四十八條ノ勾引ニ、勾留ニ關スル規定ハ  
第四十二條及前條ノ假收容ニ付之ヲ準用ス但シ保釋及責付  
ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十一條 豫防拘禁ニ付セザル旨ノ決定ニ對シテハ檢事ハ  
即時抗告ヲ爲スコトヲ得

豫防拘禁ニ付スル旨ノ決定ニ對シテハ本人及輔佐人ハ即時  
抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十二條 別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外刑事訴訟法中決  
定ニ關スル規定ハ第四十四條ノ決定ニ、即時抗告ニ關スル

規定ハ前條ノ即時抗告ニ付之ヲ準用ス

第五十三條 豫防拘禁ニ付セラレタル者ハ豫防拘禁所ニ之ヲ  
收容シ改悛セシムル爲必要ナル處置ヲ爲スベシ

豫防拘禁所ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四條 豫防拘禁ニ付セラレタル者ハ法令ノ範圍内ニ於  
テ他人ト接見シ又ハ信書其ノ他ノ物ノ授受ヲ爲スコトヲ  
得

豫防拘禁ニ付セラレタル者ニ對シテハ信書其ノ他ノ物ノ檢  
閲、差押若ハ沒取ヲ爲シ又ハ保安若ハ懲戒ノ爲必要ナル處  
置ヲ爲スコトヲ得假ニ收容セラレタル者及本章ノ規定ニ依  
リ勾引狀ノ執行ヲ受ケ留置セラレタル者ニ付亦同ジ

第五十五條 豫防拘禁ノ期間ハ二年トス特ニ繼續ノ必要アル  
場合ニ於テハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得

豫防拘禁ノ期間滿了前更新ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ  
期間滿了後ト雖モ更新ノ決定ヲ爲スコトヲ得

更新ノ決定ハ豫防拘禁ノ期間滿了後確定シタルトキト雖モ  
之ヲ期間滿了ノ時確定シタルモノト看做ス

第四十條、第四十一條及第四十四條乃至第五十二條ノ規定  
ハ更新ノ場合ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ第四十九條第  
二項中監獄トアルハ豫防拘禁所トス

第五十六條 豫防拘禁ノ期間ハ決定確定ノ日ヨリ起算ス  
拘禁セラレザル日數又ハ刑ノ執行ノ爲拘禁セラレタル日數  
ハ決定確定後ト雖モ前項ノ期間ニ算入セズ

第五十七條 決定確定ノ際本人受刑者ナルトキハ豫防拘禁ハ  
刑ノ執行終了後之ヲ執行ス  
監獄ニ在ル本人ニ對シ豫防拘禁ヲ執行セントスル場合ニ於  
テ

テ移送ノ準備其ノ他ノ事由ノ爲特ニ必要アルトキハ一時拘  
禁ヲ繼續スルコトヲ得

豫防拘禁ノ執行ハ本人ニ對スル犯罪ノ搜查其ノ他ノ事由ノ  
爲特ニ必要アルトキハ決定ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ本  
人ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ之ヲ  
停止スルコトヲ得

刑事訴訟法第五百三十四條乃至第五百三十六條及第五百四  
十四條乃至第五百五十二條ノ規定ハ豫防拘禁ノ執行ニ付之  
ヲ準用ス

第五十八條 豫防拘禁ニ付セラレタル者收容後其ノ必要ナキ  
ニ至リタルトキハ第五十五條ニ規定スル期間滿了前ト雖モ  
行政官廳ノ處分ヲ以テ之ヲ退所セシムベシ

第四十條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第五十九條 豫防拘禁ノ執行ヲ爲サザルコト二年ニ及ビタル  
トキハ決定ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ本人ノ現在地ヲ管  
轄スル地方裁判所ノ檢事ハ事情ニ因リ其ノ執行ヲ免除スル  
コトヲ得

第四十條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第六十條 天災事變ニ際シ豫防拘禁所内ニ於テ避難ノ手段ナ  
シト認ムルトキハ收容セラレタル者ヲ他所ニ護送スベシ若  
シ護送スルノ暇ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放セラレタル者ハ解放後二十四時間内ニ豫防拘禁所又ハ  
警察官署ニ出頭スベシ

第六十一條 本章ノ規定ニ依リ豫防拘禁所若ハ監獄ニ收容セ  
ラレタル者又ハ勾引狀若ハ逮捕狀ヲ執行セラレタル者逃走  
シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス



前條第一項ノ規定ニ依リ解放セラレタル者同條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ亦前項ニ同シ

第六十二條 收容設備若ハ械具ヲ損壞シ、暴行若ハ脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第六十三條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六十四條 本法ニ規定スルモノノ外豫防拘禁ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 朝鮮ニ在リテハ豫防拘禁ニ關シ地方裁判所ノ爲スベキ決定ハ地方法院ノ合議部ニ於テ之ヲ爲ス

朝鮮ニ在リテハ本章中地方裁判所ノ檢察トアルハ地方法院ノ檢察、思想犯保護觀察法トアルハ朝鮮思想犯保護觀察令、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十六年勅令第五百五十三號ヲ以テ同年五月十五日ヨリ施行）

第一章ノ改正規定ハ本法施行前從前ノ規定ニ定メタル罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス但シ改正規定ニ定ムル刑ガ從前ノ規定ニ定メタル刑ヨリ重キトキハ從前ノ規定ニ定メタル刑ニ依リ處斷ス

第二章ノ改正規定ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

第三章ノ改正規定ハ從前ノ規定ニ定メタル罪ニ付本法施行前刑ニ處セラレタル者ニ亦之ヲ適用ス

本法施行前朝鮮刑事令第十二條乃至第十五條ノ規定ニ依リ爲シタル捜査手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ捜査手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

本法施行前朝鮮思想犯豫防拘禁令ニ依リ爲シタル豫防拘禁ニ關スル手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ豫防拘禁ニ關スル手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

○爆發物取締罰則

（明治十七年十二月二十七日）  
（太政官布告第三十二號）

改正 明治四一年第二九號、大正七年第三四號

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス  
右奉 勅旨布告候事

（別冊）

爆發物取締罰則

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財産ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期若クハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止ル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若

○銃砲火藥類取締法

（明治四十三年四月十三日）  
（法律第五十三號）

改正 大正六年第二號、大正一一年第二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル銃砲火藥類取締法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

銃砲火藥類取締法

第一條 銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造、變形若ハ修理ハ其ノ營業者又ハ行政官廳ノ許可若ハ委託ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ理化學上ノ實驗、鳥獸ノ捕獲及驅除、射的練習等ノ用ニ供スル火藥類ニ付命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 火藥、爆發ノ製造ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル會社ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合、行政官廳ノ許可ヲ受ケ新規發明ニ係ル火藥、爆發ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合又ハ前條但書ノ規定ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 銃砲、火藥類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營ムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケヘシ但シ製造業者カ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ卸賣ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

相續ニ依リ前項ノ營業ヲ繼續スル場合ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

銃砲ノ修繕又ハ改造ノ業ヲ營ム者ハ銃砲製造業者ト看做シ火藥類ノ變形又ハ修理ノ業ヲ營ム者ハ火藥類製造業者ト看做ス

クハ其使用ニ供スヘキ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ六月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 第一條乃至第五條ノ犯罪アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九條 第一條乃至第五條ノ犯罪者ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十條 （廢止）

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ其刑ヲ免除ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス



第四條 行政官廳ハ銃砲販賣業者及火藥類販賣業者ノ道府縣ニ於ケル定員ヲ設クルコトヲ得

製造業者及行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ委託額以上ノ同種類ノ火藥類ヲ製造スル者ニシテ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ販賣業ヲ兼スルモノハ前項ノ定員ニ算入セス

第五條 銃砲、火藥類ノ製造、變形、修理又ハ販賣ニ關シ許可ヲ受ケタル者行政官廳ニ於テ指定シタル期間内ニ其ノ事業ヲ開始セス若ハ事業開始後一年以上其ノ事業ヲ休止シタルトキ又ハ法令ニ違反シタルトキ又ハ公安秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第六條 軍用銃砲、火藥類ノ讓渡又ハ讓受ハ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ営ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 銃砲、火藥類ハ之ヲ行商シ又ハ市場若ハ露店其ノ他屋外ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第八條 銃砲、火藥類ノ輸出ハ其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ営ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 銃砲、火藥類ノ輸入ハ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者若ハ其ノ販賣ノ業ヲ営ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ銃砲、火藥類ノ製造所、貯藏所其ノ他銃砲、火藥類ヲ收藏スルノ疑アル場所ニ臨檢シ又ハ銃砲、火藥類及之ヲ收藏スルノ疑アル物

件若ハ營業上ノ帳簿其ノ他ノ書類ヲ検査セシムルコトヲ得

行政官廳ハ危害豫防ノ爲銃砲、火藥類ノ製造所若ハ火藥類ノ貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命シ又ハ火藥類ニ關シ若ハ其ノ貯藏、運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 行政官廳ハ保安上、軍事上又ハ外交上必要アリト認ムル場合ニ於テ銃砲、火藥類ノ輸出若ハ輸入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十二條 行政官廳ハ公安秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ銃砲、火藥類ノ授受、運搬、携帯ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十三條 前二條ノ場合ニ於テ行政官廳ハ銃砲、火藥類ノ假領置ヲ爲スコトヲ得

第十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

- 一 本法ノ適用ヲ受クヘキ銃砲、火藥類ノ範圍及新規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試験ノ爲製造スル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ製造、變形又ハ修理シ得ル普通火藥類ノ範圍
- 二 銃砲、火藥類ノ取引、授受、使用、運搬、貯藏其ノ他ノ取扱
- 三 銃砲、火藥類ノ取扱人及火藥類ノ作業主任者ニ關スル事項
- 四 銃砲、火藥類製造所及火藥類貯藏所ニ關スル事項
- 五 火藥類ヲ要スル工事又ハ工業ニ關スル事項

第十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ全部又ハ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ銃砲、火藥類ニ非サル他ノ武器又ハ爆發質物品ニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

本法ノ一部ヲ適用スルノ必要ナシト認ムル銃砲、火藥類ニ關シテハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條 第一條、第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ、許可ヲ受ケスシテ第三條ノ營業ヲ爲シ又ハ第五條若ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ又ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ未遂罪ヲ罰ス

第十七條 第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第十條第一項若ハ第十三條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者又ハ其ノ執行ニ際シ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類

ニ關スル事業ヲ行フ者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ營業又ハ事業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條 前二條ノ場合ニ於テハ罰金、科料又ハ沒收以外ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十三條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治四十四年勅令第十五號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）  
刑法施行法第二十五條第一項中第一號ヲ削リ以下各號順次繰上ク

爆發物取締罰則ハ本法ノ爲其ノ效力ヲ妨ケララルコトナシ

○暴力行爲等處罰ニ關スル法律  
（大正十五年四月十日）  
（法律第六十號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル暴力行爲等處罰ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ、團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ刑法第二百八條第一項、第二百二十二條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス



常習トシテ前項ニ掲ケル刑法各條ノ罪ヲ犯シタル者ノ罪亦前項ニ同シ

第二條 財産上不正ノ利益ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ前條第一項ノ方法ニ依リ面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第九十九條、第二百四條、第二百八條第一項、第二百二十二條、第二百二十三條、第二百三十四條、第二百六十條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ金品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ職務ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者及情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第九十五條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ前項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本法施行前刑法第二百八條第一項又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ニシテ本法ニ該當スルモノハ本法施行後ト雖告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セス

○決罰罪ニ關スル件 (明治二十二年十二月三十日) 法律第三十四號

決罰罪ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 決罰ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應ジタル者ハ六月以上二年以下ノ(重禁錮)ニ處シ(十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加)ス

第二條 決罰ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ(重禁錮)ニ處シ(二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加)ス

第三條 決罰ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決罰ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ(重禁錮)ニ處シ(五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加)ス

第五條 決罰ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ(誹毀)ノ罪ヲ以テ論ス

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

○未成年者喫煙禁止法 (明治三十三年三月七日) 法律第三十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル未成年者喫煙禁止法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

未成年者喫煙禁止法

第一條 未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違反シタル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ爲ニ所持スル煙草及器具ヲ沒收ス

第三條 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知リテ其ノ喫煙ヲ制止セサルトキハ一圓以下ノ科料ニ處ス

親權ヲ行フ者ニ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リテ處斷ス

第四條 未成年者ニ其ノ自用ニ供スルモノナルコトヲ知リテ煙草又ハ器具ヲ販賣シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○未成年者飲酒禁止法 (大正十一年三月三十日) 法律第二十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル未成年者飲酒禁止法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

未成年者飲酒禁止法

第一條 未成年者ハ酒類ヲ飲用スルコトヲ得ス

未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者若ハ親權者ニ代リテ之ヲ監督スル者亦前項ニ依リテ處斷ス

附則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○決罰罪ニ關スル件 (明治二十二年十二月三十日) 法律第三十四號

決罰罪ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 決罰ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應ジタル者ハ六月以上二年以下ノ(重禁錮)ニ處シ(十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加)ス

第二條 決罰ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ(重禁錮)ニ處シ(二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加)ス

第三條 決罰ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決罰ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ(重禁錮)ニ處シ(五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加)ス

第五條 決罰ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ(誹毀)ノ罪ヲ以テ論ス

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

○未成年者飲酒禁止法 (大正十一年三月三十日) 法律第二十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル未成年者飲酒禁止法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

未成年者飲酒禁止法

第一條 未成年者ハ酒類ヲ飲用スルコトヲ得ス

未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知リテ其ノ飲酒ヲ制止セサルトキハ一圓以下ノ科料ニ處ス

親權ヲ行フ者ニ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リテ處斷ス

第四條 營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ營業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則 本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



○紙幣類似證券取締法 (明治三十九年五月八日) (法律第五十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル紙幣類似證券取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 紙幣類似證券取締法
第一條 一樣ノ形式ヲ具ヘ箇々ノ取引ニ基カスシテ金額ヲ定メ多數ニ發行シタル證券ニシテ紙幣類似ノ作用ヲ爲スモノト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ其ノ發行及流通ヲ禁止スルコトヲ得
前項ノ規定ハ一樣ノ價格ヲ表示シテ物品ノ給付ヲ約束スル證券ニ付之ヲ準用ス
第二條 前條ニ依リ證券ノ發行及流通ヲ禁止シタルトキハ主務大臣ハ直ニ其ノ旨ヲ公告ス
禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ無効トス
第三條 禁止ニ違反シテ證券ヲ發行シ又ハ其ノ證券ヲ授受シタル者ハ一年以下ノ(重禁錮)又ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ證券ヲ沒收ス
禁止ニ違反シテ證券ヲ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ノ罰亦前項ニ同シ
第四條 禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

○通貨及證券模造取締法 (明治二十八年四月五日) (法律第二十八號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル通貨及證券模造取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 通貨及證券模造取締法
第一條 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス
第二條 前條ニ違反シタル者ハ一月以上三年以下ノ(重禁錮)ニ處シ(五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加)ス
第三條 第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ
第四條 第一條ニ掲ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス
○外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル法律 (明治三十八年三月二十日) (法律第六十六號)
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於テノ流通スル

- 金銀貨、紙幣、銀行券、帝國官府發行ノ證券ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ(重禁錮)又ハ(輕懲役)ニ處ス
金銀貨以外ノ硬貨ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ(輕懲役)又ハ二年以上五年以下ノ(重禁錮)ニ處ス
第二條 流通セシムルノ目的ヲ以テ偽造又ハ變造ニ係ル前條ニ記載シタル物ヲ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ前條ノ例ニ同シ
第三條 情ヲ知テ偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ヲ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ハ(輕懲役)又ハ六月以上五年以下ノ(重禁錮)ニ處ス
收得シタル後其ノ偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ハ其ノ名價三倍以下ノ罰金ニ處ス但シ二圓以下ニ降スコトヲ得ス
第四條 第一條ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供シ若ハ供セシムルノ目的ヲ以テ器械若ハ原料ヲ製造シ、授受シ若ハ準備シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ六月以上五年以下ノ(重禁錮)ニ處ス
第五條 販賣スルノ目的ヲ以テ第一條ニ記載シタル物ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル物ヲ製造シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ二年以下ノ(重禁錮)又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ニ記載シタル物ヲ販賣シタル者ハ前項ノ例ニ同シ
第六條 前條ニ規定シタル(輕罪)ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第七條 (本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス)
第八條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者偽造又ハ變造ニ係

- ル第一條ニ記載シタル物ノ未タ行使セラレサル前又ハ第五條ニ記載シタル物ノ未タ授付セラレサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ主刑ヲ免除スルコトヲ得
第九條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ外國ニ於テ確定裁判ヲ經タル者ト雖更ニ之ヲ處罰スルコトヲ妨ケス但シ犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得
第十條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス
官沒ニ關スル手續ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十一條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ニハ明治九年布告第五十七號ヲ準用ス
附則
本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十七年勅令第七十七號ハ之ヲ廢止ス
○印紙犯罪處罰法 (明治四十二年四月二十八日) (法律第三十九號)
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙犯罪處罰法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
印紙犯罪處罰法
第一條 行使ノ目的ヲ以テ帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ五年以下



ノ懸役ニ處ス行使ノ目的ヲ以テ印紙ノ消印ヲ除去シタル者亦同シ

第二條 偽造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章若ハ消印ヲ除去シタル印紙ヲ使用シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ、輸入シ若ハ移入シタル者ハ五年以下ノ懸役ニ處ス印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三條 帝國政府ノ發行スル印紙其ノ他印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ再ヒ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ第一條又ハ第二條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第五條 偽造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章又ハ消印ヲ除去シタル印紙ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス官沒ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

刑法施行法第二十五條第一項第二號及第二十六條第十一號ハ之ヲ削ル

○印紙模造取締規則

(大正五年七月二十日)

大藏省令第十八號

印紙模造取締規則左ノ通相定ム

印紙模造取締規則

帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノハ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ製造、輸入、移入、販賣、頒布又ハ使用スルコトヲ得ス前項ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ五圓以上ノ科料ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖方法提供ノ行爲取締方

(明治四十二年八月十日)

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖ノ方法ヲ用キムコトヲ提供シ又ハ投票ヲ募集スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル者ハ廳府縣長官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項禁止又ハ制限ヲ命セラレタル場合ニ於テ其ノ命令ニ違背シタル者ハ三月以下ノ懸役又ハ百圓以内ノ罰金情ヲ知リテ其ノ行爲ニ附隨シテ密贈ヲ申出又ハ提供ヲ應諾シ若ハ投票ヲ行ヒ又ハ投票ノ結果ニ依リ表彰物ヲ受ケタル者ハ科料ニ處ス本令ハ明治四十二年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス明治三十三年內務省令第二十六號ハ之ヲ廢止ス

○法人ノ役員處罰ニ關スル法律

(大正四年六月二十一日)

法律第十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル法人ノ役員處罰ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法人ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事、監查役又ハ監事ニシテ刑事訴訟又ハ刑ノ執行ヲ免レシムル爲合併其ノ他ノ方法ニ依リ法人ヲ消滅セシメタル者ハ五年以下ノ懸役ニ處ス

附則

本法ハ大正四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律

(明治三十三年三月十三日)

法律第五十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅及葉煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス但シ其ノ罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 (法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以

法人ノ役員處罰ニ關スル法律 法人ニ於テ租稅ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律

テ被告人トス

第三條 法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セサルキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス



○警察犯處罰令

(明治四十一年九月二十九日) 內務省令第十六號

改正 大正八年第一七號

警察犯處罰令左ノ通り之ヲ定ム

警察犯處罰令

- 第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス
- 一 故ナク人ノ居住者ハ看守セザル邸宅、建造物及船舶内ニ潛伏シタル者
- 二 寄賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合者ハ容止ヲ爲シタル者
- 三 一定ノ住居又ハ生業ヲシテ諸方ニ徘徊スル者
- 四 故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者
- 第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス
- 一 合力、喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者
- 二 乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 三 淫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品、入場券等ヲ配付シタル者
- 四 入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者
- 五 他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 六 新聞紙、雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛偽ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 七 新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者

- 八 申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者
- 九 祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者
- 十 自己占有ノ場所内ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知りテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者
- 十一 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ、横臥シ又ハ泥酔シテ徘徊シタル者
- 十二 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ淫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 十三 公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他豫防ノ裝置ヲ爲スノ義務ヲ怠リタル者
- 十四 劇場、寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ爲シタル者
- 十五 雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ増スノ行爲ヲ爲シタル者
- 十六 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説又ハ虛報ヲ爲シタル者
- 十七 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者
- 十八 病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ガタル者
- 十九 淫ニ催眠術ヲ施シタル者

- 二十 官職、位記、勳爵、學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者
- 二十一 官公署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ其ノ義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者
- 二十二 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障礙ヲ爲シタル者
- 二十三 河川、溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲シタル者
- 二十四 自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者
- 二十五 出入ヲ禁止シタル場所ニ淫ニ出入シタル者
- 二十六 官公署ノ榜示若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚濁シ若ハ撤去シタル者
- 二十七 水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其ノ現場ニ立入り若ハ其ノ場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者
- 二十八 淫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者
- 二十九 他人ノ田野、園圃ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者
- 三十 使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其ノ自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲ爲シタル者
- 三十一 淫ニ他人ノ身體ニ立塞リ又ハ追隨シタル者
- 三十二 他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及ホスヘキ場所ニ對シ物件ヲ抛擲シ又ハ放射シタル者
- 三十三 神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之

- ニ類スル物ヲ汚濁シタル者
- 三十四 人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ヘシク擬裝シタル者
- 三十五 一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者
- 三十六 不熟ノ果物、腐敗ノ肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者
- 三十七 淫ニ他人ノ繫キタル舟筏、牛馬其ノ他ノ獸類ヲ解放シタル者
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス
- 一 許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レカ保存ヲ爲シタル者
- 二 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ袒裼、裸體シ又ハ臀部、股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲ爲シタル者
- 三 街路ニ於テ尿尿ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者
- 四 淫ニ銃砲ヲ發射ヲ爲シ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ビタル者
- 五 家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ淫ニ火ヲ焚ク者
- 六 石灰其ノ他自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ忽ニシタル者
- 七 開業ノ產婆故ナク妊婦、產婦ノ招キニ應セサル者
- 八 故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者
- 九 炮煮、洗滌、剥皮等ヲ要セス其ノ備食用ニ供スヘキ飲食物ニ蓋蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者
- 十 淫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之レカ取除ノ



- 十一 義務ヲ怠リタル者
- 十二 監置ニ保ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者
- 十三 淫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ嘍シ又ハ驚逸セシメタル者
- 十四 狂犬、猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者
- 十五 公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シタル者
- 十六 淫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ工作物ヲ汚濁シ若ハ之ニ貼紙ヲ爲シ又ハ他人ノ標札、招牌、賣貨家札其ノ他標標ノ類ヲ汚濁シ若ハ撤去シタル者
- 十七 橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
- 十八 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ此ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者
- 十九 本令ニ規定シタル違反行爲ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○治安警察法

(明治三十三年三月十日) 法律第三十六號

改正 大正一一年第五九號、大正一五年第五八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル治安警察法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布ス

セシム

治安警察法

- 第一條 政事ニ關スル結社ノ主幹者(支社ニ在リテハ支社ノ主幹者)ハ結社組織ノ日ヨリ三日以内ニ社名、社則、事務所及其ノ主幹者ノ氏名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ツヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ
- 第二條 政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ヲ開カムトスル者ハ發起人ヲ定ムヘシ
- 第三條 發起人ハ到達スヘキ時間ヲ除キ開會三時間以前ニ集會ノ場所、年月日時ヲ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ツヘシ届出ノ時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス若ハ三時間以上中斷スルトキハ届出ハ其ノ效ヲ失フ
- 第四條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ會同スル所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ本條第二項ノ届出ヲ要セス
- 第五條 公事ニ關スル結社又ハ集會ニシテ政事ニ關セザルモノト雖安寧秩序ヲ保持スル爲届出ヲ必要トスルモノアルトキハ命令ヲ以テ第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得
- 第六條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セムトスルトキハ發起人ヨリ十二時間以前ニ會同スヘキ場所、年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ祭典、講社、學生、生徒ノ體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第七條 左ニ掲ケル者ハ政事上ノ結社ニ加入スルコトヲ得ス
  - 一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人

二 警察官

- 一 警官神職僧侶其ノ他諸宗教師
- 二 官立公立私立學校ノ教員學生生徒
- 三 女子
- 四 未成年者
- 五 公權剝奪及停止中ノ者
- 六 未成年者
- 七 公權剝奪及停止中ノ者
- 八 未成年者ハ公衆ヲ會同スル政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス
- 九 公權剝奪及停止中ノ者ハ公衆ヲ會同スル政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス
- 十 第六條 日本臣民ニ非サル者ハ政事上ノ結社ニ加入シ又ハ公衆ヲ會同スル政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス
- 十一 第七條 結社ハ法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設ケタルコトヲ得ス
- 十二 第八條 安寧秩序ヲ保持スル爲必要ナル場合ニ於テハ警察官ハ屋外ノ集會又ハ多衆ノ運動若ハ群集ヲ制限、禁止若ハ解散シ又ハ屋内ノ集會ヲ解散スルコトヲ得
- 十三 結社ニシテ前項ニ該當スルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 十四 第九條 集會ニ於テハ重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ヲ公判ニ付セザル以前ニ講談論議シ又ハ傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトヲ得ス
- 十五 集會ニ於テハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ犯罪人若ハ刑事被告入ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑事被告人ヲ陷害スルノ講談論議

議ヲ爲スコトヲ得ス

- 第十條 集會ニ於ケル講談論議ニシテ前條ノ規定ニ違背シ其ノ他安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル場合ニ於テハ警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ中止スルコトヲ得
- 第十一條 結社、集會又ハ多衆運動ニ關シ警察官ノ尋問アリタルトキハ主幹者、會長、發起人ニ於テ又ハ警察官ノ主幹者タル社員若ハ主幹者會同者ト認ムル者ニ於テ之ニ答フヘシ
- 第十二條 警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ニ臨監セシムルコトヲ得其ノ集會ニシテ政事ニ關セザルモノト雖安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキ亦同シ此ノ場合ニハ發起人ニ於テ又ハ警察官ノ主幹者會同者ト認ムル者ニ於テ警察官ノ求ムル席ヲ供スヘシ
- 第十三條 集會又ハ多衆運動ノ場合ニ於テ故ラニ喧擾シ又ハ狂暴ニ涉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ現場ヨリ退去セシムルコトヲ得
- 第十四條 集會及多衆ノ運動ニ於テハ武器又ハ兇器ヲ携帯スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ武器ヲ携帯スル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十五條 秘密ノ結社ハ之ヲ禁ス
- 第十六條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ相團結スルモノニ對シテハ第一條及第五條ヲ適用セス
- 第十七條 街頭其ノ他公衆ノ自由ニ交通スルコトヲ得ル場所ニ於テ文書、圖畫、詩歌ノ揭示、頒布、朗讀若ハ放吟又ハ言語形容其ノ他ノ作爲ヲ爲シ其ノ狀況安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ警察官ニ於テ禁止ヲ命スルコトヲ得



第十七條 (削除)

第十八條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要ト認ムルトキハ武器、爆發物又ハ武器ヲ仕込ミタル物件ノ携帯ヲ禁スルコトヲ得

第十九條 第一條ニ違背シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第二條第一項又ハ第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二項ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第四條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第五條又ハ第六條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス第五條又ハ第六條ニ違背シ入社セシメタル者亦同シ

第二十三條 第八條第一項ノ制限若ハ禁止ノ命ニ違背シ又ハ解散ヲ命セラレタル後仍舊散セサル者ハ二月以下ノ(輕禁錮)又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條第二項ノ禁止ノ命ニ違背シタル者ハ六月以下ノ(輕禁錮)又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第九條ニ違背シ又ハ第十條ノ中止ノ命ニ違背シタル者ハ三月以下ノ(輕禁錮)又ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十一條第一項ノ尋問ニ答ヘス若ハ答フルモ實ヲ以テセス又ハ第二項ノ場合ニ於テ警察官ノ臨監ヲ拒ミ若

ハ其ノ求ムル席ヲ供セサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第十二條ニ依リ退去ヲ命セラレタル後仍舊去セサル者ハ一月以下ノ(輕禁錮)又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第十三條ニ違背シタル者ハ三月以下ノ(輕禁錮)又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 秘密ノ結社ヲ組織シ又ハ秘密ノ結社ニ加入シタル者ハ六月以上一年以下ノ(輕禁錮)ニ處ス

第二十九條 第十六條ノ禁止ノ命ニ違背シタル者ハ一月以下ノ(輕禁錮)又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 (削除)

第三十一條 第十八條ノ禁ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ(重禁錮)ニ處ス

第三十二條 本法ニ關スル公訴ノ時効ハ六箇月トス

第三十三條 集會及政社法ハ之ヲ廢止ス

**○行政執行法** (明治三十三年六月二日) (法律第八十四號)

改正 明治四三年第五二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル行政執行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政執行法

第一條 當該行政官廳ハ泥醉者、瘋癲者自殺ヲ企ツル者其ノ他救護ヲ要スト認ムル者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加ヘ武器、兇器其ノ他危險ノ虞アル物件ノ假領置ヲ爲スコトヲ得

行、闘争其ノ他公安ヲ害スルノ虞アル者ニ對シ之ヲ豫防スル爲必要ナルトキ亦同シ

前項ノ檢束ハ翌日ノ日没後ニ至ルコトヲ得又假領置ハ三十日以内ニ於テ其ノ期間ヲ定ム

第二條 當該行政官廳ハ日出前、日没後ニ於テハ生命身體又ハ財產ニ對シ危害切迫セリト認ムルトキ又ハ博奕、密賣淫ノ現行アリト認ムルトキニ非サレハ現居住者ノ意ニ反シテ邸宅ニ入ルコトヲ得ス但シ旅店、劇酒店其ノ他夜間ト雖衆人ノ出入スル場所ニ於テ其ノ公開時間内ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 當該行政官廳ハ密賣淫犯者若ハ其ノ前科者ニシテ尙密賣淫ノ常習アル者ニ對シ其ノ健康ヲ診斷シ若ハ指定シタル醫師ノ檢診ヲ受ケシメ傳染性疾患ニ罹リ必要アリト認ムルトキハ病院ニ入ラシメ又ハ指定シタル醫師ノ治療ヲ受ケシメ治療ニ至ル迄指定シタル場所ニ居住セシメ其ノ外出ヲ禁止スルコトヲ得

前項療養ノ費用ハ本人又ハ媒合者ノ負擔トス但シ本人又ハ媒合者ニ於テ費用ヲ負擔スルノ資力ナシト認ムルトキハ應府縣警察費ヲ以テ支辨スヘシ

風俗上ノ取締ヲ要スル業ヲ爲ス者ノ居住其ノ他ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 當該行政官廳ハ天災、事變ニ際シ又ハ勅令ノ規定アル場合ニ於テ危害豫防若ハ衛生ノ爲必要ト認ムルトキハ土地、物件ヲ使用、處分シ又ハ其ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第五條 當該行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基ツキテ爲ス處分ニ依リ檢束ヲ行爲又ハ不行爲ヲ強制スル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコト

二 強制スヘキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハサルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ強制スヘキトキハ命令ノ規定ニ依リ二十五圓以下ノ過料ニ處スルコト

前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テ第一號ノ處分ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

行政官廳ハ第一項ノ處分ニ依リ行爲又ハ不行爲ヲ強制スルコト能ハスト認ムルトキ又ハ急迫ノ事情アル場合ニ非サレハ直接強制ヲ爲スコトヲ得

第六條 第三條及第五條ノ費用及第五條ノ過料ハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ徵收金ニ付國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス第一項ノ費用及過料ニ關スル繰替支辨、收入ノ所屬其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 認可又ハ許可ヲ受クルニ非サレハ所有スルコトヲ得サル物件行政廳ノ保管ニ歸シタル場合ニ於テ其ノ所有ヲ認許スヘカラサルトキハ其ノ所有權國庫ニ歸屬ス假領置ヲ爲シタル物件ニシテ一箇年以内ニ交付ヲ請求スル者ナキトキ亦同シ



○行政執行法施行令

(明治三十三年六月二日) (勅令第二百五十三號)

行政執行法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政執行法施行令

第一條 廳府縣長官ハ行政執行法第三條ノ健康診斷ヲ行フカ爲必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第二條 生命、身體若ハ財産ニ對シ危害切迫セリト認メ又ハ水陸ノ交通ニ危害ヲ及ホスノ虞アリト認メタルトキハ當該行政官廳ハ行政執行法第四條ニ依リ必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得

左ノ各號ニ掲ケタル土地、物件ニ關シテハ法令ノ規定ニ違背シ因テ危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ

一 崩壞又ハ人ヲ墮落セシムルノ虞アル場所

二 家屋其ノ他ノ工作物

三 船車其ノ他交通ノ用ニ供スル器具又ハ裝置

四 汽關、汽機及其ノ附屬裝置

五 前各號ニ掲ケタルモノノ外主務大臣ノ定メタル土地、物件

第三條 危害豫防ノ爲又ハ衛生上必要ト認ムル物品ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ必要ナル分量ヲ試驗ノ用ニ供スルコトヲ得

第四條 行政執行法第五條ノ過料ハ處分ヲ爲ス行政官廳ノ區

別ニ從ヒ左ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ス

一 各省大臣

二十五圓

二 廳府縣長官

十圓

三 其ノ他ノ行政官廳

五圓

第五條 行政執行法第五條ノ戒告ハ履行期間ヲ定メ且書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六條 行政執行法第五條ノ費用ノ徵收ハ現ニ要シタル費用及其ノ納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

過料ノ處分ハ其ノ金額及納期日ヲ決定シ決定書ノ正本ヲ義務者ニ交付シテ之ヲ爲スヘシ

第七條 行政執行法第五條ノ費用ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ヨリ之ヲ支出シ其ノ徵收金及過料ハ事務費ノ所屬ニ從ヒ國庫又ハ府縣經濟ニ收入スヘシ

前項ノ規定ハ行政執行法第三條ノ費用ニ付之ヲ準用ス但シ本人又ハ謀合者ヲシテ病院ニ辨償セシムルトキハ此ノ限ニ在ラス

附則

第八條 他ノ法令ノ規定ニ依リ行政官廳ニ於テ行政處分ヲ強制スル爲メ戒告ヲ爲ストキ、自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ若ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルトキ又ハ行政處分ヲ強制スル爲過料ニ處スルトキハ第五條、第六條及第七條第一項ノ規定ヲ準用ス

○國防保安法

(昭和十六年三月七日) (法律第四十九號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國防保安法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國防保安法

第一章 罪

第一條 本法ニ於テ國家機密トハ國防上外國ニ對シ秘密スルコトヲ要スル外交、財政、經濟其ノ他ニ關スル重要ナル國務ニ係ル事項ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ及之ヲ表示スル圖書物件ヲ謂フ

一 御前會議、樞密院會議、閣議又ハ之ニ準ズベキ會議ニ付セラレタル事項及其ノ會議ノ議事

二 帝國議會ノ秘密會議ニ付セラレタル事項及其ノ會議ノ議事

三 前二號ノ會議ニ付スル爲準備シタル事項其ノ他行政各部ノ重要ナル機密事項

第二條 本章ノ罰則ハ何人ヲ問ハズ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付亦之ヲ適用ス

第三條 業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國(外國ノ爲ニ行動スル者及外國人ヲ含ム以下ニ同シ)ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第四條 外國ニ漏泄シ又ハ公ニシタル目的ヲ以テ國家機密ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ國家機密ヲ探知シ又ハ收集シタル者之ヲ外國ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第五條 前二條ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第六條 業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者過失ニ因リ之ヲ外國ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ヲ以テ又ハ其ノ用途ニ供セラルル虞アルコトヲ知リテ外國ニ通報スル目的ヲ以テ外交、財政、經濟其ノ他ニ關スル情報ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第九條 外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ治安ヲ害スベキ事項ヲ流布シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十條 外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ金融界ノ擾亂、重要物資ノ生産又ハ配給ノ阻害其ノ他ノ方法ニ依リ國民經濟ノ運行ヲ著シク阻害スル虞アル行爲ヲ爲シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ十萬圓以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第十一條 第三條乃至第五條、第八條、第九條及前條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十二條 第三條乃至第五條、第九條又ハ第十條第一項ノ罪ヲ犯スコトヲ教唆シタル者ハ被教唆者其ノ實行ヲ爲スニ至